第十二輯 第九號

建築と社會

大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）（一部拾參錢）
昭和十年八月一日發行（毎月一回一日發行）（第十二輯第九號）

明日の建築

日本生命館懸賞
發表 入選圖案

昭和十年八月一日

日本建築協會

營業種目

三建式スチールサッシ、ドアー、シャッター	建材第一部取扱
其他各種銅製建具類	同
ブロンズドアー	同
ロバートソンメタル、天窓、通風器	同
富士スレート	同
モスラー金庫室設備	建材第二部取扱
金庫室建造用スチールクリート、及各種メタラス	同
グラツヂングマクビーン會社各種アラコツク	同
建築用人造石、富國石	同
セメント防水劑ハイドラライト	同
特許安全昇降機	同
ラスウキン各種鉄筋及建具金具金物一式	同
リチヤーズウヰルコツクス各種ドアーハンガー	同
各般電氣設備	電氣部取扱
特許萬歳コンクリート電柱	同
煖房、換氣、温濕度調整裝置	煖房部取扱
衛生、給水湯、汚水淨化裝置	衛生水道部取扱
煖房、衛生裝置用諸材料	煖房衛生材料販賣掛
レイ式重油燃燒機	同
アトラス氣送裝置	同
トロイ洗濯機械一式	同
製氷、冷藏、冷凍、冷房裝置	製氷冷藏部取扱
塵芥燒却及處理裝置、重油使用各種燒玻爐	同
其他建築諸材料並に附帶設備	鑒芥掛取扱

＝販賣設計監督工事請負＝

三機工業株式會社

本　店　東京市麹町區内幸町一ノ三(大阪ビル内)
電話銀座(57)5330—5335(6)2831—2833(3)

支　店　大阪市東區備後町二ノ二一(野村ビル内)
電話本町1166・1525

取扱店　各地三井物産株式會社支店機械部

(型錄贈呈)

商標 OHNO SHUTTER PATENTED 登錄

特許第七九三五號（延長許可）外十數件併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤッター〕

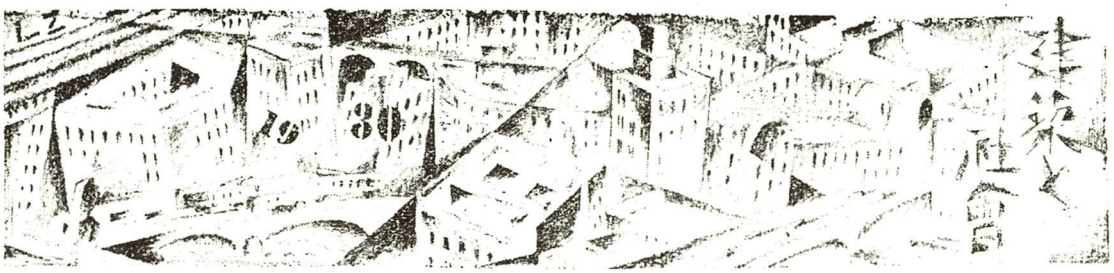
主要製品

大野式**シヤッター**
大野式自働防火鎧戸
大**野式**工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉
應用特殊機械類
特許不二式**サッシ**受托販賣

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)七三三七・八三三七番

八八五(45)島福電話・二中島福上區花此市阪大・所詰員張出付取



建築と社會第十三輯八月　明日の建築　目次

卷頭挿畫　住吉橋……本間乙彦…(一三)
卷頭言……本野精吾…(一四)
明日の建築……葛野壯一郎…(一五)
機械としての建築……三浦耀…(一七)
特殊より普遍へ……伊藤正文…(二〇)
―明日の建築―
集團美の表現……藤田進一郎…(二四)
―明日の都市建築―
住宅建築への回顧と展望……城戸久…(二七)
明日の建築界……中尾保…(三一)
正面より内容的考察へ……松成信夫…(三三)
明日の建築隨感……設樂貞三…(四一)
明日の建築……佐藤彰美…(四四)
―昨日の建築より―
明日の建築……南信…(四六)
あす建築……東夷生…(四八)
米國人の見た「モダーニズム」さはり……(五〇)



建築よ何處に往く？……（二・三・二五・二九・三三・三四・三五・三七・三八・三九・四三・四五・四七）

建築請負會社タイプと現場の管理……芝田知重…（五五）

福山城の用材……大須賀巖…（六二）

―アナクロ即ちクサマキに就て―

南海地動研究所現況報告……（六三）

サン・ドミンゴ燈臺設計入選案……（六四）

誌上講座 都市・建築・音響 (2)……佐藤武夫 中野勉…（六六）

附錄 寫眞・國際新建築集……（附二）

會報……（三二）　本誌廣告目次……（廣一六）

「婦人と住宅」に關する展覽會開催會告……（會三）

口繪

日本生命館新築懸賞圖案……（一）

特選 高橋貞太郎……（一）　入選 黒川仁三……（九）

同 出張竜三……（五）　同 矢部金太郎……（一〇）

同 下山猛……（六）　同 千葉元竜……（一〇）

入選 西村好時……（七）　選外佳作 安間清……（一一）

同 加崎章……（七）　同 佐藤三郎 牛尾美佐雄……（一一）

同 第一相互館營繕部有志……（八）　同 杉原啓一郎……（一一）

同 中村皓一……（八）　同 鈴木好助 土居和夫……（一一）

同 野村安太郎……（九）

鄉土建築寫眞實費分讓

寫眞大サ中判
定價一枚金貳拾錢
郵稅二十五枚迄金貳錢

吾々祖先の殘した建築にはきつい執着や懷古的なあこがれがありまして、その蹟を訪ねてこれを世に紹介し記錄に殘すことは祖先を溫めまた一面には次の時代へ引繼ぐべき吾々の當然の任務でせう「建築と社會」は昨年と今年との二回に亘り鄉土建築に就て特輯をやりました、處が斯の方面の隱れたる研究家が多い爲か大へん好評で兩誌に現れた珍しい寫眞を是非欲しいといふ御方が陸續ありますので、今度編輯部では本會藏版のものに限り實費で御頒ちすることにしました。

寫眞は中版の頗る鮮明なもので特に專門家が附添つて撮つたものですから充分自負し得ると思ひます、同好の御方で御希望の向は昨年四月號（第十二輯第四號）本年六七月號（第十三輯第六七號）の寫眞を御參照下さいまして別表の番號及名稱御記入の上御申込を願ます

No.	
一三〇一	草津「うばもちや」（現在のもの）
同一三〇二	ます又旅舍の側面外觀
同一三〇三	ます又旅舍の客室椽側
同一三〇四	龍樹神社祭禮恒例ケンケト踊
同一三〇五	土山町街道の一部
同一三〇六	土山町の某民家
同一三〇七	土山の本陣（現土山六郎氏邸）
同一三〇八	土山町の街道の一部と大正館（旅舍）
同一三〇九	土山町脇本陣（現大正館）廣椽
同一三一一	鈴鹿峠よりの遠望
同一三一一	鈴鹿峠トンネル
同一三一二	鈴鹿峠より鈴鹿明神を望む
同一三一三	阪下の民家の軒
同一三一四	天滿のある藏
同一三一五	北濱の裏長屋
同一三一六	佛光寺掛所の鐘樓
同一三一七	佛光寺掛所の正門
同一三一八	興正寺掛所鐘樓と裏門
同一三一九	佛光寺掛所（大阪、平野町御堂）
同一三二〇	佛光寺鐘樓、老舖十川みすや針店、高砂饅頭店
同一三二一	舊料亭鮒宇（大阪、網島）
同一三二二	同上藏構へ（同　上）
同一三二三	丹喜號岡本喜衛氏邸（釀造材料及藥商）（大阪、横堀）
同一三二四	同上軒蛇腹と看板（同上）
同一三二五	近江草津驛前の「うばもちや」
同一三二六	近江大野村今鄉の街道筋の農家

No.	
一三二七	近江大野村今鄉の農家の土間及臺所
同一三二八	近江水口町「ます又」旅舍の臺所
同一三二九	伊勢坂の下の民家
同一三三〇	伊勢關の「あいづや」
同一三三一	大阪島之內油屋近八商店
同一三三二	同上內部
同一三三三	大阪堀江油卸商「ますや」
同一三三四	同上內部油賣場
同一三三五	同上內部店の間
同一三三六	大阪淀屋橋葭入商「かぎや」
同一三三七	大阪一心寺茶席東側外觀
同一三三八	同上南側外觀
同一三三九	同上內部茶室
同一三四〇	大阪天王寺山田病院外觀（舊醫家建築）
同一三四一	同上內部座敷
同一三四二	同上茶室
同一三四三	大阪府下高鷲村豪家吉村彥次郎氏邸外觀
同一三四四	同上門納屋
同一三四五	同上內部座敷及欄間
同一三四六	同上臺所、女中部屋
同一三四七	大阪府下熊取村豪家中辰之助氏邸外觀
同一三四八	同上門（鎌倉時代）
同一三四九	同上玄關天井木組
同一三五〇	舊大阪藥品試驗株式會社正面現狀
同一三五一	同　上ポーチ
同一三五二	同　上二階大廣間と階段室
同一三五三	天滿天神の某社家

（協會藏版のものは插畫の各々に番號がありますから御參照下さい）

日本建築協會
團法人
社

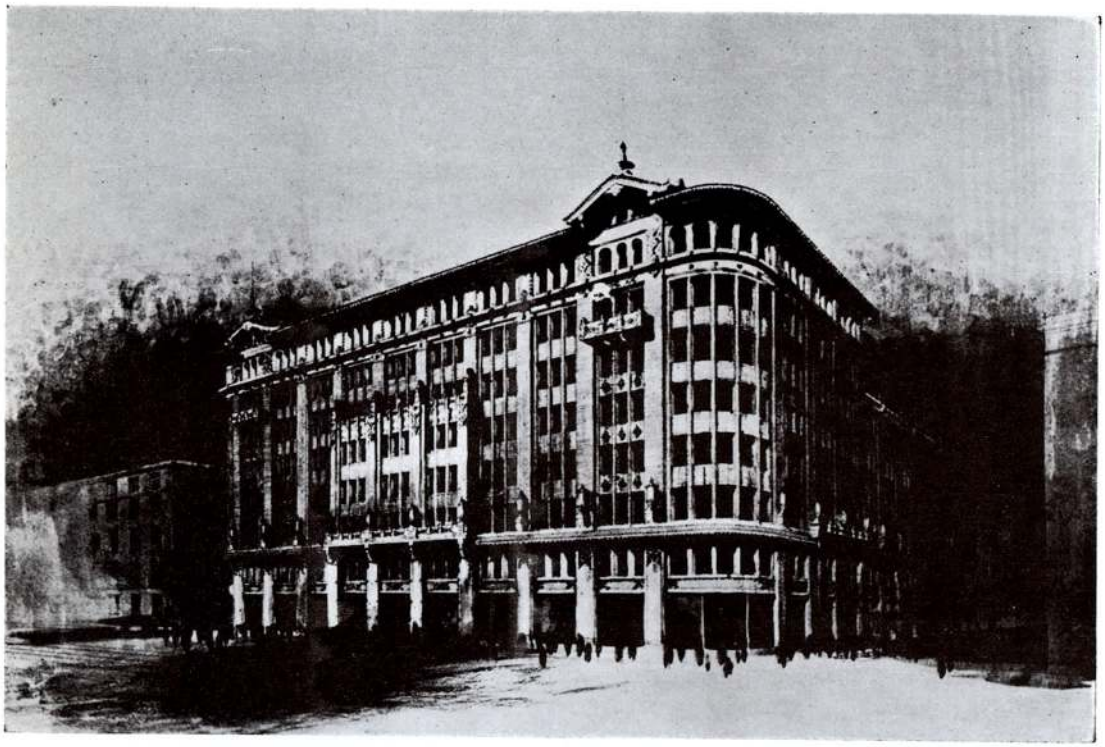
大阪西區土佐堀電話土佐堀4265
大同ビル720振替口座大阪39975


淺野波形板
母屋が木質でも鐵骨でも
野地板がなくも勾配が緩
くも取付られる
天下無敵の屋根材
淺野スレート株式會社
東京 大阪 門司 名古屋 札幌
淺野壁板
弱點の石綿セメント製ゆ
ふ下見・内壁・天井・間
仕切壁等に用ひて
比類なき最敵品

建築と社會第十三輯第八號

廣告目次

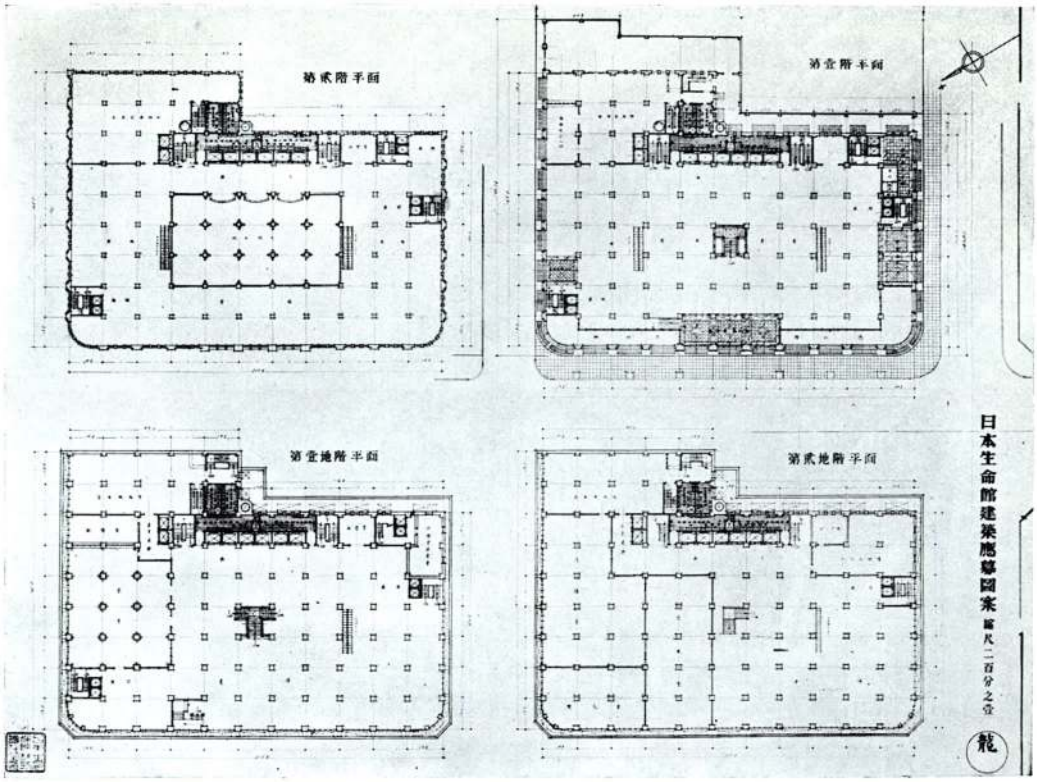
A
有山組……三三
安藤組大阪支店……三三
淺野スレート株式會社……一五
淺海商店……四四
阿部鐵工所……四二
C
中外電氣商會……四四
D
大和工業株式會社……七五
E
榮進社……三九
衛生工業商會……三六
F
藤田庄藏商店……六〇
藤田商會……四〇
藤木工務店……三二
古塚建築事務所……二七
H
橋本建築事務所……二七
原科建築事務所……二七
本間建築事務所……二七
I
池田建築事務所……二七
池田谷建築事務所……二七
池田組……二九
伊丹商店……四八
伊藤建築事務所……二七
岩元商店建材部……五〇
K
木下謹三商店……六五
熊取谷熊次郎商店……三二
岡枝工務所……二七
金剛商會大阪支店……三七
海外通商株式會社……七一
片岡、石本建築事務所……二六
桐田商會……四九
葛野建築事務所……二六
建築學會……九
建築金物商會……表紙四
鴻池組……三三
宏昌大理石工作所……三二
駒井鐵工所……三三
工村社(阪口芳三郎)……二二
亀谷開作商店……三一
M
宮島康夫商店……七一
松村組……三二
村上建築事務所……二六
森本建築社……三四
眞水三橋建築事務所……二六
万年スレート株式會社……一四
三井物産株式會社……五
N
ナンコク商事株式會社……一一
内外土木建築材料合資會社……六八
日本洋瓦株式會社大阪出張所……四六
日本木材工藝株式會社……七四
日本セメント防水劑製造所……六〇
日本スレート販賣株式會社大阪支店六六
日本ペイント製造株式會社……一七
日本ドアーチエック製作所……七〇
日本エレベーター製造株式會社……六
日本建築紙工株式會社大阪出張所……四七
日本工劑株式會社……六七
新田ベニヤ製作所……二三
西孫商店建築金物部……四三
西原衛生工業所大阪支店……二八
中川晨藏店……三一
中村建築事務所……二六
南滿鑛業株式會社……六五
野澤幸三郎商店……六四
野村建築事務所……二六
名古屋伊丹商店……四八
O
オリエンタルメタル製造所……六九
カキナ商店……五三
大阪ヒトロライト工事合資會社……一四
大阪製鎖所エレベーター部……三〇
大阪石膏株式會社……四七
大阪窯業セメント株式會社……一九
大阪橋本組……二九
大林組……三〇
大倉土木株式會社大阪出張所……二九
大野製作所……一
大阪建築所……二五
小笠原建築事務所……二五
小野木横井共同建築事務所……二五
奥村平兵衛商店……三八
岡本工務店……三〇
岡部建築事務所……二五
岡田建築材料店……五九
置盛建築事務所……二五
R
ラバロイド商會……一三
玲光社(木内眞太郎)……五八
S
須賀商會……四五
島貿易株式會社建材部……三
佐久間建材工業所……三五
佐渡島西店建材部……一二
佐伯組……三四
政正合資會社……六一
三五製作所……五六
三稜社……一〇
三機工業株式會社……表紙二
三機工業株式會社……一八
澤田合名會社……六二
笹岡家具裝飾店……三六
城口研究所大阪支店……六三
宗建築事務所……二五
設樂建築事務所……二四
清光社……五四
清水榮二建築事務所……二五
清水組大阪支店……三四
品川白煉瓦株式會社大阪タイル部……五六
T
東亞鐵工所……五五
東洋工材社……七三
東洋工業株式會社コルク部……一〇
東洋リノリユーム株式會社……八
東洋陶器株式會社入阪出張所……七二
田中工業株式會社……七六
田中源太郎商店……四
田中昌司商店……六八
田村商會……七
田村事務所……二四
高松菊次郎商店……二一
竹中工務店……三一
朝永建築事務所……二四
テーワイ商會……七三
V
ベニス工房……五二
W
WCフラッシュバルブ製作所……五二
Y
ユーニオントレーヂング……五一
米木商店……五八
山中商會……五七
安井建築事務所……二四
矢橋大理石商店……四〇
横河工務所……二四
横河橋梁製作所……四一
Z
錢高組……三四

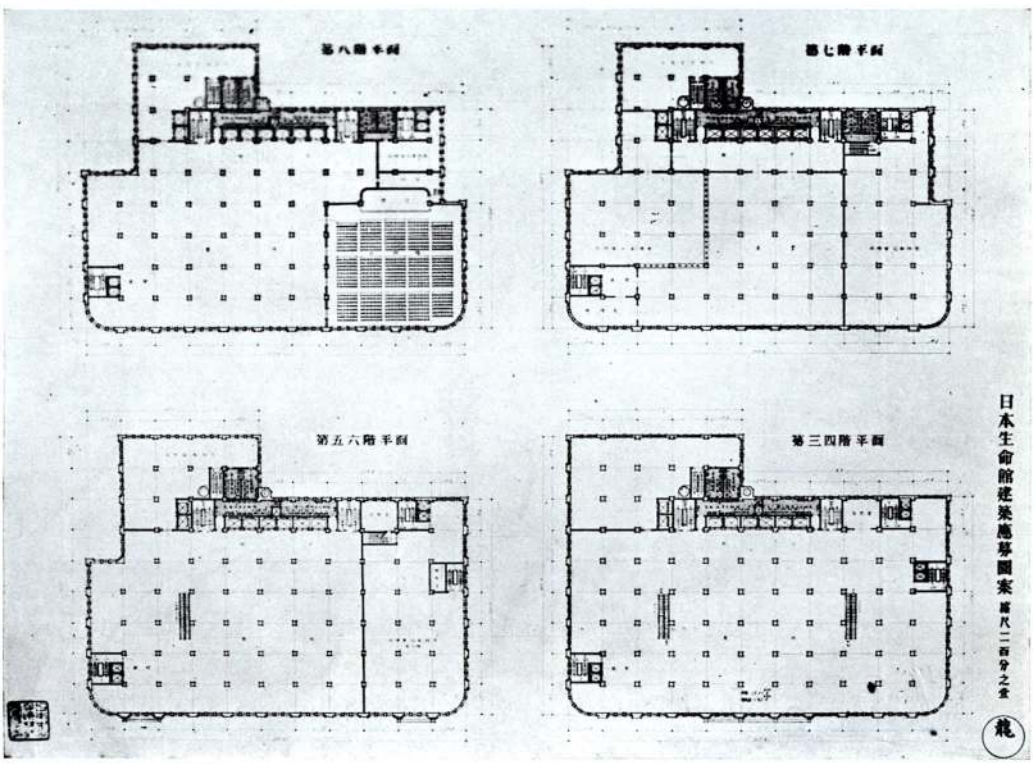


日本生命館新築懸賞圖案

特 選　設計者　高 橋 貞 太 郎 氏

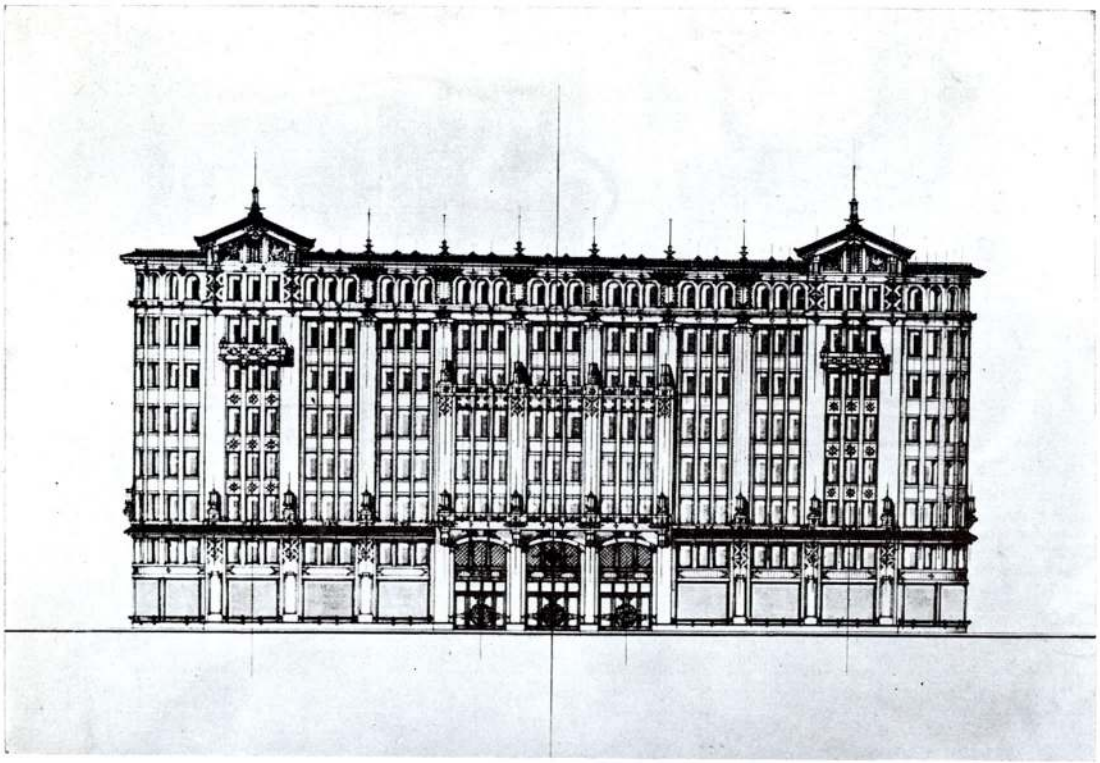
— 1 —

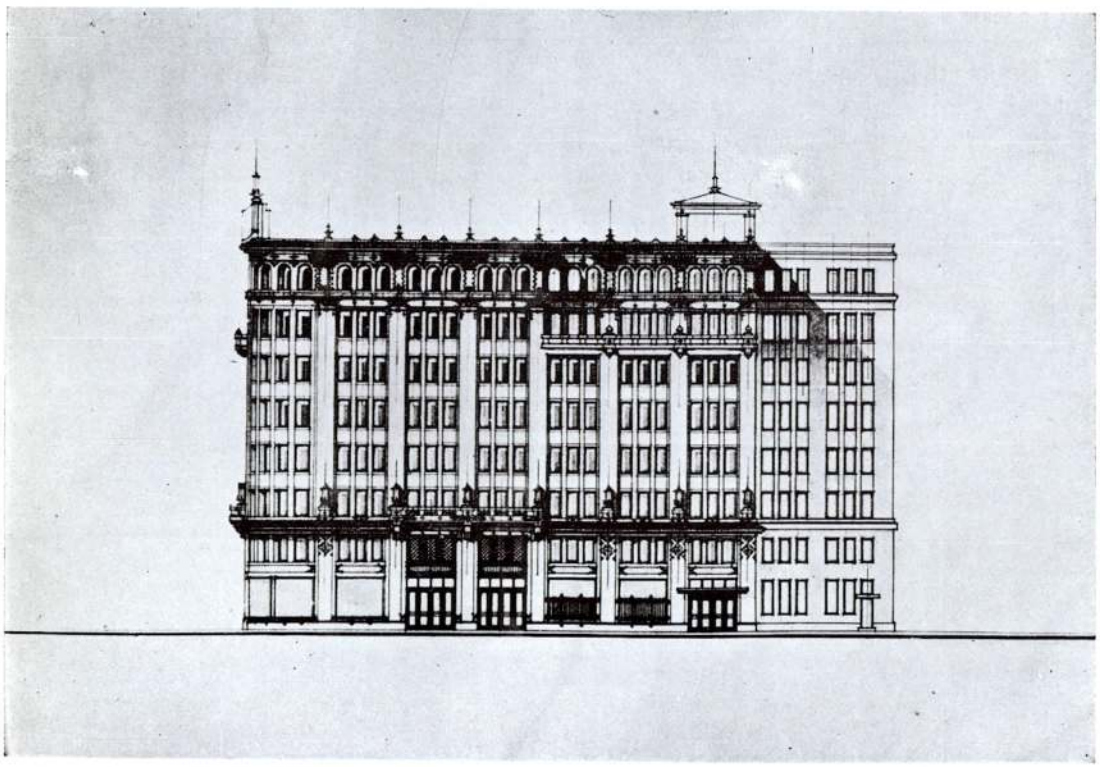




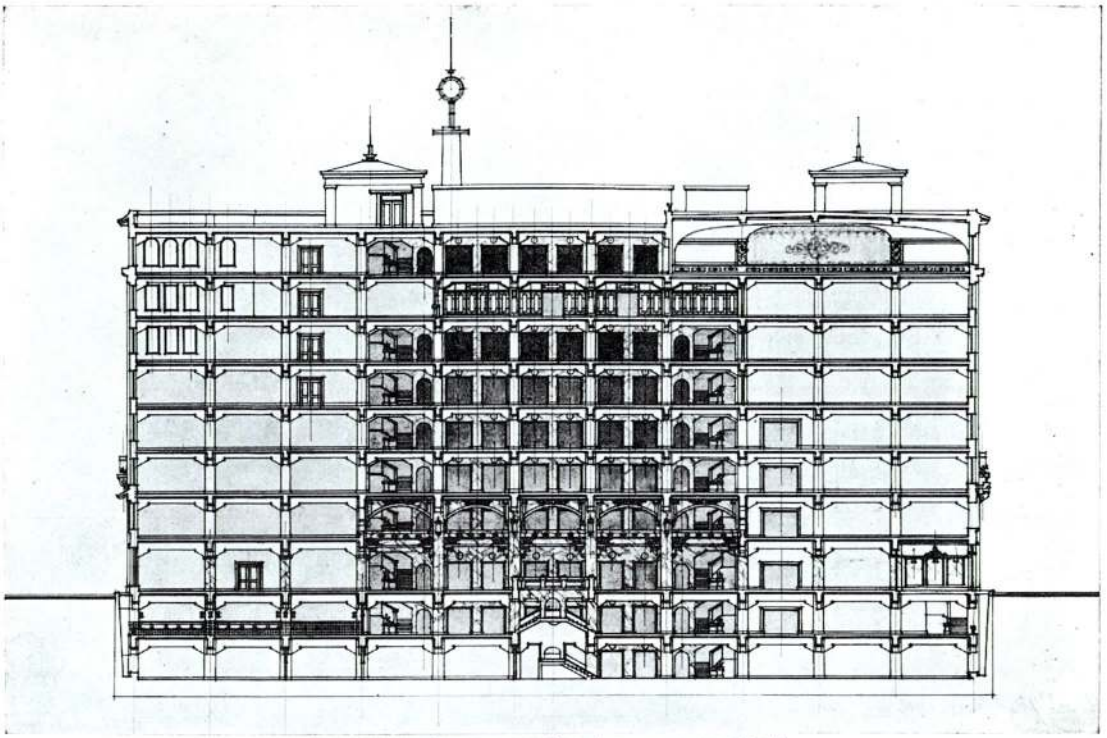
日本生命館新築懸賞圖案

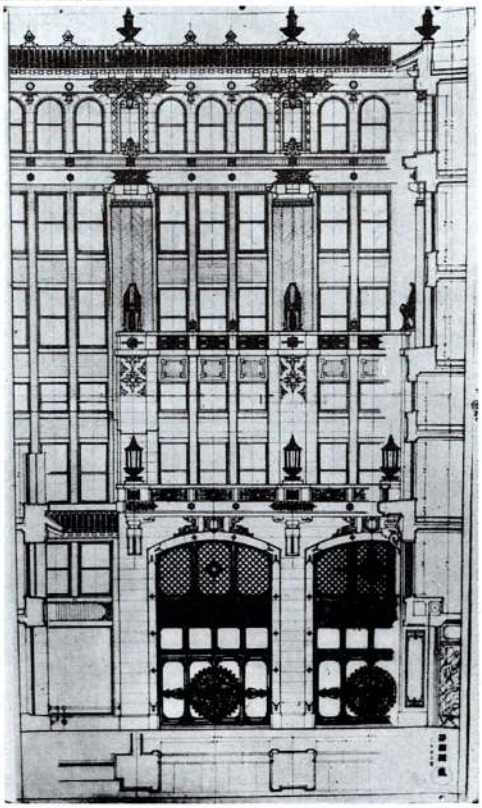
特選　設計者　高橋貞太郎氏





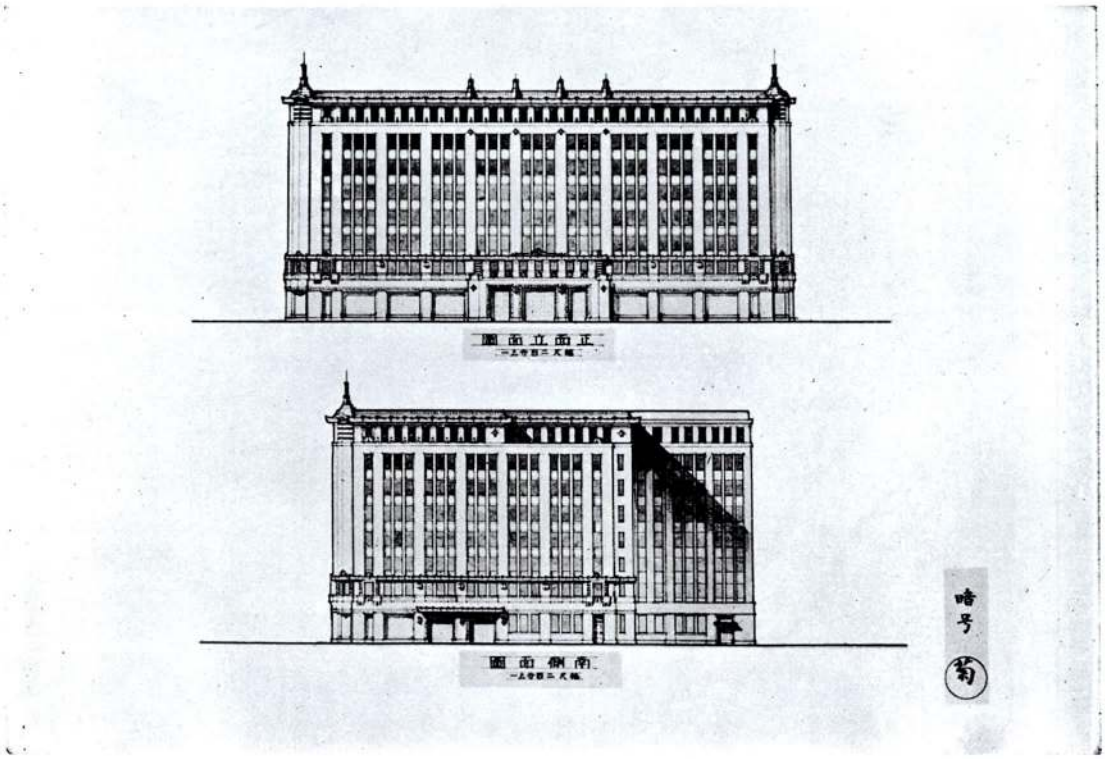
日本生命館新築懸賞圖案　　特 選　設計者 高 橋 貞 太 郎 氏



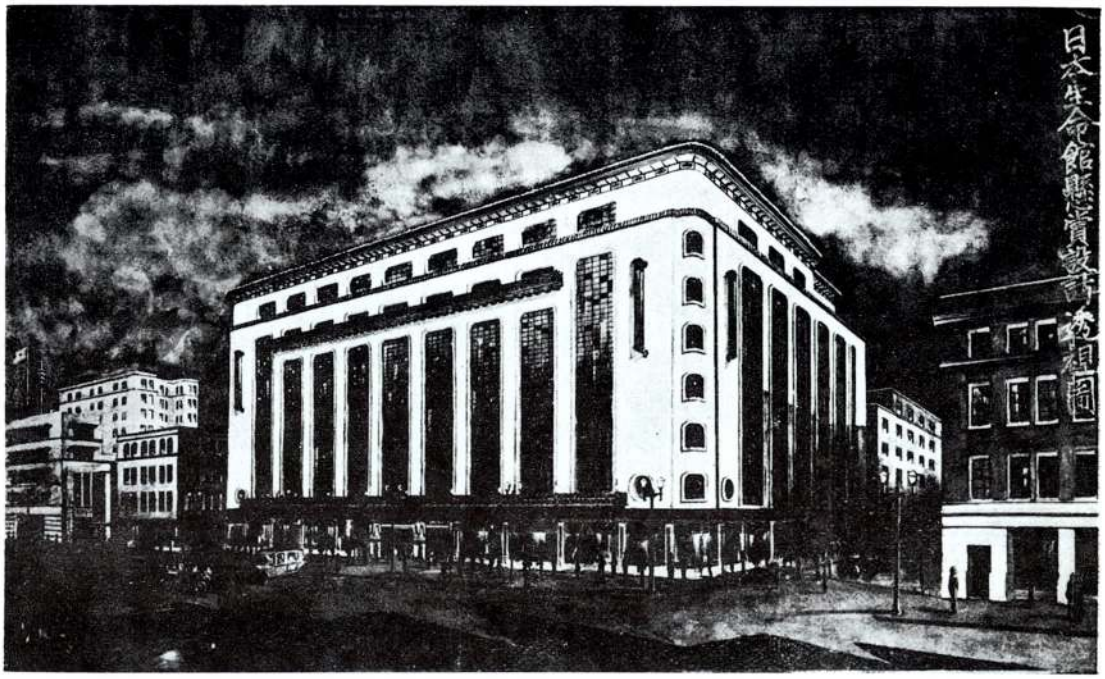


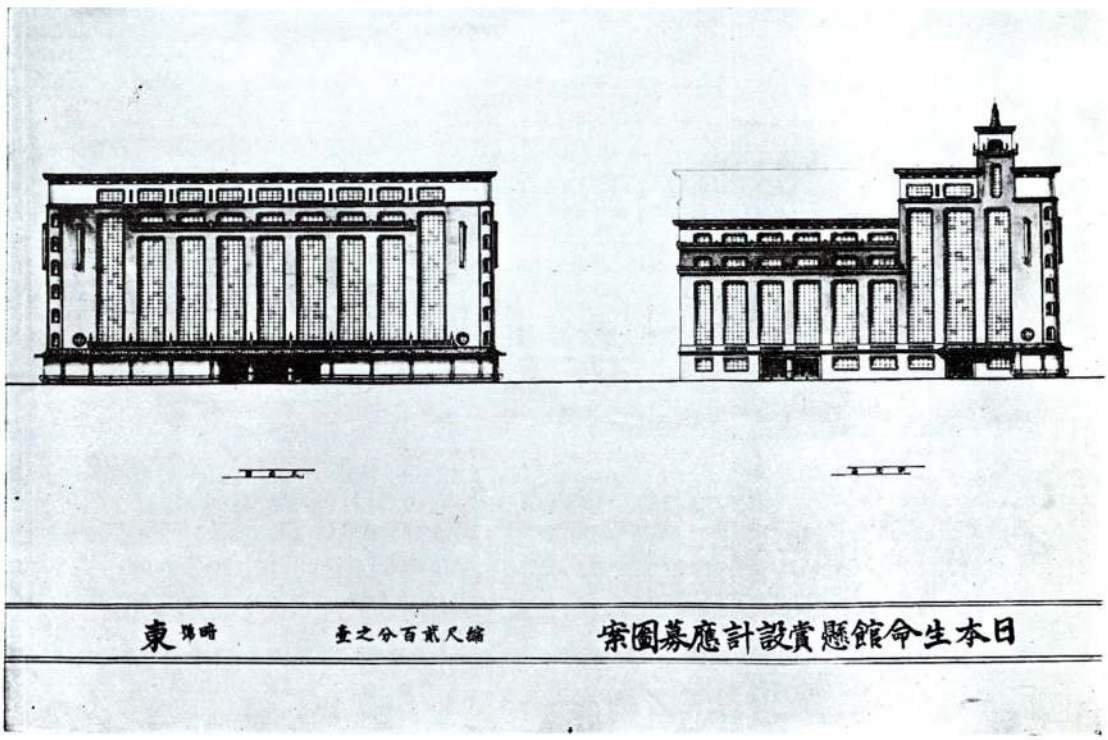
日本生命館新築懸賞圖案　　特 選　設計者 高 橋 貞 太 郎 氏





日本生命館新築懸賞圖案　　特選　設計者　出張竜三氏





日本生命館新築懸賞圖案

特選　設計者　下山猛氏

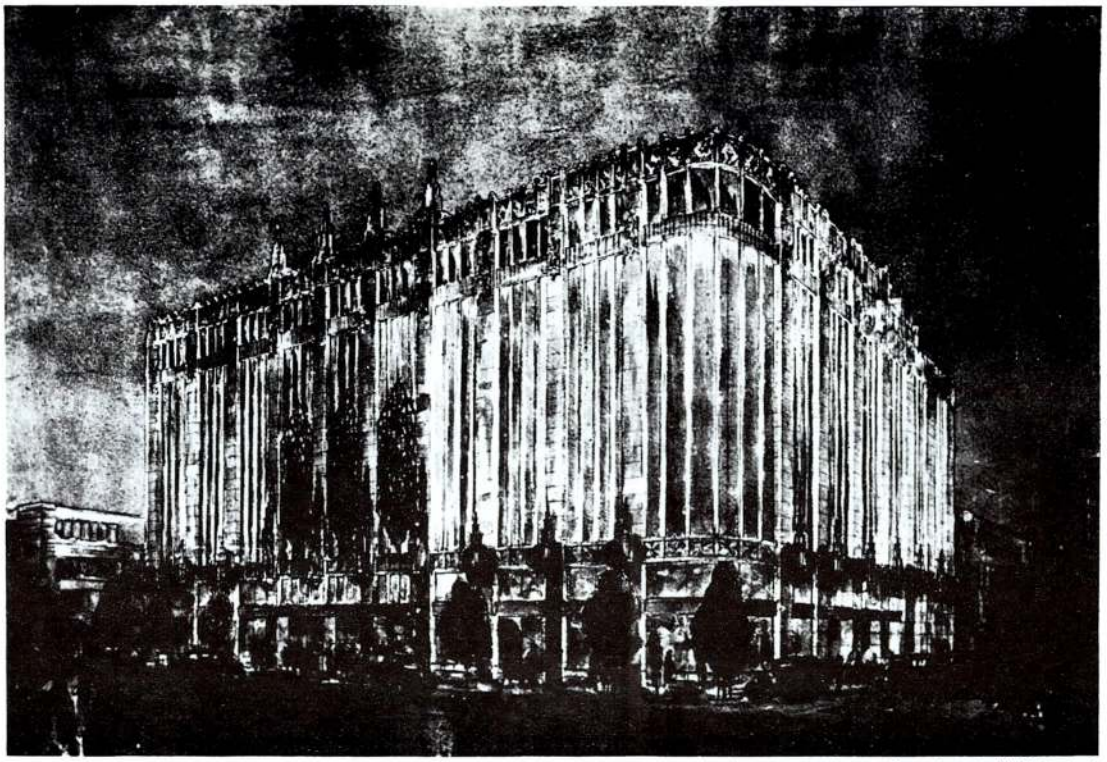


入 選 設計者 西 村 好 時 氏

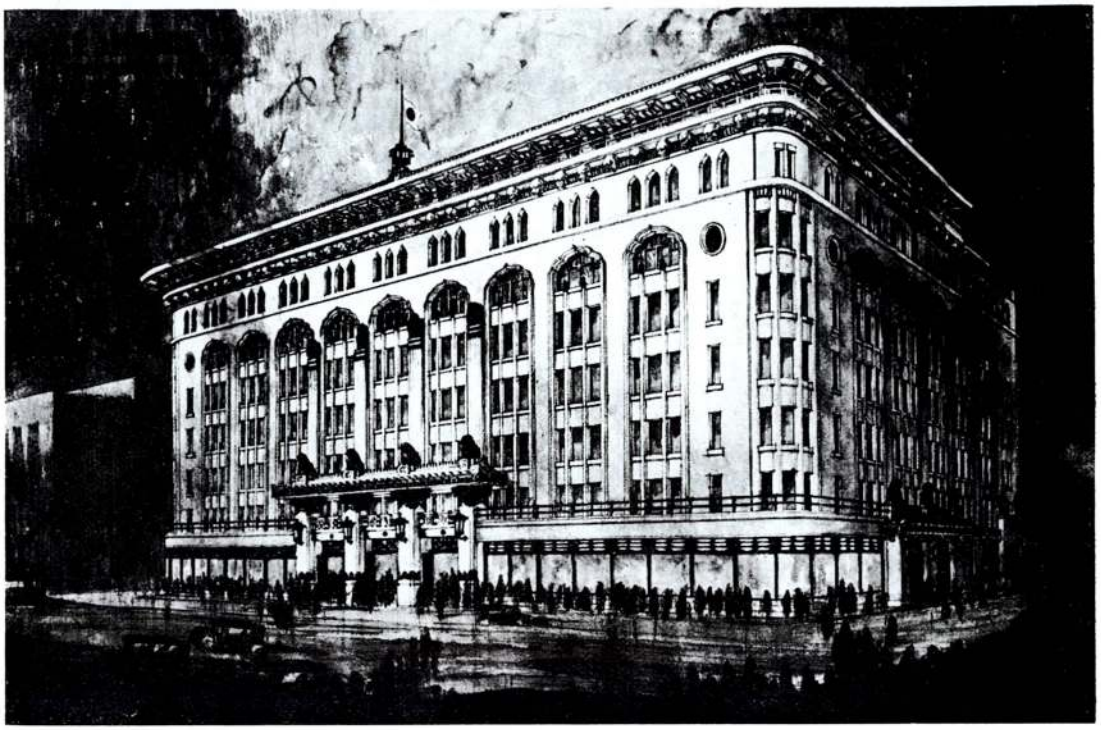


日本生命館新築懸賞圖案

入 選 設計者 加 崎 章 氏

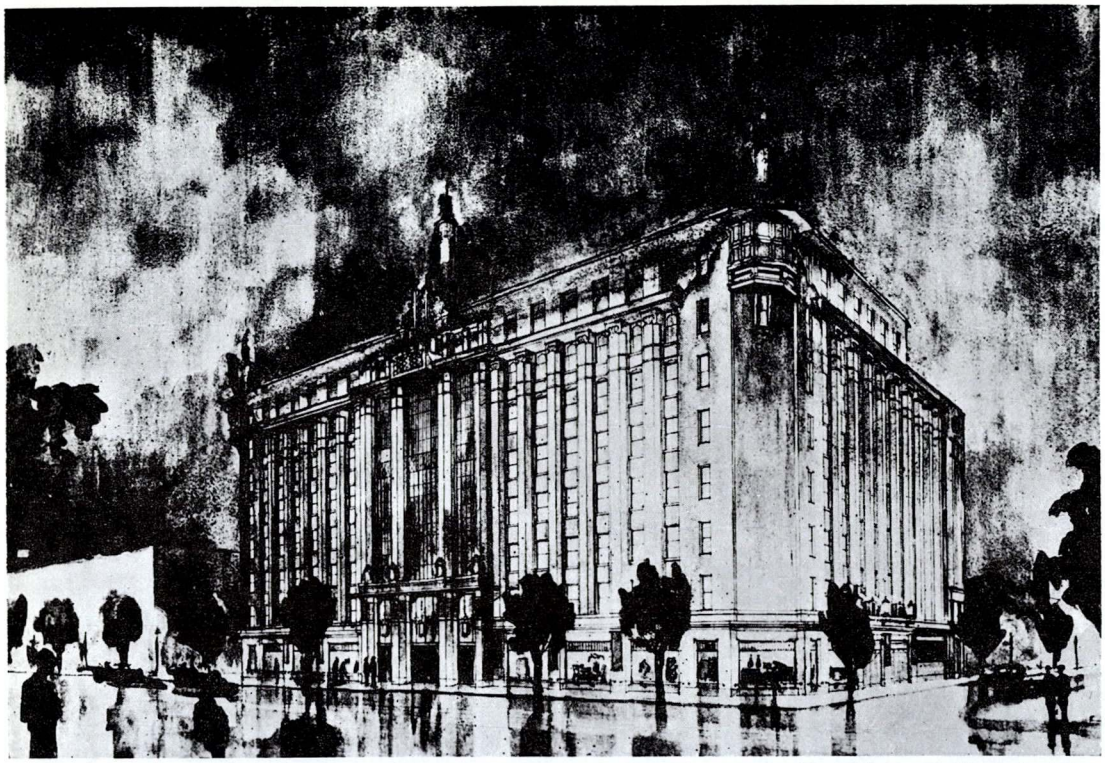


入 選 設計者 第一相互館營繕部有志

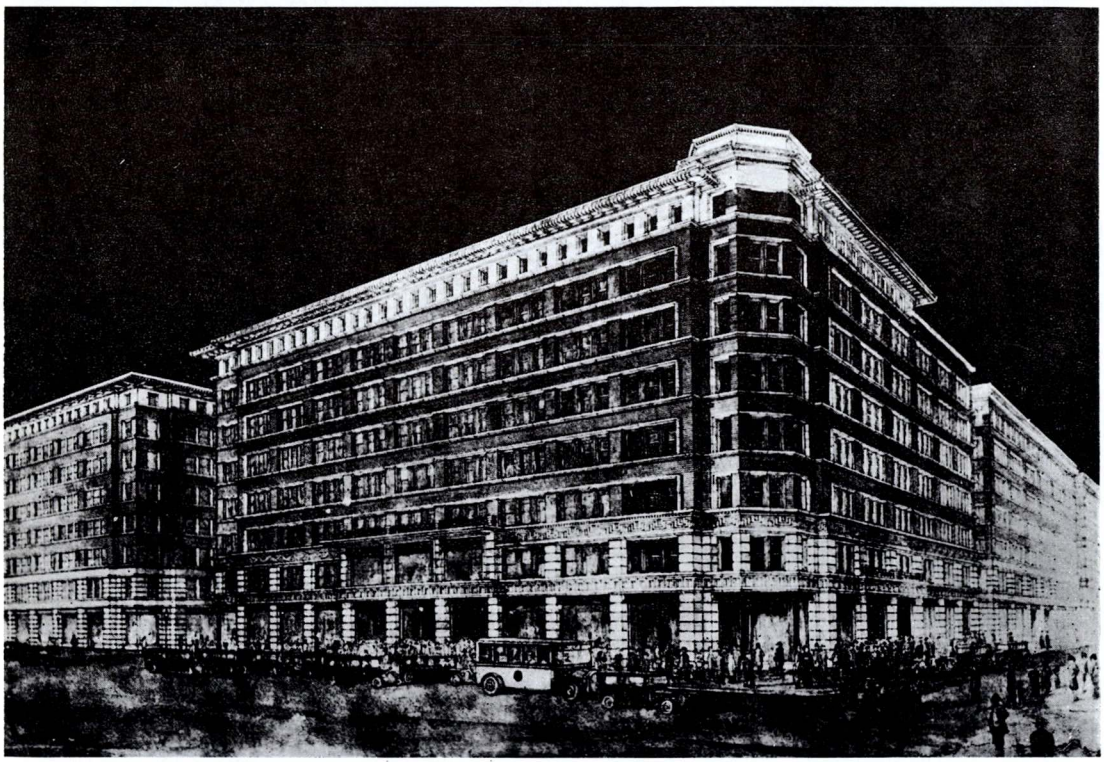


日本生命館新築懸賞圖案

入 選 設計者 中 村 皓 一 氏



入 選 設計者 野村安太郎氏

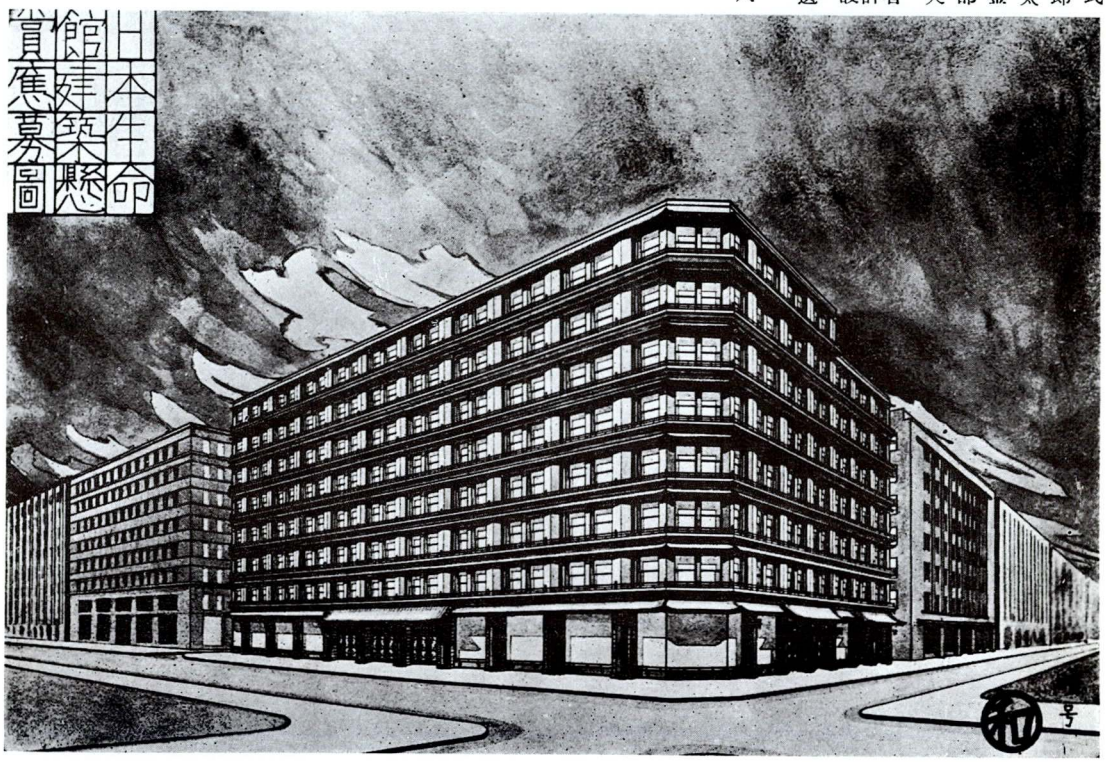


日本生命館新築懸賞圖案

入 選 設計者 黒 川 仁 三 氏



入　選　設計者　矢部金太郎氏

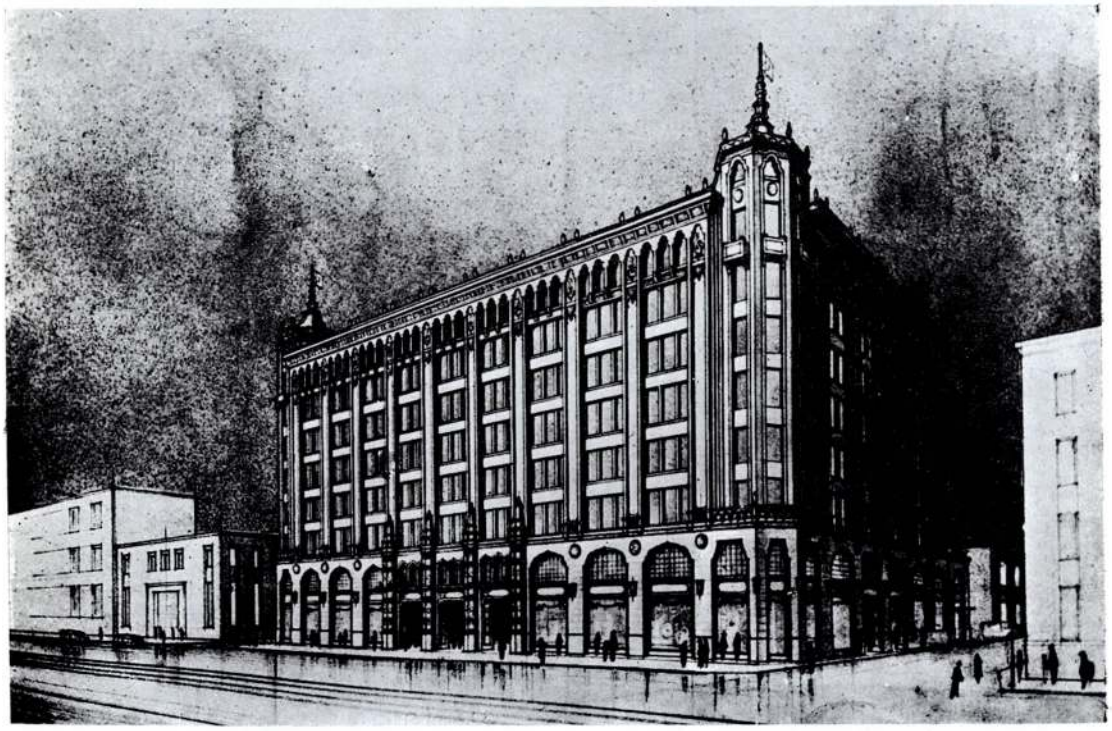


日本生命館新築懸賞圖案

選外佳作　設計者　千　葉　元　章氏

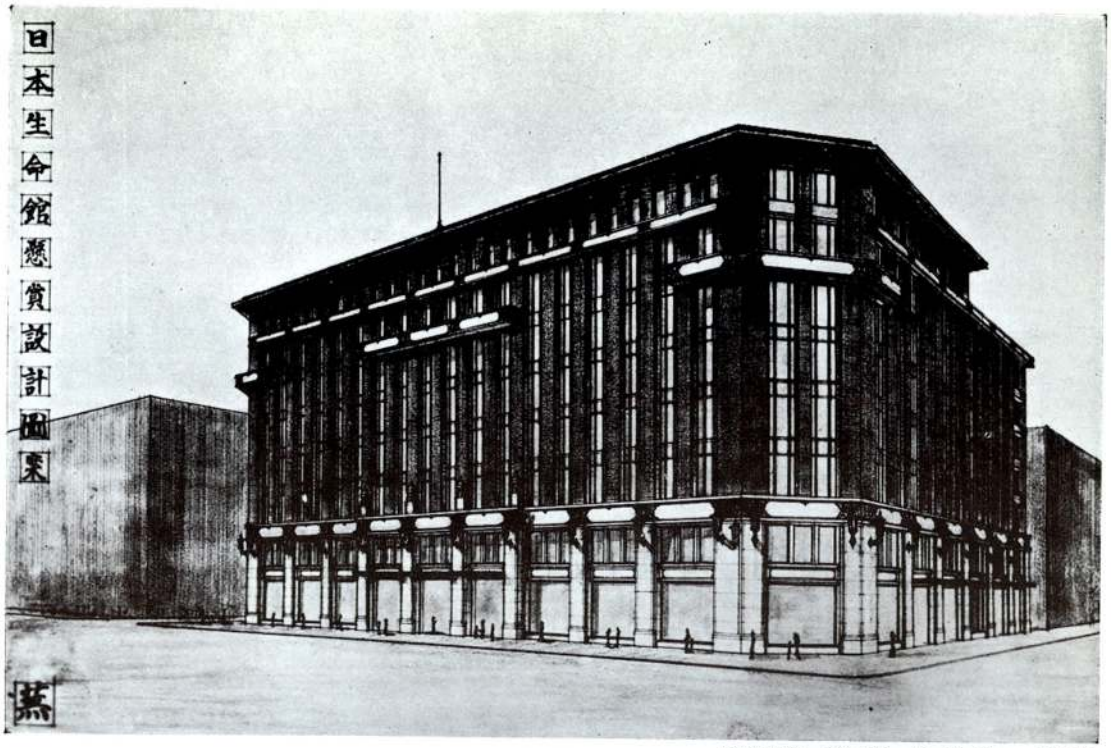


選外佳作　設計者　安　田　　清 氏

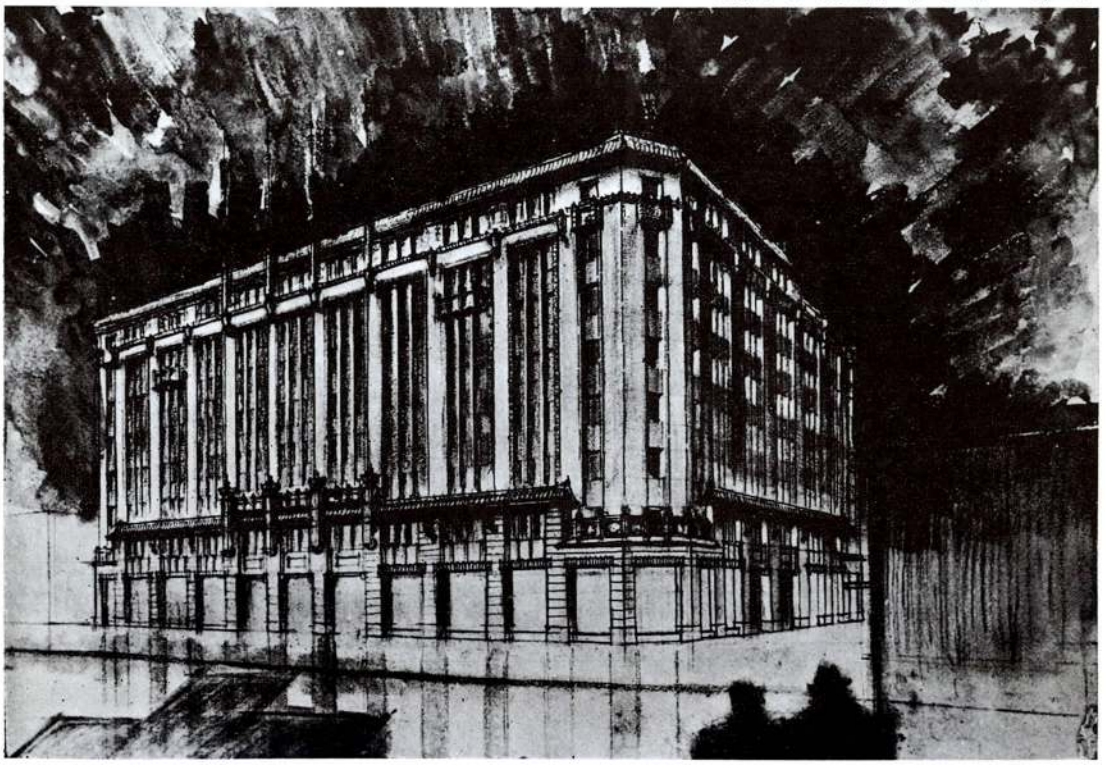


日本生命館新築懸賞圖案

選外佳作　設計者　佐 藤 三 郎 氏
牛 尾 美 佐 雄 氏



選作佳外　設計者　杉原啓一郎氏



日本生命館新築懸賞圖案

選外佳作　設計者　鈴木好助氏　土居和夫氏

第十三輯　建築と社會　第九號

昭和五年八月一日發行



建築風景・末吉橋　　本間乙彦氏畫

巻頭言

—モトノ・セイゴ—

建築の姿態は人類の進展に伴なつて變轉すると云ふ事は一つの鐵則として『明日』へも作らるゝであらう。

都市構成の基調——ル・コルブジエの改造案は詩人の夢であると云ふ見解は正しい樣に思へる。彼の樣な尨大なる集團生活の有機的機關が完成する日が到達する以前に、都市は小さな切れ切れのものに分散するであらう。交通路の擴大、輪送力の進展、ラヂオの發達、テレビジョンの發生等々——尨大なる集團生活を必要としない條件は、日に日に增して行く樣に思へる。今世界各地に於けるジードルンゲン（適當な譯語が見當らないからコノまゝ用ひて置く集團生活都市斷片とでも云つたら當るかもしれない）——このジードルンゲンの發育は、此の事實を實證する一つの片鱗であるかに見へる。

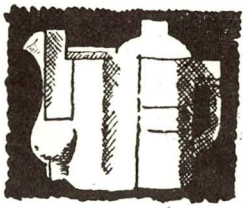
建築思想の變化——ヴアチカンを根城としたローマ法王、ヴエルサイユを脊負つて歩いたルイ十四世等々——この種のヒロイズム的建築思想は今ドコの隅にも見當らない。若しこの種の思想の持主があるならばソレは時代錯誤的存在物である。この種の人達は時の經過と共に程なく消滅するであらう。吾等地上の人類は今集團的智能の協力に依て文化の水準を高めつゝある。明日の建築はこの思想の變轉を基調として生育して行くであらう。

構造の進化——重構造より輕構造へ。斯くて物資と勞力との消費量が著しく輕減される日が近き將來に來るらしい。私は構造を專門とするものでないから論理的に立證する爲めの根據を持たない。けれども輕量コンクリートの研究、鐵建築の進展、デユラルミニユムの進出等々——此の事を示す多くの事柄が現はれつゝある事を思ふ時、極度に輕量なる建築物の出現も遠い將來ではあるまいと思へる。ソウなつたらば一切の建築はソノ支配下に置かれるであらう。現在の材料を以てしてさへも、フレイツシネーの輕快なる橋の姿態を見る度に、明日の構造を暗示される樣に思へる。

大邸宅の消滅——尨大なる邸宅の出現は、現代私有財産制度を基調としてそれたる副產物であつて、富力の誇示と云ふ馬鹿々々しき心理作用が其の根底に横はつて居る事を見逃してはならぬ。たとへ現在の私有財産制度の中にあつても選ばれたる頭腦の持主はこの種の馬鹿氣たる心の作らきを持つて居らぬ。明日の文化は必ずや人々の心からこの馬鹿氣たる心の作用を驅逐し去るであらう。其の時尨大なる邸宅は人類の生活から消滅する。

照明の進化——微電流に依る照明は已に實用の時期に這入つて居る。日本に於ては未だ文　標示の域を脫しなけれども、ドイツなどでは已に普通の室內照明に盛んに用ひられつゝある樣である。この種の照明に要する電流は、無線電送にて充分である程に輕微なる電力にて事足り、從つて尨大なる發電並びに架線裝置の必要はなくなり、中央放送局よりの無線放送によつて快き明さの中に都市は活々として有機的に動いて行くであらう。ある電氣專門の技術家がそれは決して夢物語りではないと云つて私に話された事である。

之等數多の來るべき建築の世界を空想しつゝ過去の變轉を想ふ時、私は限りなき興味を覺へるのであります。十九世紀の始めの頃夢物語りの中に出て來る事柄が、今やテレビジョンや空中飛行となつて實現して居るではありませんか。之等の充分に實現の可能性を認め得る事柄が事實となつて現はれるのもソウ遠い將來ではあるまいと思ふ。



明日の建築

葛野壯一郎

『明日の建築』と言ふ様な事を考へさせられる時に、自分としてはコルビユーゼ氏の意見に啓發される所が多い心持がする。スタヂオ年鑑一千九百三十年版に寄せられて居る同氏の『二十世紀の生活と二十世紀の家』の一文の如き、確かに斯うした問題に對する種々面白い暗示が與へられて居る様に感ぜられる。分り切つた至極平凡な意見の様では有るが、熟讀して見ると色々興味深い點が發見せられて敬服せざるを得ない。

コ氏の意見をかい摘んで見ると傳統的な煉瓦造や石造のサステイニング・ウオールの構造を離れて、科學的な鐵骨構造や鐵筋コンクリート構造のサステイニング・ピラーの構造に由る結果、當然の成行としてフリー・ファツサードとフリー・プランが生れ、地下室の廢止と屋上庭園の新活用によるリヴアースド・プランとダブル・ストリートの理想實現に歸着すると言ふに有る。

床や屋根の荷重を全部壁體に支持せしめるサステイニング・ウオール・システムでは、荷重支持の目的を充分に達する爲めに勢ひ窓の大さに制限が生ずる。無暗と大きな窓を數多く開く事はスタビリテイの上に於て許されない。自然窓の數なり大さを或る程度に限らざるを得ないので有る。

ところが柱が床や屋根凡ての荷重を負擔するサステイニング・ピラー・システムでは、壁一面の窓を造るも差支へが無い事になる。コ氏の意見では床や屋根のスラブを柱心より外方に持出す事に由つて零から百パーセント迄の窓が自由自在に設けられ、建物の外面は最も自由な『光の壁』にて圍まれ得ると言つて居る。

又コ氏は支持壁の方法では基礎の根切が大きくなる爲め、壁と壁の間に殘る心土を搔き取り郊外に運搬して、其跡に地下室を造るのが在來建築の慣習で有るが、無理に好んで風通しの惡いじめ〳〵した日光に惠まれない暗い工費を要する非衛生的で、不經濟な地下室をわざ〳〵造るにも當るまいと言つて居る。

支持柱の方法では地下室を設けず、一階床を地上三乃至四メートル高めて丁度吾が上古の校倉構造の様に床を裸柱のまゝ解放し、其部分を自動車置場なり小供の遊び場なり庭園通路等に利用する。出入口の如きも此部分に設ける事になると、家は横から出入する物で無くて床下から昇降するものとなる。斯うなると家の正面とか背面とか言ふ言葉がはつきりし無くなる。コ氏のフリー・ファツサードと言ふのは此邊の意味の様で有る。

又建物の各階床が鐵筋コンクリートの一枚板で有るから、間仕切は主體の構造に關係無く最も輕い材料を撰んで自由に造り得る。殊に窓の大さや數に制限が無いので有るから思つた様何うにでも仕切れる。各階必要に應じて實生活の要求に當て嵌まる様最も合理的に仕切れば宜い。是れがコ氏の言ふフリー・プランで有る。

煉瓦や石造では構造上の約束から一定の間仕切を必要とする。我國の如き地震國では殊に左様で有る。其爲めに間取が外壁の支配を受けて絶對に自由とは行かない。

屋上庭園の新活用に就てはコ氏は柱構造が齎らす當然の歸結として極力主張して居る。鐵骨や鐵筋コンクリート構造の結果として陸屋根が出來る。是れを庭園として出來るだけ活用しやうと言ふので有る。地上の庭園と違つて日當りが宜いから花卉は盛んに生育する。日光浴室としても亦全く理想的だと言つて居る。花類の育つ事はすばらしいとの事で有る。

柱建の新建築では庭園が屋上に有るためリセプション・ルームは自然屋上に直通する最上階に置か

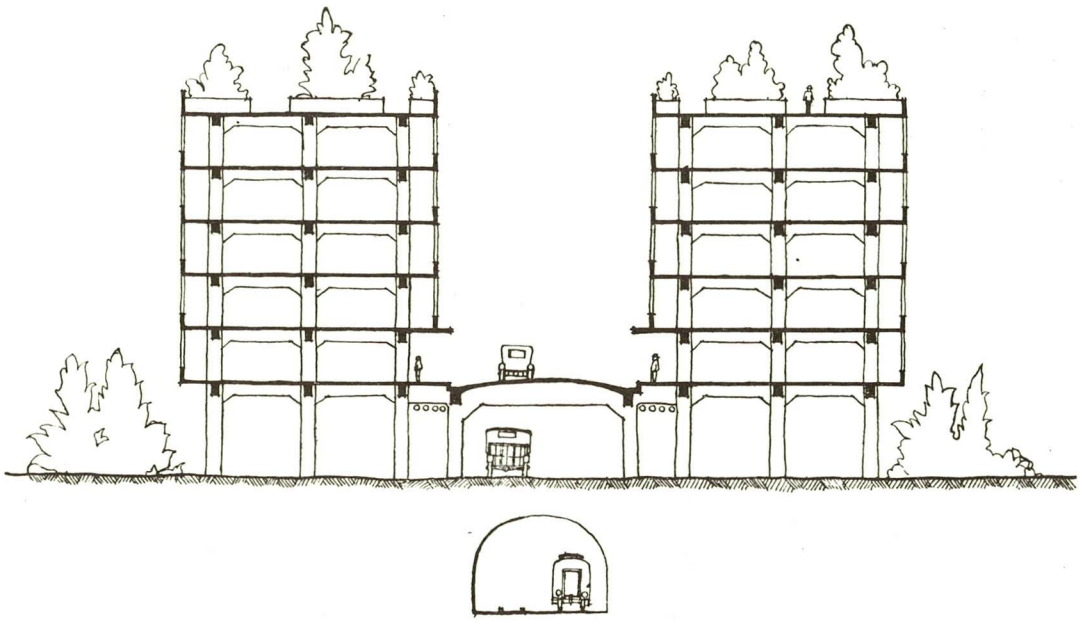
れ、其他の部屋が其れより下の方に設けられて家のプランが逆轉する。在來横に延びる家が縦に延びるので有る。床下から入つて屋上の庭園に達する順序となる 是れがリヴアースド・プランで有る。

床下は裸柱のみの吹抜き構造で有るから車も通れば人も自由に歩行が出來る。地上三乃至四メートルの第一階面にダブル・ストリート即ち高架式の第二街路を造ると都市街路の面積は二倍となり交通量は倍加される譯で有る。

普通の地面の上は重い車・二重街路面は人間や輕い車を通すので有る。是れに地下鐵道を加へるとトリプル・ストリートとなる。更らに加へて空輸が發達すれば、都市の交通が始めて整備せられるものの様に感ぜらる。

普通の街路面が高架となるから上下水道や瓦斯、電燈電話のパイプ類は最早地中に埋設する様な不便不經濟な面倒はいらない事となる。高架街路の歩道の下を通せば宜い。是れは取り分けダブル・ストリートの特色として力説せらるる所で有る。

以上はコ氏の二十世紀の家に對

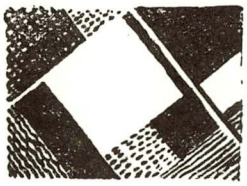


する意見の大要で有るが、在來の慣習的な建築眼からすると隨分と突飛な意見の様に聞える。併し鐵骨や鐵筋コンクリート構造の本來の面目から觀ると實現の可能性は勿論、寧ろ必ず歸着す可き當然の筋道として確實に想像し得る事實で有る。ダブル・ストリートの實現に就てはコ氏以外既に先輩の提唱も有つて今日決して新らしい意見では無いと考へるが是を鐵骨や鐵筋コンクリートの新構造法に結び附けて、合理的に其結論に持つて來たのは同氏の意見の卓抜な所以と感ずる。

考へ方に由つては都市建築の現狀は、極めて不健康な牢獄を造つて居る物の様に思はれる。都市人の健康や思想が年々惡化するのは偶然では無い。『明日の建築』はもつと自由な幸福なもので有り度い。又有らねばならぬ筈で有る。二重三重と地下にもぐり込む不自然から離れて、天空に向つて建物自體を押し高め、『光の壁』に包まれて自由に外氣と外光を娯しむ事が何れだけ市民健康の增進に資するか分らない。

習慣を破ると言ふ事は何時の時代にも難かしい事で有る。個人にしても國家社會にしても常に不合理な惡い習慣に引づられて居る。長い間惡い習慣の中に生活して居ると遂に其習慣の恐ろしい事を忘れて了ひ、善惡の標準迄が習慣に由つて支配せられる。自分は人類に對して是れ程不幸な事實は無いと信ずる。

習慣に最多く支配され易い物は



機械としての建築

工學博士 三浦耀

一

近來、建築論の新しくにぎやかなものがあるのを見て、まことに嬉ぶべき現象と思ふが、然しこれはごく一部の少壯建築家の間丈の樣で、多くの建築家の建築に對する考へは、特に年配の建築家の建築觀は、實に十數年間依然として同じ樣に見受けらるゝ。それでもいゝであらうか。

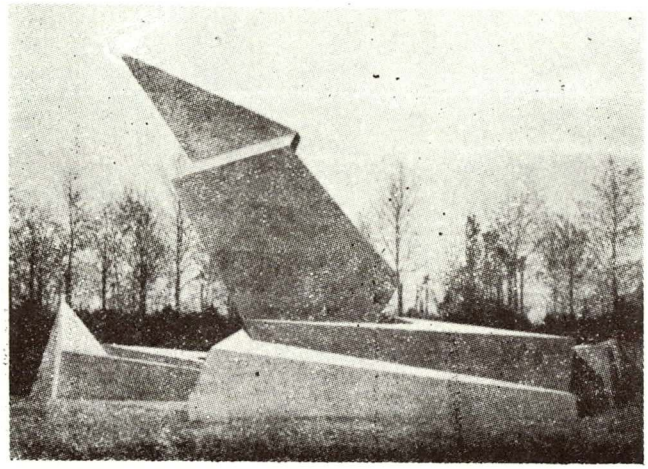
然もその間に世界は異常な變移を示しつゝあつた事を我々は知る。そしてこの大變移とは機械の社會的進出によつて捲き起された生活諸相の一大變化の事である。建築界も亦、勿論この動きにつれて動搖せざるを得ない。今や、昔の建築觀はすつかり改めねばならない時期ではなからうか。ゴシツクミかルネツサンスとか又はセセツシヨンの運動等はこゝでは最早一束として一方の樣式論の中へ入れられて了ひ、我々は今、新しく他の一方に機械といふ劃時代的の因子をもつ社會の一系體としての建築を考へねばならないのである。こゝで建築の歷史は一つの反曲點を示さねばならない。そうして明日の建築は今迄のそれと全く種類の異つた形態及び內容を約束する事であらう。然らばその形態、その內容は一體如何樣なものであらうか。

二

『藝術はその屬する社會を放れて意味はない』これは一見、見當違の樣にも見える。事實我々が古希臘建築を考へる時、それが今でも立派な藝術として通用するではないか。然しそれは我々が古希臘の建築として骨董的に玩賞する意味に於てであり、それだから今パルテノンの樣なものを日本の何處かへ建てる事には何の意味もない。思ふに現代は機械の進出によつて社會生活の體系は大體決定された。我々の社會生活は最早機械の存在なくしては立ち行かない。それならばそういふ社會に關心をもつ建築の觀念も自ら定まらなければなるまい。

今から一ミ昔まへから流行した表現主義、あの華やかな表現主義は何故や否やは別問題としても、其れは少なくとも無意味で人類文化の發達に何等効果を及さない樣な、建築上の不合理な習慣から脫却したもので有らねばならぬ事だけは斷言し得ると信ずる。(完)

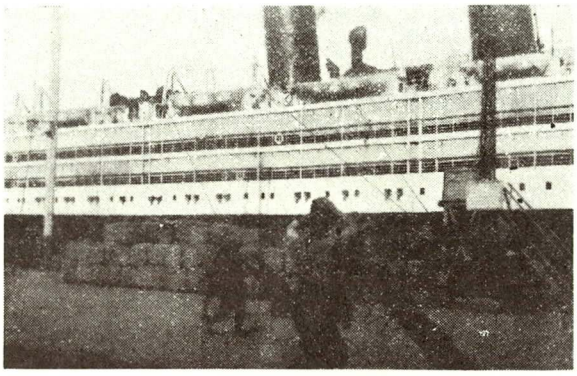
挿圖 1



没落したか。だがそれは誠に當然である。表現主義は近代ロマンチズムであり、又科學萬能、機械謳歌に對する反動運動であつた。いづれにしても其の內容の不確實さ又重心に普遍妥當性のない事は、何とも世界の大勢とは相いれざるものがあるからだ。只、建築の方



挿圖 2



挿圖 3

面で日本では、丁度彼の大震災等の爲にこの派の建築が永久的には企劃されなかつた事をゃは寧ろ幸とするものである。それにつき思ひ出すのはワイマールに在るグロピウス氏設計のカップ爭動戰沒者記念墓碑であるが、彼の形の特異な記念碑はその當時日本の一旅行者によつて恁の様に觀察されて居る。(挿圖1參照)

『……その記念墓碑は漸とこの七月(一九二三年)この墓地に完成した。それは折紙の鶴の出來そこないの様な形をした表現派風のもので古典的なワイマールには甚だ皮肉である。……』(ワイマールの精神を求む……大塚氏。『生活者』。)

もし然しこれに對し、『此の意匠では、根元で大きく先の方で細く消える様になつて居る事は下から上への動き、新生への復活をあらはす。その形は別に新奇なものでない。ピラミツドやオベリスク、その他鑛物結晶體にもその例があるではないか。』(フリュー・リヒト)等と理屈を言つて見ても、今の我々には如何にも内容のない、無駄な遊戲に見え初めた。然しこの記念碑がこうも早く一つの骨董品として殘骸をさらす様になるとは思ひ設けなかつた事だ。



挿圖 4

三

尤も文明の進みは線路を走る汽車の様に一定の速度で一路目的地に向ふものとは思はれない。つたない比喩ではあるがそれは球を逐ふて走る蹴球の一群の動きの様なもので、その中には個々の左右前後種々の方向の運動が、又は力の働きが加はつて居やうが、結局、全體としてある方向に導かれて行くものである。現在、建築の方面でも、種々の方向への試みがあらはれて居るが、それ等は船の舳に碎ける浪の花の様なものであり、結局は根底のある動きが方向を決定する、その根底のある動きとは社會文化の動きであらう。文化の方向に逆らふ如き運動は結局は壞滅するより外はない。表現主義が正にそれであつた。

然らば現在の社會文化の方向はどうであらうか。それは疑もなく機械と社會經濟との指示する方向でなければならない。然も社會の事情は當然かゝる生活體系を肯定する。

四

私は曾て伯林の郊外を散策して廣い〳〵芋畑の眞中に、折からの夕日を浴びて聳え立つガスタンクをこの上なく美しいものと思ふたのである。それには飾は勿論ない。實用その儘の赤裸々の姿が何とたのもしく思はれた事か。又私はライン河にかゝる鐵橋の數々の力學的姿體をこよなく美しいものと思

ふ。新嘉坡の或る日、見物に疲れて夕暮時、波止場へ歸る途中、其處に並んだ低い倉庫の屋根の上に高く聳えた我々の、船M・Mのボール・ルカ（二萬噸）が何んなに美しく眼に映つた事か。

八頁に掲げる三葉の寫眞（挿圖2・3・4）は其れ等の新しい美について物語るに充分であらう。その内ラインの鐵橋の圖はケルンのホーヘンツオルレルン橋を越して遙かにシップ橋を眺めた景色である。唯、伯林郊外グリューネヴアルド附近の野から見た瓦斯タンクの展望は、寫眞が小さく、肝心のタンクが木蔭に薄くあまりに小さく見えるのを遺憾とするが、あいにく外に適當な寫眞が見當らないので兎も角、茲に併せて掲げておく。

これ等の美はたしかに將來の建築美を暗示するのではあるまいか。かういふ如何にもコルブユジエを眞似る樣で、妙に、かうかく事さへ氣がひけるが、尤も自分の見る所では、コルブユジエには尚多分のロマンチズムスがありはしないか。機械をそれ自身として美とせず、古い意味の美を之に追求して居る樣に見えないだらうか。これは尤も私の考へ違ひかもしれない。唯、こゝで今、彼の意見を讀み返して居る暇のないのを遺憾とする。

そこで私は思ふ。將來の建築、又は與へられた課題の如くば「明日の建築」は科學としての建築である。建築は藝術といふよりも科學であると思ふのである。

五

ついでに私は此の頃流行の所謂日本風の建築について考察したい。日本生命館、京都美術館、又は近く發表せらるゝと仄聞する東京帝室博物館の懸賞設計規定に於て、樣式について日本風乃至東洋風等と要求があるのはどういふ事か。或はこれが將來の建築樣式を決定しはしないかと考へる人もないとは限らない。

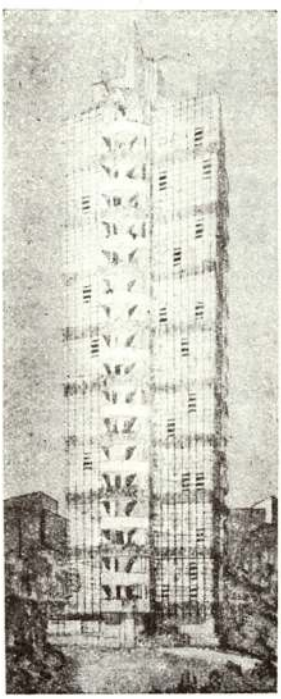
思ふにこれは一つの流行に過ぎないであらう。例へばある人達は、女の髪はごうも日本髪がいゝと云ふであらう。モガの斷髪はぶつ壞しだと云ふであらう。それでも流行はぐん〳〵進む。人は日本髪の不便不衛生を說いて斷髪禮讃をするこれ等はそのいづれの側にも相當の理由はあらう。然し社會文化の方向を顧みて結局いづれに落つくか。深い根底のない方が次第に沒落するのは止むを得ない。私は無論、この日本風の建築なるものはこゝ數十年の後には一つの骨董品として殘る一時の流行であらうと思ふ。そして建築の大勢は配光通風の具合のいゝ構造的にも又經濟的にも無駄のない建築の方向に向ふものと見る。然らばそのモデルは實に機械であるハだ。

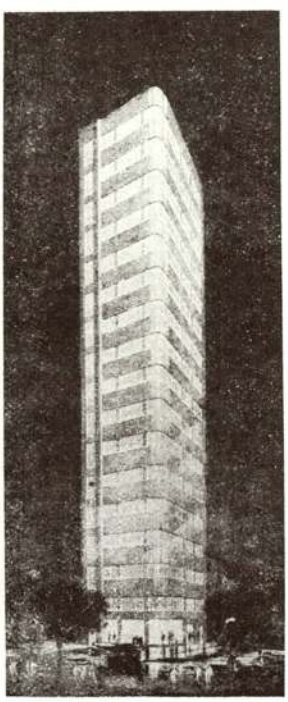
それかと云つて私はある人達の樣に、所謂日本風の設計をする事を無下に反對はしない。又そう云う設計を罪惡の樣に考へ度くない。丸髷がすきならば丸髷もいゝであらう。衛生とか費用とかの點で問題する所がなければそれもいゝだらう。たゞ大事なのは根底に横はる大體の方向、合理的の方向に誤りのない事である。

かうして明日の建築——それは機械としての建築であらう。

（昭和四、七、一九）

米國小摩天閣計畫
設計ヨセフゴサール氏







特殊より普遍へ

—明日の建築—

伊藤正文

明日の建築を語ることは、現在の建築を浮かべてゐる潮流の中にひそむ色々な條件や要素を見定めて、その動いてゆく方向を推論することである。

或は、その發展、動向の當爲性を指示することである。そこで、鬼に笑はれない様に、緻密な觀察と、明確な認識を出發の用意としなければならぬ。

近き未來の物象について推理するには、過去から現在への動きを知らねばならぬ。又それは一足飛びであつてはいけない　更に又、過去から現在への動きの内容を正確に基礎とせねばならない。斯くして考察を進めることによつて、到達する所は、すべての文化現象は、勿論、建築も、皆、個人から社會へ、特殊から普遍へと動いてゐると云ふことを、先づ認めるに違ひない。

そこで、『明日の建築』といふ標題を、茲に書き改めよう。

『特殊より普遍へ』

1　手工業から機械工業へ
2　邸宅からアパートメントハウスへ
3　趣味から目的へ
4　建築物から都市機能へ

1

度々同じ言葉によつて、繰返され、説明され、すでに經濟史の常識となつてゐる通り、近代科學の發達に伴ふ工業の機械化は、生産の方法を全く改變し、その能率を高め、又その統制上、必然的に生産品の定型化を誘致した從つて、生産品には個性が消えて、純粹な機械製品としてのみ實用的な價値をもつ様になつて來てゐる。それは特殊性を失ひ、普遍的なものとなる。

生産能率の向上は、大量生産を結果し、やがて、家庭的な小工業はその生産率に於て、全く此大量生産と競爭することは不可能となり、それ等は皆大工業組織の中へ熔解されてしまふのが通例である。

工藝美術品の製作者の如きは、その個性の表現に生きつゝ生産せんとする仕事の性質上、機械生産の發展、技術の進歩と逆比例して、此大きな潮流の外に超越することが全く不可能となりつゝある。更に一般美術、藝術の分野に於ては、映畫、ラヂオ、等の最近の發達によつて脅威をうくるものもあり、一般藝術界に於て、資本主義を呪ふ原因がこゝに伏在する。斯る傾向に對する思想は十九世紀以來イリアムモリスによつて代表され、今日にまで到つてゐる。

而して又、生産の大量化、定型化は更に大組織のそれへと限りなく進展するかに見ゆる。小企業は中企業に、中企業は大企業にと、併合せられる。資本は、工人と機械との組織を統制して、生産關係に立つ社會的階級をだんだん明確に區別立てる。

機械が工人によつて統制さるゝ組織迄は、機械と工人とが併行の狀態に置かれ、機械の精巧さと能率とは、工人の階級に失業迄をも導くことであらう。

工藝美術品として高價な作品を求めるよりも、日用品として、多量に生産された硝子器にも案外清新な美しさを發見することを民衆は知り出した。さう考へると、工藝美術の家庭工業的生産方法が、やがて、大組織な工場の生産機能の中に包含され終るまでは、工藝家がその生存に闘する惱みは殘るに違ひない。あらゆる特殊が、普遍化する。

その昔、寶玉と同一視までされた硝子は、今、建築の主要構築材料の一つとして、大規模な生産組織下にあり、十尺幅二十尺高さの一枚すら優に産出し、飾窓の大硝

子から更に進んで、建築の外壁用にまで作られつゝある。

其他、建築の技術に於ても、一般材料の生産方法の進歩と、材料のサイズの標準化、構造の簡易化、定型化、施工法の合理的大組織化、それ等によつて、出來得る限り工費を經濟的ならしめ様とする傾向にある。

ガラスの大板が鐵骨の構造と相俟つて、市街建築の姿形を改變した多くの實例の様に、材料、構造法、實施法の機械化、合理化は、建築そのものゝ形態を、定型に導く様になることも必然である。

日本の木造建築が、木材の定型標準によつて、自ら定型化され、而して尙且つ、日本特有の木造建築美を今に誇ることが出來たのと同じ様に、鐵骨や、鐵筋コンクリートや、ガラスの材料の可能な寸法、及標準と、市街地建築物法とが、現代の建築にも一つの定型を與へやうとしつゝある。

且つ又それは、社會の經濟的諸條件と、生産組織の條件に從つて、更に明確な定型へ、普遍へと向ふであらう。

現代に於ては、建築士の業務方針、請負工事の經營方針は、各個人、會社の思ひ思ひによつて、行はれつゝあるのであるが、しかし之も更に時を重ねると共に、不合理や單なる利己的商策を揚棄して合理化され、事業方針が標準化されなければ、それぞれの關係に於ける存在上、困難なことになつて來るであらう。

建築士の事務所は、その個人の特殊性、技術の趣味的特徴等によつて、現在はその存在を明にしてゐるのであるが、明日の時代に於ては、それでは存在の理由を爲さぬことゝならうし、過去からの不合理な經營方針を、老舗的に引延してゐるだけでは又、意義を爲さぬ。

自覺、無自覺に關せず、やがて建築士はその團體の規定する普遍的な標準によつて行動することゝなり、現在の如き矛盾、不合理を孕むことは不可能となるべきである。即ち手工業的な建築事務所や內職的設計事務所、の存在が拒否されて然るべき時代となる。

請負業者に於ては、現狀の如く他の工業に比して、封建的な親方制度が漸次に廢されて機械の利用は更に多くなるであらう。

請負制度も現狀より見てもつと機能的である實費精算式の如きによる様になるのであるまいか。

請負の組織と契約の制度とが、現狀の封建的因襲を離れて、近代工業化することによつて、建築物の眞の方向への發展のスタートが切られることゝなる。

幾何程、建築士の設計が特殊的に巧であつても、研究がつんでゐても、實施に於ける機能が停滯してゐては、共間に不合理、不經濟が、必ず釀されつゝあると見なければならない。それはすでに識者間に認められつゝある所であるが故に、やがて、此特殊な情弊が清算されてしまふことであらうと思ふ。

2

歷史を見ると、各時代に、建築經營の中心的なテーマが必ずある。色々な建築が、同じ様な意味で出來上りつゝある様に見えても必ずその主流を爲す建築物があるものである。

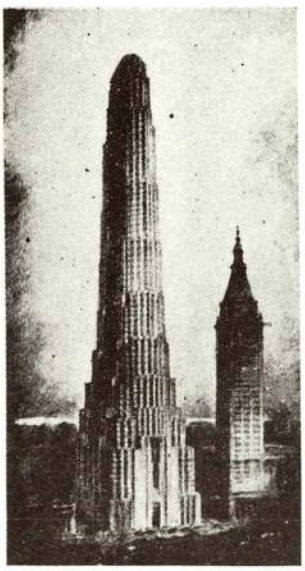
埃及や希臘に於ては神殿建築が中心であり、寺院建築が中心である。

ゴシツク時代は、基徒教の會堂

建築よ何處に往く (1)

千九百年の初期アメリカ人によつて切つて落とされた高層建築の幕は時間の進展につれて驚異に値ひする輕業的な數多の場面を現出して善かれ惡しかれ世界一であることを絶大の誇りとするヤンキーを喜ばしたことである。

伸びよ、伸びよ、
雲より高く伸びよ、
雲表に聳り立つスカイスクレバーの頂上に集ふ快感は斷然モダーンであらう、然し、足元は、下界は、自動車と人間の汎濫、噪音、汚濁した空氣、科學よ、太陽を奪はれた太陽の子を救へ。



ボロトメ、ークヨーユニ樓層百
案想假の社會險保ンタリ

であり、レネサンス時代は宮殿建築である。

桃山期以降、城廓の建築が中心であり、大正末年から現在へは、ビルディング中心の時代となつてゐる。

此建築的中心テーマは、其時の社會勢力によつて作られ、或はその時代の生産事情を反映することは云ふ迄もない。

斯くて、前にも云つた大工業時代である現在から後に、如何なる建築的テーマが中心となるべきであらうか。あらゆる差迫つた經濟事情の下にあつて、顧みられることは生産の合理化を中心として生活手段の合理化である。

元來、建築として、人間の社會に最も緊密な關係にあるものは住居である筈であるが、過去に於ては往々各個人の住居を第二義的に取扱つて、寺院に、會堂に、或は宮殿に、時に享樂場に、建築的價値を見てゐた事があつた。

しかし、社會人として、人間として自覺した個人は、建築の本質的な要素を住居に見ようとすることは當然である。

生活の合理化が要望さるゝ程、不合理なる住宅から一般社會人が解放されて、眞に衛生的な住宅に、經濟的に住める様にと望まれて來ること も又當然でなければならぬ。

即ち住居問題の起る所以である。

歐洲大戰直後、あらゆる組織が破壞されつくした各國では、戰後の生産事業を急速に進める爲に、工人の住居を先づ安定ならしめるべき急務に迫られ、各工業地にジードルンゲの計畫が實施された。之は現代アパートメントハウスの勃興の楔期となつたものである。

而して、建築機能の合理主義が、アパートメントから生れて、他の一般建築の組織に迄、理論として現に押し進められつゝある。

斯くして、アパートメントハウスの次には病院、共濟組合、會館、市場、工場、へと、新しく合理的な建設が進められるべきである。

それ等はすべて、機能的に働かされ、又合理的な生活に、常に直接的に應ずるべき筈のものである。

現在のアパートメントハウスは大戰前の營利的な計畫から可及的に脫して、公營が主となり、夫々國庫の低利資金の融通をうけて設立されるものが多い。

建築家が取扱ふ、建築の題目は、現代程多數であることは曾てなかつたに違ひない。けれども、現代迄は、建築的テーマの中心は、ビルデイングであり、而して實際的な生産機關としての工場があつた。

けれども、そこに中心が置かれてゐることは、人間の生活の本質的な考査が忘れられてゐたと云ふことである。現代迄のジードルングや、共同住宅は、それぞれの工業地に於ける工場に從屬する機關であつた。全生産の機能から見て、その中の一つの重要な要素として取扱はれ住宅がビルデイングや工場と同一の權利を以つてジードルングを構成してゐるのではなかつたのである。

そうでないものは、所謂、個人や會社の營利本位の經營による住居群であつて、此の從屬的な住宅群から、もつと有機的な住宅群の建設にと進みつゝある所に、來るべき時代の建築的主役としての登場者たる資格が獲得されるわけである。

住宅は、個人の邸宅である様にのみ觀念せられてゐた時代は、すでに過去である。現代では個人の邸宅も多く建てられてゐるが、それの多くは合理性に乏しく、多趣味に流れたものにかたよつてゐる。

現代の社會に生きる民衆の住居として、それを代表するものでは決してない。その機能に立入つて見ると、生活様式の因襲を迄、そのまゝ保持することによつて、新しき時代に適應しようとする無理がある。

或は、科學を利用することによつて、——實は科學的精神を殺して、新しきグロステクを作る様なものすらある。

こうゆう特殊から解放されて、平明な普遍へと進展する必然性が見えてゐる。

3

懷古や、グロテスクや、エロ趣味は時代的な毒の花である。近代都市民はもつと健康なものを欲しそれへと進みつゝあるのだ。

住宅は趣味であると考へられ勝

ちであつたのが、現代以後は、住宅は衛生的施設であると云ひ代えなければならない。

趣味から住宅は生れない。健康な住宅からよき趣味が表れて來るであらう。新しい時代の生活に出來得る限り適應する目的の爲には餘分や無駄が現れる爲の餘地がない。合目的なる建築こそ、先づ計畫されるべきものである。アパートメントハウスの計畫に於ける、空間組織はその點から合理的でなければならぬ。趣味は第二である。第一が目的である。

目的への住宅を作ることの手段として、あらゆる工學的研究と、衛生學的考査が拂はれて然るべきである。そうゆう過程から生れる建築は、軍艦陸奥が初めて海上に浮んだ時の怪奇な印象と同じ感銘があつてもよい。それは決して遊戲的な企圖によつて近代趣味の偶然的な効果ではないのであるから。誰も日本海軍の精銳陸奥の姿を、あれはグロテスクで主觀的ないたづらから出來たものだとは決して云はないだろう。

コルビュジエの國際聯盟會館の設計や、バウハウスの校舍を見て、その硝子面積の多いのを單なる遊戲的な動機からのみ爲されたと思ふものはないであらう。

何が故にこんなに硝子帶が卷いてゐるのか何の爲に平面的な壁面しか作られぬのか、と云ふことに就て一應はその理由を探さうとするのは當然である。

東京の白木屋の出來た時。何にも未だ理解のない大衆に向つて、硝子面積の過大であるといふことを事實以上に惡し樣に宣傳されたことが、日本にはある。

白木屋にも決點はあらうし、東京のアパートメントハウスの夫々にすら不備があらう。がしかし、新しき時代の建築への第一歩を踏み出したものに對する敬意と親切とがなければ、何物も健康に明日に迄生長しようとすることは出來ない。弱い兒も育てようで丈夫に育つ、まして新しい試みの數々が現在爲されつゝあるが、それが不備であらうと、趣味や感覺の上の遊戲に停滯してゐる非時代的建築よりも何程意味があるか知れないのだ。

未だ、日本に於ては、ほんとうに合目的への立場から爲された建築がない　作らうとしないのではない、又作り得ないのではない、社會や建築界の組織が、趣味に拘泥し、情實に引かるゝが爲に、作らせないのである。

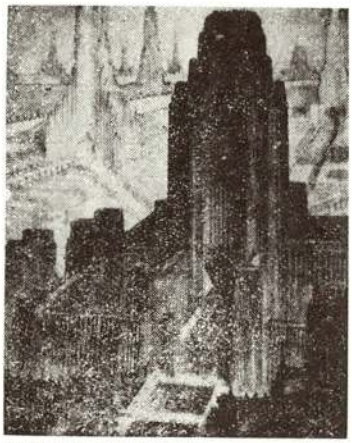
個人の特殊な趣味に拘束せらるゝが爲に、明るい普遍性が表れないのである。合目的への建築を、趣味や、因襲的な仕來りから解放して作らせるならば、現在の大衆が八十パーセントに滿足してゐるものを一〇〇パーセントに引上げることが出來る。

健康上、通風、採光を研究して設けた硝子窓に對して、何等根據のない因襲的見地から暴論を投げかけたり、コンクリート造のスラブの上に瓦を葺くことによつて健康住宅が出來ると大聲に說く衛生學者があるかと思ば、構造的輕快さに對する無意味の恐怖を感じたりする所から、常に、日本の正しい建築の進路が閉され勝ちである。けれども明日の建築に於ては、彼の趣味的因襲が掃き拂はれて清新な、青年の裸體に見る樣な健康美を表して來ることであらう。而して、構造的で、衛生的な、澄淸

建築よ何處に往く (2)

明日の建築家はいふ新しいメトロポリスの建設、それは舊都市を破棄することだ、破壞こそ偉大な建設だ、と、明日の建築家程遠大な計畫を持たぬ氣の小さい私達が考へても少なくとも數百年前モーター出現前にファウンデーションを置いた秩序不整然な舊都市に、最新の都市プランニングを、雜多な古い邪魔つ氣な存在に氣兼ねしながら、當てはめることの煩はしさは考へるだけでも、ウンザりする。

一望、目を障ぎるものなき曠野に、新都市を起すに限る。昔の英傑ネロのやうに。



明日のメトロポリス

とした姿が都市機能の細胞として作られることであらう。

それが必然的に、普遍的な美を獲得する。

それが眞實な建築の姿である。

4

建築が普遍化する。それが、必然の進路である。建築家は技術家であり、藝術家であると云ふ大正時代の定義を超えて、都市構成の組織者の一人となる。建築家と、建築主との個人的な趣味を脫ぎすて、科學的に普遍性をもつ建築を作り出す時には、同じく普遍的な建物の姿が、都市を作り上げ、都市の機能は、その一つ一つの細胞である建築物によつて果されることであらう。

茲に、コルビュジエや、ヒルベルスアイメルの說く明日の都市や大都市を思ひ起すまでもなく、健康な都市機能の實現が計らるゝに違ひない。

カビ臭味や、線香臭味や、生々しいバタの臭味のぬけぬビルディングが、比較的近い將來に、機能的にその生命を絶たれる時には、ほんとうに血の通つた、若々しい日本の建築が、健全な生産の容器として又機械として、又市民生活機能の一つの要素として、且又、都市のよき細胞として建ち上るべきである。

如何によく個々の建築として作られてあつても、それが、都市構成の生きた細胞とならぬ限りに於て明日のよき建築ではあり得ない。

或場合には、現行の都市計畫は根本から出發し直して研究されねばならぬ樣になるかも知れない。

又、コルビュジエが明日の都市に提示する十字形の平面をもつビルデイングの如きは尙集中都市の永續的假想から脫却してゐない樣にも思はれる。今後の傾向としての分散主義の都市に於て、彼程の高い建築を必要とするこは豫想出來ぬ。

寧ろ、現に、フランクフルト市の郊外に同市が建設しつゝある住居地帶の如き、その計畫に於て寧ろ明日の都市の片影を暗示するものではなからうか。

産業に關する地域と、住居に關する地域、それと交通、運輸の能率的な組織を、如何に個々の建築によつて構成するかが、明日への問題の主題である。

合目的性に於て、純粹なる建築が、如何に都市の機能を合理的ならしめる樣に、組織、構成さるゝかが、明日への問題である。

（一九三〇、六、二五）



集團美の表現

△△明日の都市建築▽▽

藤田進一郎

ニューヨーク市を訪ねたことのあるものは、もし、いさゝかでも建築に趣味を有するならば、そこの怪奇なスカイ・ラインを形作る名にしおふ多くの高層建築物は、個々に切り離してみると、いかにも立派だが、これをある一體にまとめて、集團的、綜合的にみるとまるでなつてゐない、こゝに氣づいたであらう。

○

それには、個性美だけがあつて、集團美がないのである。ニューヨーク市はいふまでもなく、スカイ・スクレーパーの本場で、床（フローア）の上に床を、いやが上にも高く重ねて、數千年後にはピラミツドの變形か何ぞのやうに見られさうな高層建築物を林立させる技術にかけては、建築家の最も苦心するところらしく、高層美といつたやうなものが最もよく表現されてゐる。脚を街角にふんばつて、雲を凌ぎながら突たつてゐる建築物が、それ〴〵に或は帝王のやうに、君臨し、

群雄のやうに割據してゐるのを仰ぎ見ると、一種の靈感にうたれてひとりでに頭のさがることさへあるのである。

○

しかし、これらを、或は一つのブロックに、或は一つのセクションにまとめあげて、集團的、綜合的に觀察すると、そこには何の統一もなく、均整もなく、連絡もなく、たゞ個々の建築物が、思ひ〳〵に亂立し、雜然、混沌たるばかりである。

審美的には、單に個性美の無政府狀態で、集團美の効果が皆無である。隨つて、建築家個人の個性だけはよく表現されてゐても、その都市に住む民衆の集合的精神、理想、感情は、全然無視されてゐる。

○

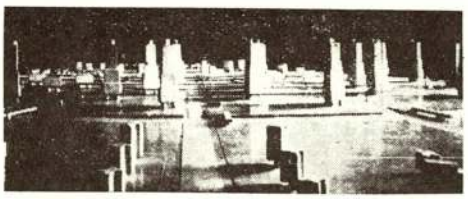
これからの都市建築は、これではどうしてもいけない。從來とは反對に、個性美よりも、むしろ集團美が重んぜられなければならない。建築家の個性を現はす建築物の個性美は、民衆の集合性を現はす集團美のために、幾分犧牲にさるべきである。これは人間が社會生活を完成するために、個人の利益をある程度まで犧牲にしなければならないのと同樣である。個人として生きると同時に、社會の一構成員として生きるがごとく、個々の建築物もまた個性美を表現すると同時に、全體の一構成要素として、集團美を表現しなければならぬ。換言すれば個的存在を否定しても、全的存在を主張するわけである。

○

個々の建築物が、どんなに大きく高くなり、どんなに美しくなつたところで、結局その極致は、ニューヨーク市のやうな狀態に行詰まつてしまふにきまつてゐる。この行詰まりを打開する方法は、即ち個性美から集團美への方向轉換でなければならぬ。一旦この方向轉換が行はれるならば、こゝに今までに知られなかつた新視野が擴大され、新天地が展開されてゆくのである。明日の建築家にとつても、かくて、水窮まつて山開くがごとく、その天才的創造力を發揮し得る十分の餘地を見出し得るであらう。

○

かうなると、建築家は、最早その個性の表現だけでは足りなくなる。自己の個性を表現して、それを建築物の個性美にうまくのりうつらせるとともに、さらに、自己がその一員である全體社會の集合人のマツス的意識と、理想と、感情とをも、その集團建築美のうちに含蓄させなければならぬ。建築の集團美を完成しようとするには建築家それ自身まづマツスの一員にへり下つて、そのうちに醞釀し、磅礴するマツス・スピリツトの優越感を味得し、それをそのまゝ正直に、その技術的創造の上に再現



案フオツンレーワ・T・露　スリポロトメの日明

建築よ何處に往く (3)

明日のメトロポリスはその單位小都市であるスカイスクレパーを續ぐ高速交通網（地上は勿論、空中、地下の）で四通八達に連絡され、數十百倍の綠地に圍まれ、日照、通風を百パーセントに享需し得るであらう。

室内は勿論、エヤーコンデイショニング、を設備して四時快適である。設計萬端、科學の尖端を往く、明日の建築家の意の儘である。

明日のメトロポリス、考へるだけでも夏を忘れる話ではある。



歐俯中空市クーヨーユニの今日

しなければならぬ。

○

現代はマッスの時代だといはれてゐる。ロシアのやうに、マッスが主權者として君臨する制度もすでに實際に行はれてゐる。ロシアの無學な百姓の間には、革命前から、一つの傳說が語られてゐた。それは、いつか名のつけられない一大怪獸が現はれて、ロシアに君臨するだらうといふのである。名のつけられないといふのは、無數の人間から成り立つてゐるといふ意義ださうだが、この一大怪獸は今や本當にやつて來たのである。なるほど何と呼んでいゝか分らない一大怪獸は、それ自らの專制王國を作りあげたのである。ロシアの君主は、今や非個人的なマッスだ。それは何人も否定することのできない實在であり、ボルシエヴイズムから發生した最も重要なる新現象である。それはお伽噺に出てくる怪物のやうに、大都市の街路を轉々し、あるときは愉快さうに空うそぶき、あるときは怒聲をはりあげて猛り狂ひ、あるときは日あたりのよい廣場にゴロ寢をして、のんきな自適生活を享樂してゐる。

○

ある詩人はこのマッスを次のやうに歌うた。

足は千本——からだは一つ。
コツ〳〵と鉋道の足音。
百萬人のマッス、一つの心臟、
一つの意思、一つの足踏み！
足並そろへて！足並そろへて！
かれらは前進する、前進する。
前進、前進……。
煤煙にまみれながら、工場地域からも出てくるわ〳〵。
眞暗な牢屋のうちから、汚い鼠の穴からも出てくるわ〳〵。
かれらの指は釘拔のやうにをれ曲つてゐる。
かれらの身邊にいつもガチヤついてゐた數千年來の鐵鎖を破つて、街頭の新統治者として出現したのだ。
碧血の滴りのやうな、
眞紅の旗は頭上に振られ、
鐵拳は高く振りあげられて、
ブルジョアジー顏色なし。
しかもかれは語る——
『すべてはわがものだ！

街路も、殿堂も、運河も、取引所も、銀行も、アーケードも、米倉も、黃金も、原料も、飮食物も、圖書館も、劇場も、博物館も、享樂場も、廣場も、公園も、廣小路も、大理石も、赤銅の莊麗さも、詩人の詩も、唱ふものゝ歌も、塔も、船も、寺院も、あたりの空間までも、すべてわがものだ！
家々は百雷の音を反響させ、大通りは湧きたち、
巨人はしつかりと立ちはだかつてゐる。

○

たゞし、これはロシアのこと、外の國では、これほどでもないが、それでもなほ事ごとに、マッス的要素が、やゝもすれば個人的要素を無慈悲に壓倒する傾向を認めるのである。このマッス的要素の美を中心としたものは、演劇にも、文學にも、繪畫にも、音樂にも、映畫にもすでに現はれてゐるが、建築にもまた相當の影響を及ぼさないではおかぬ。集團美の表現は即ちそれである。

マッス時代の人間は、一人で踊るよりも數人、數十人で踊るのを喜び、一人で唱ふよりも、數十人、數百人で唱ふのを喜び、一人で泣いたり笑つたりするも、數百人、數千人と一緒に泣いたり笑つたりするのを喜ぶ。現在では映畫を作るのにも、マッスの發展と、その歷史を主題とするのが流行し、二三人の主人公が大見得をきつたり、男女が古典的な三角關係に惱んだりするやうなものは見向きもされない。これは、それら個人的現象の背景たるマッスこそ、眞實の主人公であり、大衆はその活動のうちに、自己の心と姿とを發見し、切實なる同情同感をもち得るからである。建築家もまたこのシネアストのやうに、生きた社會の眞實の主人公たるマッスの心と姿とを、その鐵と、コンクリートの技術の上に、建築の集團美として表現しなければならない時節が來つゝあるのである。

○

むかしの建築は、單に個人の趣味と權威とを表現すればよかつた。社會的、マッス的意義を全然



住宅建築への回顧と展望

城戸久

今日より明日へと展開されんとする總ての新しい藝術形式は現在ほとんど『機械藝術論』に支配されんとする傾向を示めして居る。演劇に於て、映畫に於て、音樂に於て、吾等は眼前にこの事實を見せつけられて來た。新しい藝術へと進展しつゝあるレビューの形式に於けるプレサイスダンシング、映畫に於けるモンタージュの問題、ジヤズ音樂、等數へ擧げれば際限がない。そして此等の最頂點にあるのはコルビュジエの住宅機械論である。

茲に於て今日より明日への建築を思索の對照として持ち來らすならば、こゝに『住宅機械論』への新しい檢討と批判が最も必要事でなければなるまい、ことを認識せしめる。

◇

一九三〇年。爲政者は教化動員を提唱し、インテリゲンチヤはカフエーの一隅でジヤズを口ずさむ。資本家は産業の合理化を叫び、勞働者は街頭にパンを求める。金殿玉樓の住宅が建築せられ、貧民窟が存在する。

◇

混亂と狂燥の現代に於て、靜かに思索を現代住宅建築の一端に向けるとき心ある若き學徒は必ず其處に幾多の混亂と狂燥を認識するであらう。餘りにも長い間、吾等が住宅が不合理と僞瞞に屈服し、自瀆的錯覺よりしての「藝術」の爲に如何程虐げられて來たことか。『住宅とは何ぞや』の問題は曾つては明にされたことは恐らくなかつた。吾等が生活容器であるべき住宅は今日以前に於ては娯樂場でもあり、又寺院でもあつた。絢爛華麗なローマの住宅、森嚴崇高な英國風住宅、日本に於ては優美艶麗な寢殿造、崇嚴豪華な書院造、等過去幾多の住宅が吾等に物語つた事實である。生活が一種の遊樂であり得たローマ帝政時代、若しくは平安朝、或は宗教が生活の本旨であつた中世期、鎌倉期に於てはいざ知らず、展開せられた理智主義の現代に於て我等の生活容器であるべき住宅が娯樂場であり、寺院である必要はいさゝかも感じられない。然るに今日なほ娯樂場ならん華美と絢爛を競ふた粉飾的住宅の如何に蔓延しつゝあることか

◇

十九世紀に至るまで所謂建築美に對して確立した根底は土かはれなかつた。『如何なる建築を以つて美となすか』の問題は恐らく曖昧糢糊の中にほうむられて來た。

重厚な石材の組立に依る住宅、纖細な木材彫刻に包まれた住宅ばならない。こゝに明日の都市建築の展開してゆく新天地と新可能性とが暗示されてゐるのである。(をはり)

何れも美となし、最上の住宅として來た。そしてラスキンに至るまで彼等は何を組立て、何を彫刻し、何を描いても、それに費やされた勞力と資力の多大なる程、それが完全に近かづくものと信じて居つた。ラスキンの眞善美の法則はこれに一脈の光明を與へたと言ひ得るも、吾等は何を以つて眞とするか。何を以つて善とするかに恐らく當惑するに相違あるまい。ビトルビアスの人體論は問題外でありハンビツチの動的均齊論にもなほ多大の疑惑がある。

現代理智主義のもとにあつて、かゝる漠然とした美意識の下に形成せられつゝある住宅建築が相容れられやうか。かゝる空漠たる觀念は許されやうか。

茲に於て新しい美の法則が生れ出た。吾等はこの新しい美の觀念から生れ出た住宅建築が今日より明日への住宅建築の形式を左右し得るであらうことを認める

眞の住宅とは現代理智主義の下に於ては、機能、材料、構造、經濟の各要素を完全に把握したものゝ內に明に發見される。從つて其處には最早幾多の名匠が限りない勞力と、限りない資力を以つて築き上げた煖爐が部屋の中央で欠伸することもなく、灯りもしない無數のローソクで飾られた尨大なシヤンデリヤが部屋の空間を多分に占領することもない。そして茲に新しい住宅建築への道が一歩、一歩と土かはれる。

◇

茲に於てこの新しい住宅建築への道に投げられた二つの光明を見逃がしてはならない。一はグロピウスであり、二はコルビユジエである。

住宅の合目的性と合理性を提唱し、現代住宅建築に就て一の指針を示めしたグロピウスは彼の著書『國立バウハウス一九一六―一九一九』に就て一の偉大な提案を吾等に示めした。

バウハウスは一の研究機關を作ることをその任務とした。其處では技術家、商人、藝術家の仕事を結びつけ、住宅建築に就ての經濟、技術、及び形態上のあらゆる結果を統一的に結合するために努力する。この仕事の目的は家屋の出來る限りの類型化と、出來る限りの變通性の要求を實現するにある。この重大な問題は建築の各部分を類型化し、現實の樣々の住宅に組立て、同時に新しい空間的條件の下に一つの建築單位を多數に作り、それをそれぞれ住む人の人數と要求に應じて色々の住居機械に組立てることに依つて解決される。（香野雄吉氏の譯に依る）

これは明に、住宅建築の工業化を叫び、住宅の多量製産の可能性を提唱したと認むべきである。かくして彼の合目的性勞働者住宅の試案が試みられ、機械主義的リアリズムと言ふ全面ガラスに覆はれたバウハウスの建築が實現した。

『住宅は住むべき機械である。』『航空機は飛ぶべき機械である。』とはあまりに有名な語であるが、彼コルビユジエはその著書『新建築へ』の中に於て數多くの新しい建築理論を解いた。汽船、自動車、航空機は幾多の古典的建築よりもなほ一層彼の注視の的となつた。そして經濟と合理の二つの法則から住宅の規格化と工業化に向つて邁進せんとした。

この吾等が持つた二人の巨匠に依つて近代住宅建築の進路に一段の光明は輝き初めた。『住宅とは何ぞや』娛樂場でなく、寺院でもない今日、そして又明日に於て新しい美の觀念から生れ出るべき住宅は『住むべき機械』として提案せられた。其處に吾等が生活の容器として住宅が合理化せられ、合目的化せられ、機能化せられねばならぬ。

◇

かくして新しい住宅建築の形態は確立されて居る。その新しい住宅建築は現在如何なる形態を以つて吾等に迫つて居るか、吾等は更に具體的にこれを展望しなければならない。

新しい住宅に於ては最早歷史的な裝飾のゴテ〳〵しさは求め得られない替はりに、單一化せられた無垢の壁面を持つ。與ふ限り廣大に取り擴げられたガラスの平面がある。そして曾つては室內の美的價値を高めたであらう彫刻せられた幾多の家具は無造作に排除せられ、その代はりに新しく形成せられ、新しく構成せられた寢るべき、腰掛くるべき器械としての家具に

とりかへられた。そしてこの家具は恐らく一本の長き眞鍮管さへあれば、これを曲げ、組立てることに依つて、短時間に、容易に、又最も經濟的に製造され得るであらう椅子であり、寢台である。

曾つては住宅の外觀美を最も價値づけるべきであると信じて居つた尖つた屋根、大屋蓋は惜しげもなく無くなつて失まつた。鐵筋コンクリートの構造發達は今日に於ては尖つた屋根の必要をいさゝかも感じない。充分な强度を持つた平面の屋根がこれにとりかわり、その屋上には四季の花が咲き亂れるに相違あるまい。茲に於て最早公園は必要としない。この屋上に於て充分に大自然の雰圍氣に浸ることが出來る。都市の綠化を叫ぶのは既に何たる時代錯誤かも知れぬ。新しい住宅建築は個々の住宅それ自體を綠化せしめる。

飛行機の襲來。爆彈投下。戰慄すべきかゝる事件は今後想像せずともすむならば幸である。然しそれにしても新しい住宅は完全に一大都市を一大原野にカムフラージすることも出來る。過去に於ては神の國への最捷徑なりと考へて居つたゴシック寺院の尖立せる大屋蓋は何ぞ知らん航空機より襲撃の目標となつた。神の國は地獄へと完全に連絡せられた。然し新しい美の觀念から生れ出た住宅に就ては今はもう一笑に附すべき昔物語となりつゝある。

曾つては一日廿四時間中、何時間否何分間使用せられるか否か疑問であつた客間が住宅の最大、最主要の部分を占領して居つた。そして吾等が日々生活の根據となるべき幾多の部屋がこの一つの我儘者の爲にどれだけ虐待せられて來たことであらうか。然し今日合理主義の下に形成せられんとする住宅に就ては最早その根跡すらも發見するに苦むことであらう。

◇

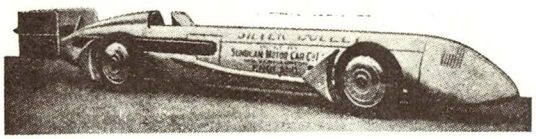
茲に於て『合理的なものほど美しい』といふ美の觀念に依つて形成せられんとする機械主義的住宅の形態を認めることを得た。現代機械文明と理智主義が吾等に教へた合目的性の新形態美が構成せられんとして居る。そしてこの住宅建築の革命的方向轉換期に於て、吾等はグロピウスと言ひ、コルビユジエと言ふ二大巨匠に對して幾多の畏敬と讃嘆の言葉を贈りつゝあるかも知れない。事實、これ等の新しい住宅建築の提唱は數限りない驚異を吾等に與へたのである。

然しながら吾等は茲にこの現代機械的リアリズムに立脚する住宅建築に對して、此れを盲目的に吸收しやうとする前に於て、更に嚴正なる檢討と批判の必要を感ぜざるを得なかつた。何とならば此等現代理智主義の下に形成せられつゝあるこの住宅建築が持つ甚だ危險性を帶びたパラドツクスを發見し得たからである。

住宅機械論より來れる住宅建築を今具體的に展望するを得た吾等は、其等の幾多の新形態の中に於て住むべき機械としての完全なる合理性を百パーセント認識し得べきであらうか。住宅の機械化として、單一化せられたグラスの壁面、金屬管化せられた家具、チューブ形の電燈、屋上庭園、住宅平面の合理化等が擧げられた。けれどはたして今や此等に依つて住宅が完全に機械化せられて居やうか。古

建築よ何處に往く (4)

明日の速度、鐵道や架空線が一時間三百哩から五百哩、空中速度は七百哩から千哩（現在の記錄は一時間に空中三百六十哩、自動車二百四十哩、鐵道百二十哩）こうなれば距離の觀念を置き變へねばらぬ、東京大阪間七時間といへばこそ、東京に住宅をもつて大阪へ出勤する譯には參らないが、時速一千哩の航空機を飛ばせば夏は北海道の登別や上高地あたりから、冬は九州の雲仙や櫻島から大阪に結構出勤時間に間に合ふことになる。今日のやうにゴミゴミした都會地に究屈な住宅地域を作るは愚かの骨頂である。



今日の高速度記錄保持のシルハンブルツト號

い材料に依る舊態が、新しい材料に依る新形態に形造られたと言ふに過ぎない。此等の新形態は何れも住宅を機械らしく、機械のやうに見える——汽船の如く、汽關車の如く、航空機の如く——ことに成功したかも知れないけれど、決して住むべき機械としての住宅ではあり得ない。住宅の機械は現在に於ては未だ形成されて居ない。只あるのは機械の如く見える住宅である。

茲に於て恐るべき言葉が生れる。機械のロマンチシズム。リアリズムのロマンチシズム。曾つては『宗教のロマンチシズム』に依つて爲された中世建築に多大の嘲笑を與へたものが、なほ單に宗教の二字が機械の二字に置きかへられるといふ破目に陷らんとしつゝあるのは爭はれない事實であり、過去の歷史的建築思潮から脫却せんと心がけつゝ、なほも前者の轍を踏まんとし、理智主義に立脚しながらロマンチシズムの形骸を脫し得ない傾向を今日認め得べきではあるまいか。

これ如何なる理由に基づくべきであらうか。吾等をして更にその一端を考察せしむれば、恐らく住宅建築の科學的要素の不分明に起因するもの、なることを認めしめる。汽船、航空機等所謂純粹機械に於ては、各その目的に順應すべき工學的理論が明に究明せられて居る。換言すれば此等の各機能は徹頭徹尾數理的に解決されて居る。然るに一方住宅機械に於ては如何。これを構成すべき最主要の要素となるべき吾等が日常の生活の定式なるものが科學的、數理的に解決されて居るであらうか。現代理智主義の下にあつて、なほ吾等が生活方式は過去に於けるものといさゝかも變じて居らない。何等數理的、科學的な明答が與へられて居ない。若し現在與へられつゝあるものと言ふも、それは住宅の機械化に對する極く少部分の可能性を示めせるに過ぎない。

茲に於て、住宅機械論、リアリズムに立脚せる住宅建築は少くとも今日の科學、現在の狀態の下に於ては、未だなほ遠き將來あることを察知し得るのである。そして吾等は今日の機械主義的住宅がそのロマンチシズムの假面を脫してリアリズムの境地に向ふべき道程の如何に就ては、現在茲に言及する必要を感じないのである。

更に進んで、現代機械主義に依る住宅建築に對する、今一つのパラドツクスを擧げることが出來る。即ち合理的ならんとする建築機能の分化、經濟的ならんとする部分品の規格化——コンクリートブロツクの發明、サツシュ、ドアーの規格統一、鐵筋、鐵骨の規格統一——此等は何れも過去の建築が手工業的方法にのみ依つたのに對し、建築をして大工業化なし得る可能性を暗示して居る。そして既にこれは住宅建築の大量製産性を示めすものである。住宅は最早建築されるのではない。又構築し、組立てられるものでもない。住宅は一個の製品として計畫的に、大量製産せられねばならぬ。即ち茲に於て必然的に住宅建築といふ一つの工業的な企業が實現されなければならないことは明に認められる。

然れども、吾等は茲に或る不安を感ぜざるを得ない。

住宅建築の企業は一體誰れの手に依つて可能ならしめられるか。明な命題は既に吾等に與へられて居る。『資本主義社會にあつて、その階級社會のイデイオロギーがはたして住宅建築の工業化の實現を可能とするか。』

グロピウスが住宅難に苦む多數の勞働者の爲に合目的住宅の計畫を提唱し、薄暗い、濕つぽい、幾多病源體の發生地である彼等の住宅が鐵とガラスとコンクリートに依つて新しくよみがへるであらうといふ幻想を抱いた。幾多の社會問題はかゝる新しい建築に依つてのみ解決されるものなりと信じた。然しながらそれは恐らく一個の幻想として多分に見失はれるに相違あるまい。現代資本主義社會に於て一體かゝる勞働者がかゝる住宅の恩惠に浴し得ることそれは明に不可能の問題である。映畫メトロポリスに表はれたその生活狀態はこれを一個のロマンテイツクストオリーとして捨て去る必要は敢てあるまい。若しくは萬一此等住宅機械が彼等の所有に歸したりと言ふも、それは只僞瞞に過ぎないとも言ひ得る。何故なれば機械は、それ自身としては、明に勞働時間の短縮であるが、此れを資本家的に使用すれば勞働時間を延長

するものであり、それ自身では勞働を容易にするが、資本家的にはその限度を增加せしめるからである。茲に住宅の機械論は資本主義社會に於て、現代に關する限りに於て、明に相容れない分子を發見せなければならない。

◇

現代理智主義の下に展開せられた住宅建築。それは工業化せられんとする可能性を有しながらもなほ工業化なし得られない。リアリズムに立脚しながら、ロマンチシズムをも脫却し得ない。今や二つの暗影が新しい住宅建築の將來に向つて投じられて居る。

茲に於て吾等は最後の最大の斷案に移らねばならぬ。即ちこの暗影の分析解剖は其處に建築の社會性を發見せしめる。然れども此れは敢て茲に言及しない。混亂と狂燥の社會、其處に混亂と狂燥の建築が生れ、住宅が出來る。かくて吾等は現代住宅建築への或る回顧と展望を試みた。人若し建築の社會性を認めるならば、吾等のこの思索のプロローグが同時に又エピローグにもなることを感ずるに相違あるまい。

（一九三〇、六、廿三）



明日の建築界

中尾保

明日の建築に對するイデオロギーの方面は此際御歷々に一任することにしてこゝでは建築界の明日を語ることにした、これは勿論明後日の建築界を明るいものにしたいと云ふ希望からに過ぎないことを斷つて置く。

◇

扨て現代日本の社會は何事に限らず『合理化』『合理化』で兎に角曲つたなりにも世界的近代思潮に近づきつゝあることは先づ慶すべきことゝせなければならぬ。財界不況の世相に直面した今日の日本人は口先のみの『合理化』から遂に『眞の合理化』の必要を痛感する時代に到達したところである。これからの研究こそ虛僞を脫ぎ捨てた眞劍そのものとなるであらう、又斯くあるは當然の事である。

◇

然るに如何に合理化に意を用ひてもその實現の到底不可能なるはわが建築界である。合理化は先づ建築家乃至建築關係者の自覺を待つて後のことに屬す。

片岡安先生は常に『建築家の人格向上』を高唱して居られるがその意味は主として『建築家はもつと高潔なれ』と云ふところに在ると推察するに難くはない、然らば『現在の建築家はすべて高潔に非ずとなすか』と云ふに勿論全部が左に非らざるは明かである。けれども大多數は矢張り腐敗墮落して居ると敢て斷言し得るを深く悲む。（事實列擧を略す）

何が建築界をしてこゝに到らしめたか？今日までに風聞するところを統轄し且常識を以つて推斷すれば實に寒心すべき次の二つの事項の潛伏を知る。一は巧妙なる手段により金力を以つて社會の有力者を買收するとに全力を傾注しつゝある請負業者の流行にして、他は地位職權を濫用する所謂特權階級的暴力團の橫行である。若しこの二つが事實なりとせばもとより建築界を墮落の淵に陷入れた源はこゝに存することは自明である。而して前者は主として關西地方に多く後者は關東即東京に據城を構へ將に大阪にまでその魔手を延ばさんとしつゝあり、二者何れも外面的行動は老猾巧妙を極め容易に探知すべからざるところに根强さを持つて居る。

◇

これを撃滅せんと欲する者は先づ建築界から退き安全なる地帶に攻城砲を据へ着け遠距離乃至側面射撃を試みるより他に途はあるまい、敵は精巧なる機關銃を持つて居るから最初から突撃に出るは無謀である。又巧妙なるカモフラジユを施して居るから空中攻撃も大した効は奏せぬであらう。而して遠距離からの巨彈が命中したら果して何うなるか。戰後の建築界はただルーインとなるのみ。これを病氣に例ふれば建築界は二つの癌を持つ大病人である。内服藥も注射も最早効無きは勿論さりとて思ひ切つた外科的手術を施せば營養不良に陷つて居る建築界を遂に死に至らしめねばならぬと云ふところである。

◇

政界の綱紀肅正は爲政者に誠意さへあれば法の力によつて斷行することは出來ても建築界にはそれは出來ぬ、斯くの如き現狀から推測すれば明日は一時的にもせよオフイースアーキテクトの滅亡期なるを豫想せなければならぬ。その他の建築家も帝國大學出身者にして而も右暴力團に加入した者にあらざれば建築家として世に立つ『所謂資格』を失ふであらう。校門を巢立つ若人は悉く就職難にあへぐであらう。機密費の用意を忘れた請負業者は失業の已むなきに至るであらう、こんな時になつて何が合理化だ。

◇

斯くの如き結論を生むに至りたるは全く余の推斷による前提からで、この推斷の全く誤見であることを切望してやまぬものである。

（一九三〇年七月五日）



正面（ファサアド）より
内容的考察へ

松成信夫

はしがき

『明日の建築』――この題目は甚だしく漠然としてゐて多くの人々に依りて種々雜多に解釋され得る處の題目である。併し『建築と社會』の編輯部の意志としては、『行き詰れる現代日本建築界は如何に打開されて、（明日は）如何に建築さるべきか？』と云ふのではなかろうかと思ふ。たとへ、編輯部の意志が私の推測とは異つて居るにせよ、右の問題は現在日本建築界に取りては大きな問題であつて、これに對して答案を提出する事は現在建築理論壇の義務の一つではあるまいかと思ふ。私に數頁を與へられたのを幸にして私は私としての答案を提出して見ようと思ふ。

幾度も云ふ事であるが、私のこの拙い答案が現代建築界の重要問題を太陽が氷を解かすが如く解決するものと期待する人もゐないであろうし、又そう云ふ樣に百パーセント完全なる答案である事は確實に不可能である。何となれば、『Aの本質はかく〳〵である』とひようたんから駒を出す樣に簡單にはかゝる答案を提出され得ないと云ふ事を、少しでもものゝわかる人であるならば理解してゐるであろうと思ふが故である。私の答案は何時もの如く拙いものになるであろう。併し、これをふみ臺としてこれが檢討され、修正されて益々高度の發展を建築が得るならば幸である。

1

アドルフ・ベェネ（Adolf Behne）[註]は現代建築運動を三つの時代にわけて

第一の時代　を建築家の關心が

正面（ファサード）から家屋自身への考察に向つた時代だと記してゐる。

――家屋は何の爲にあるか？家屋の機能とは一體何か？この時に於いて現代の建築運動の發端がある。――

第二の時代　は空間的形成の時代であると云ふ。――家家は機能に基いて如何に形成されるか？又如何に材料を駆使し、如何なる材料を用ひて形成するか？――

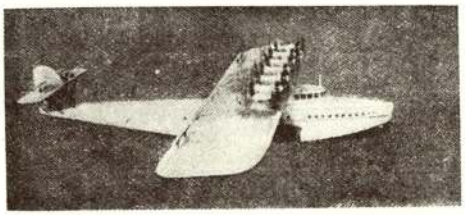
第三の時代　は建築家の關心が、この空間的形成の問題から更に實生活に於ける實際的形成へとその重心を移した時代であると記してゐる。――この時、建築の工業化と合理化が建築家に與へられた課題になる――。

註　「建築と機械」（「思想」―昭和四年八月號）香野雄吉氏より。

以上の考察は大體に於いてだ、當的であると思ふ。さて、日本建築界大體のすう勢はこの中の如何なる時代に屬してゐるであろうか？悲しいかなこの中の第一の時代にも着手してゐないのである。それは例證する迄もなく街頭の諸建築が諸君に雄辯にもの語つてゐるであろう。依つて先づ我々は第一の時代を通過しなくてはならない。第一の時代――それは正面（ファサード）から建築の内容へと考察を移しかけた時代である。この一つ先に着手すべき問題に就いて檢討し、批判して、ファサアドから内容的考察に移るには如何なる立ち塲に立ちて進むべきかを、私の答案としたいのである。

さて、建築家が正面（ファサード）から内容的考察に移るには何がそれをかくさすか？私はその最も大きい原因を社會狀勢に求める。そしてその正確な姿を知ろうと思へば、建築に於いて正面から内容的考察に向けた最初の時――即ちオツト・ワグナーのゼエツシヨン結黨時代（一八九七・明治三〇）の歐洲の社會狀勢を研究して見るのが最も近道でありまちがひが少い。依つて、ここでは先づ、**如何なる社會狀勢に於いて建築家が正面から内容的考察に移るか？**――を主題とし、その研究材料として一八九七（明治三〇）の歐洲の社會狀勢の鳥かん的研究をしよう。依つて先づそれより以前の社會變轉の史的考察をなして行かう――併してこの史的考察それ自身が、結局に於いては一八九九年の歐洲――特





建築よ何處に往く（5）

空中に地上に距離が縮められるのは何より結構至極であるが、同時に太平洋上の距離も其他の大陸との距離も今日のやうでなくなる。

某國との距離が五日間である内は國内泰平であるが、五時間になつたら？

問題になるのは防空問題だ。國際間の暗雲は數後刻には、毒瓦斯となり、爆彈となつて吾等のメトロポリスを見舞ふであらう。

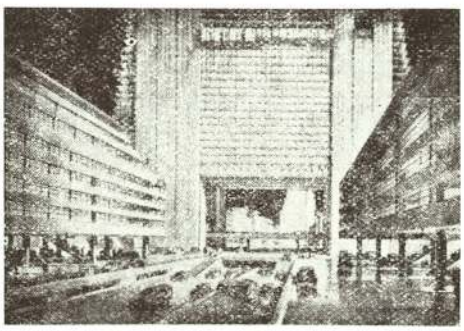
明日の建築家の特異點は防空都市計畫にある。防空建築にある。



空撃を受けた今日の都市

建築よ何處に往く (6)

防空からするメトロポリスは工業中心、商業中心に、政治中心等に切り離なされ、工業中心は地上から姿を消して地殼中に厚い爆彈、毒瓦斯保護層をきて、嚴めしい防空砲臺に圍繞される。商業中心だけは、稍、昔日の俤を殘して、地上に華やかなスカイスクレバーを寄り、地上、地中共、二重三重の高速道路を持つて晝は燦然と輝く硝子壁に夜はなごやかな冷光照明の快適を內部に秘めて外には、より刺激的な超ネオンの廣告表示、裝飾照明が亂舞するであらう。



商業中心

に獨壇——の社會狀勢を我々にしつかりと知らして呉れる處のものとなるのである。換言すれば、一八九七年の歐洲の社會狀勢を知ると云ふ事はそれより以前の史的考察をすると云ふ事に他ならぬのである。——

十六・十七世紀

は封建主義制度から資本主義制度への過渡期の第一形相を表はし始めた時代であつた。もつと詳しく說明すれば、中世封建制度の物質的基礎は土地又は農業經濟である。封建諸侯は土地を持ち、自ら働く事なくして支配權を持つてゐた。經濟形態は封鎖的であり、農業が主要産業であつて手工業は唯內職の如きものであつた。經濟活動の指導的精神は自給自足主義で營利主義は發達してゐなかつた。

然るに十字軍時代より發達しかけた商業は封建制度をゆるがして營利主義の精神を構成し、貨幣財産の端を作つた。ここに市民階級なる第三階級を作らしめた。市民階級は土地を貨幣にて買ひ取り始めた ゆるぐ事を豫想しなかつた封建諸侯は市民階級の爲に徐々に自分等の座席に侵入され始めたのである。これ、十六・十七世紀を通じての現象である。

こうした社會組織の動搖し始める時には、必然的にその表面的現象としての社會現象たる藝術・思想・科學の混亂が起る事の理解はつくであろう。註

註 科學の超階級性及び自然科學が社會科學の制約も受けずに別個に活動をすると信じてゐる人々にエンゲルスの「反デュリング論」及び、寺島一夫氏の「プロレタリア科學」二月號の論文を御すゝめする。

かくして十八世紀に進むにつれ新興階級即ち市民階級（後のブルジョアジイ）の勢力は封建諸侯階級——即ち時の支配階級に比して强大なるものとなつて來た。所謂封建主義末期である あらゆる社會現象は混亂其極に達した。建築はバロツク・ロココ・初期古典主義等全く混亂してしまつてゐる。丁度この頃（一七八九）フランス大革命が起り、政權は新興階級のものとなつた。これは單にフランス許りでなく、他の諸國もこれに前後して世界は封建主義より資本主義へと進展して行つた。

資本主義經濟組織は手工業より機械工業に發展せん爲に自然科學の發達を强制し、自然科學の發達は機械の發達となり資本主義を公式通りに鞏固に發展せしめた。思ふに近代自然科學の發展は資本主義に依りて培れたもので、若し何時迄も封建制度であつたならば今日の如き自然科學の發達も見られなかつたであろう。エンゲルスは確明に云つた『自然科學は社會科學に依りて決定せられる』と。

自然科學の發達 ——即ち機械の發達は資本主義經濟に計り知られざる貢獻をなした。

資本主義經濟組織は十九世紀に入りて增々鞏固となり、その鞏固化はその內部に矛盾・衝突の發生を來さしめた事を意味する。

封建主義より資本主義へ、併して資本主義に依りてつちかはれたる機械の發達、そして資本主義內部の矛盾・衝突の發生。社會現象は常に引きつゞいて混亂、又混亂を混亂をくりかへさなければならなかつた。

自然科學の發達と、功利主義藝術理論の普及は(1)建築新人に對して在來的な『正面（フアサード）の建築』に對して疑問を投ずる事を教へた。この新人の代表者としてオット・ワグナー(Otto Wagner)を我々は指すであろう。彼は『正面（フアサード）から內容へ』

と考察しかけた近代建築理論家の始祖である。

(1) 功利主義藝術理論を持する理論家としてジョオン・ラスキン (John Ruskin, 1819～1900) ウィリアム・モリス (William Morris, 1836～1596) の二人を擧げる。二人は唯功利主義的であつた許りでない事は無論の事である。

(2) オツト・ワグナー以前に「正面から内容へ」と注目した建築家の無い事はない。私の知る一人としてシンケル (K.F. Schinkel 1781～1841) がゐるが彼はやはり古典主義の樣式の中に閉ぢこもつたので、現代建築運動の始祖と云ふわけには行かぬ。又オツト・ワグナー以前に彼と同じ樣に建築に就いて思索した建築家もゐたであろう。然し運動に飛びこんで行つたのは彼より他には(以前に)無いが故に、彼をして現代建築運動の始祖と云ふのである。

オツト・ワグナー一派が建築の正面から内的考察に移つたのは以上の如き社會狀勢の下であつた。

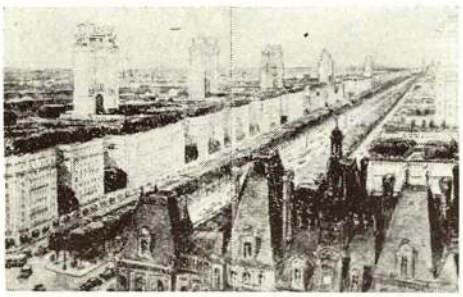
2

然らば、現在日本建築界は『正面から内容的考察』をなさしむる社會狀勢の下に位置してゐないのであらうか？何が故に日本建築界は『正面から内容的考察』に移り得ないか？——を檢討しよう。

日本資本主義文化は先づ明治維新を以つて切り開かれた。歐洲のそれとは大體に於いて約一世紀もおくれて出發したのである。[註]

註　フランス革命は一七八九年、明治維新は一八六八年、この間約八十年のへだゝりあり。

然し日本は急激に歐洲先進國の文化を吸集した　そして明治中期には大體に於いてその形式は歐洲文化の形態をととのへた。——と云つてもこれは日本の全土がかくなつたと云ふのではなく、日本の首要都市に於いて大體それを認める事が出來る樣になつたと云ふのである——。だが、その文化の成立は唯形式を整へたと云ふに止つて、未だその文化は、詳しく云へば資本主義文化は　その内容を充實出來なかつたのである。彼、日本は高度に發展せる歐洲資本主義文化の吸集に狂奔した爲に、必然的にその形式から吸集したのである。これは文化が高度の個處より低位度の個處に移る時の必然的現象で、餘談乍ら日本人の形式的模倣をわらふ人達はこうした文化の移動に於ける公式を知らない人達である。

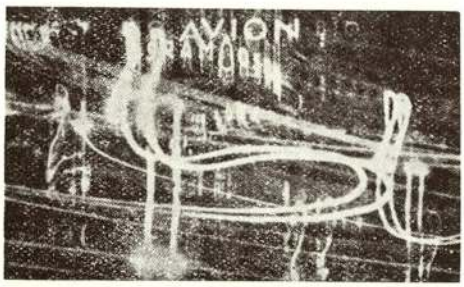


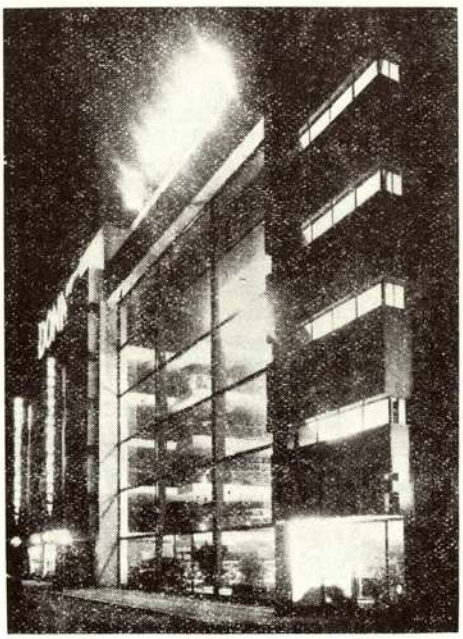
建築よ何處に往く (7)

上は商業中心の案であるが、今日と明日の間を往く折衷案らしいるなまぬさがある。

中はかくあらうと思はれる商業中心の夜景。

下は今日の建築ではあるが明日を想像するに役立つであらう尖端的な商店建築。





建築もこのカテゴリーから脫する事は出來なかつた。明治四年に開かれた工學寮（後の帝大工學部）は多くの外人教師を雇ひ入れて日本に於ける建築教育に當らしめたその外人教師はほとんど英人許りである事に先づ注目する必要がある。註

註　「建築雜誌」（昭和三年二月號）「明治初期に於ける我國の工業教育」塚本靖氏の論說參照）

この外人教師達は歐洲に於て浪漫主義と折衷主義の間に教育せられた人達で、彼等は現代建築運動以前に教育せられた人達である。そして彼等が後に建築運動の發生を見た獨・墺より反對的位置にある英國である事は、彼等教師達が英國に於て唯正面（ファサード）のみの教育をされてゐた事は無理からぬ事である。こうした教師達に教育された人達は先づこの人達のカテゴリーにはいつて實際建築界に進出しこの新しい人達こそ日本建築界の輝ける指導者となるのであり、又事實なつた。この大先輩は『建築は藝術なり』の理論をまこうからふりかぶつて實踐し、指導した。

彼等は唯ファサアドが問題であつた。だが、そうした大先輩達が英人教師の造つて呉れたカテゴリーの中にはいつて先づ社會に出る事は必然である。**然し、問題は別個の處に存在する。彼等がそのカテゴリーから脫出するかどうかである。**

あらゆる社會現象はその時の社會狀勢と切り離して認識する事は不可能であり又その社會現象の主因を知らんとすれば先づその時の社會狀勢の檢討から出發しなければならない。明治中期頃までは日本資本主義文化は唯吸集時代であつた。然し、明治も終り、大正も中葉過ぎた頃、日本資本主義文化は完全に歐洲のそれと肩を伍してゐた。**先づ問題はこゝから發生する。**自然科學の高度の發展は機械の百パーセント効率を我々に教へた。建築材料にも完全に變革を來さしめた。社會思想は高度に發展した。——と云ふ事は、資本主義經濟組織の內部に矛盾と衝突の發生して來た事を語るものだ——。歐洲に於いてはゼエツションが完全に風靡してゐる。然るに日本建築界は數人の個人主義的な建築運動者を作つただけで、以前の如く正面から內的考察にはむけなかつた。註

註　石本喜久治氏一派の「分離派」である。私はこれを歐洲のゼエツションの運動と同一レヴエルに評價する事を遠慮しなければならない。それはその發生素因が偶發的で且つ形態は組織的でなく、又、個人主義的色彩が濃厚であつたが故である。そして最も大きな理由は、その人達の運動は日本建築界を實的に動したと云へないからである。

この問題は——科學と社會思想の高度に發展があるにもかゝわらず正面（ファサード）から內的考察にはいり得なかつたと云ふ問題——こそ今日我々は十二分に檢討する義務があるであろう。

日本建築界は常にスター・システムであつた。建築界のスターとは如何なる人々を指すか？それは浪漫主義と折衷主義、或はそれより以前の樣式至上主義思想に依つてつちかはれた人達が今日の建築界のスターであり建築界の實踐方面に於ける支配者である。建築は常にスター・システムに依りて、即ち、樣式至上主義者に依つて動かされ左右されて來た。その人達は新しい施工法、新しい材料等に就いては十二分に注意して吸集してゐた。**併し、如何に新しい機械を使用し、如何に新しい材料を多く使用したからとてそれが直に正しい意味に於ける新しい建築とはなり得ない。**アメリカの建築はこの點を明に示して呉れてゐるではないか！

建築界の支配者達は建築の內容的考察をする事をしなかつた。彼等は新興の思想・藝術・理論に耳をかたむけなかつたが故である。正確に云へば、耳をかたむけてもそれは理解され得なかつたかも知れないのである。彼等には生活的に安全な地位を與へられてゐた。これが彼等をしてそうした理論的方面への進出をさまたげたのである——と云ふ事は他の一面からもつと確實に明瞭に云ひ表はされる。それは一般大衆は在來的な美學に依つて樣式的建築の美を認めてゐた。そして建築は常に何かの樣式に歸屬してゐなければならないと信じてゐた。その實證は建築が出來ると直ぐ『あの建築樣式は何と

云ふんですか』とか『樣式は何ですか』とかと反射的に聽くのである。

大衆は樣式至上主義者であり、審美眼は低級である。資本主義は消費者として大衆に目的を置く。資本家は大衆の目をうまく誘惑しなければならない。建築も大衆に氣にいる處のものでなければならない。そして資本家は樣式的建築や、わけのわからないファサアドをした建築であらしむるべく建築家に要求する。命を受くる建築家は常に建築界の支配者である。彼等にはそうした建築は全く御手のものである。こうした關係の中に建築が存在するが故に彼等は理論的方面に注目する必要はなかつたのである。

論理と情熱は青年期に特に著しく所有される。青年期には又新しく知らんとする欲求に燃えてゐる。彼等はあらゆるものをあさりそして吸集する。彼の論理はそれを取捨させる。そして情熱は常に外部にそれをぶちまけようとする。眞劍にして新鋭なる建築家は建築に於ける支配階級に對して反ばくをした。そうした言論は『蛙に小便』であり、『馬耳東風』であつた。何故なれば、彼等新鋭理論家が共同戰線を張らなかつたが故である。

以上を要約すれば、

(一) 建築の支配權は建築家でなくて資本家が握つてゐた。

(二) そしてその建築する事の命を受くる者は建築界の老大家達であり、そして老大家達は建築の理論的方面に耳をかたむけるには餘に生活が安定してゐた。

(三) 新鋭なる建築新人がそうした建築界の惡風・邪道に對して理論的に抗爭を投げつけても、彼等が共同戰線を張つてゐないが故にそれは相手にされなかつた。

かくして日本建築界は遂にファサアドから内容にはいる事が出來なかつた。果してこの儘でいゝのであろうか？現在社會の客觀狀勢は一體我等に何を要求しつゝあるか？

3

人類のあらゆる行動に於いて、それを廣義に於ける『經濟的』過程（プロセス）の最大限度を取らんとして今日まで進展して來た。各時代の文化の度合（ディグリー）はその社會的行動の如何に『經濟的』であるかゞ一つのバロメーターになつてゐると云つても過言ではあるまい。だが以上は經濟的主義——假にこう稱しておく——の一般論である。それは各時代、各階級に——特に支配階級に取りて如何に行使されたかを檢討して見るならば、それは各々皆異る事を知るであろう。

先づ我々は現代資本主義社會に於いて、この經濟的主義が如何に行使されてゐるかを檢討して見よう。

資本主義經濟の行き詰りは產業の合理化が世界的の聲と力として要求せられ、實施せられつゝある。これ即ち、『經濟的主義』の具體的表はれである。然しこれは資本家側に取つて都合のいゝ『經濟的主義』であつて、プロレタリアートの利益を考慮して要求し實施したのでない事はこゝで喋々と說明するまでもない。彼等は常に彼等の利益の爲に『經濟的主義』を取るが

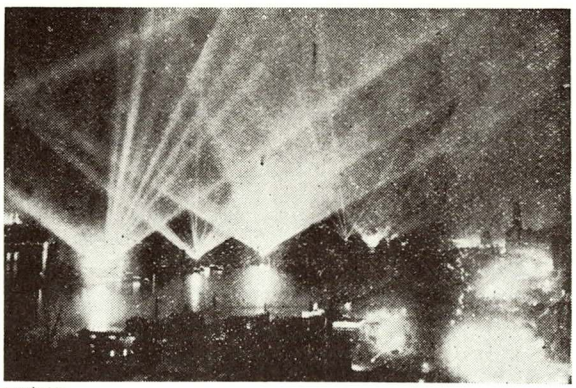
建築よ何處に往く (8)

住宅區は今日の距離を超越して風光明媚土地高燥の健康地に點々と配置される。勿論、商業中心の高速交通網中にあることである。

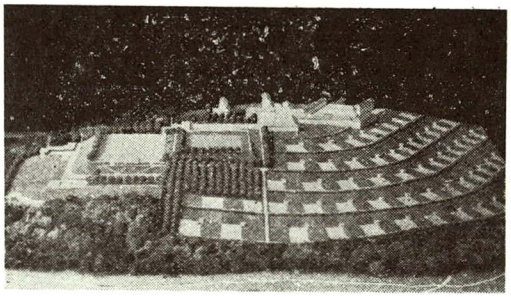
結核患者なぞは見たくても見られなくなるだろう。

すは敵空軍商業中心に襲來すとの警報が來れば、燈火管制をやつて、地中街にのがれ己が自々住宅區へ避難する。後は、煌々たる照空燈が、空の魔物と闘つてゐる許り。

各區、數十哩を距てた住宅區は森林にかくまれ、山に護まれて靜寂其物のやうであらう。



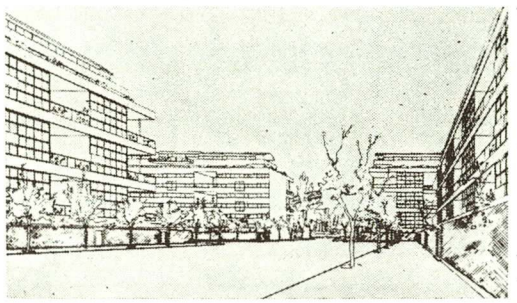
照空燈



建築よ何處に往く（5）

美はしの住宅區

今日の都市の汚濁亂雜、焦燥から逃れてかゝる美はしの住宅區に生活を享樂し得るとせば明日の人の幸福を羨まずにはゐられない。



時と場合に依りては一般論的『經濟的主義』は否定せられるのである。**註**

註　假に砂糖製造會社に十臺の機械を使用して一ケ月平均一〇、〇〇〇キログラムの砂糖を製造し得るとするそれをその儘市場に出す時に他の會社と競爭上單價を下げねばならなくなつた時が來たとする（供給／需要の價が大きくなつた場合）この時、需要があるにもかゝはらず各會社がだ協して少量しか市場に出さない樣にするのである。今度は一臺に就き八〇〇〇キロか七〇〇〇キロ位しか生産しないのである。（これと同時に失業者も生ず）これは客觀的に「經濟的主義」ではない。

註の場合とはその否定の形は異るが本質的には同じ處のものを建築にも見る。建築の在來的デコレイシオンである。

我々は資本家の提唱する經濟主義にはこうした意味も含有してゐる事に先づ知らなければならない。この經濟主義は新興階級の立場から見るなれば絶對に揚棄しられなければならない。——あらゆる現象のもたらす利益は何處に落ちつくか？は觀者の階級的立場を明にする事に依りて觀者自身とに最も明に認識せらる——。

かゝる理由に依り、嚴密に新興階級の爲に、即ち來る社會の爲に、我々は新しい經濟的主義を要求せられるのである。この廣義の經濟主義の中には（建築の）機能主義も含んでゐるのである。

建築が正面（ファサード）から內的考察に轉向出來なかつたと云ふ動かすべからざる理由は資本主義の大きな力に依つたと斷言出來るのである。

先づ我々がプルレタリア・イデオロギーに貫かれた濟經主義の意味を認識するときに始めて本當に正面（ファサード）から內的考察へと進展し得るのである。

この提言を實證する處のものはゼエツシヨンの沒落素因が明瞭にそれを語つてゐる。

ゼエツシヨンは當初のはつらつたる意氣に反して、それが表現派となるに及んで沒落した。オツト・ワグナーはファサアドから內的考察に進展した。だがその思想はプロレタリア・イデオロギーに貫かれたものでなかつた。彼の弟子である多くの建築家もそうであつた。かるが故に、ゼエツシヨンは表現派に轉向して、內的考察からファサアドに逆行したのである。

我々はブルジョア・イデオロギーか或は中間的イデオロギーに依りたる經濟的主義に依りてファサアドから內的考察に移る事もあり得る。併しそれは本質的には正面主義（形式主義）のものであり又さもなくとも必然的に形式主義に逆行するものである事を强調しておく。

我々現代の日本建築家に與へられた第一の課題は先づプロレタリア・イデオロギーに貫かれた經濟的主義の上に立ちて正面（ファサアド）より內的考察をする事である。

然しかく云ふ人があるであろう。

『それは結構。併し、ブルジョアが建てる建築だ。ブルジョアのする儘にさしておいたがいゝではないか』

この言葉を許すと云ふ事は次の言葉を許す事と同じである。

『現在は資本主義社會だ。ブルジョアのなすが儘にしておけばい

、」

後の提言を許さぬと同様に前の提言を許す事は出來得ない。そうした事に對して抗爭して行く事それ自身が今日新興階級の任務であり義務である。註

註　こゝに於いて、「どう云ふ風に抗爭するか?」――即ち『抗爭方法論』が問題となつて來るであろう。併し、本論文はそれに對して答へるのが目的でないので省略する。この問題に就いては別の機會で述べるであろう

4

我々建築家及一般大衆がプロレタリア・イデオロギーに貫かれたる經濟主義を把握する時、建築のファサアドから内容的考察に移る事が出來る。そして、ファサアドから内容的考察に移る道（プロセス）は唯この道一つである。その時我々は建築の機能を研究するであろう。そして現代建築の持つ目的の把握に向つて努力する様になるであろう。否『であろう』ではない。『のである』である。そしてその方法は常にプロレタリア・イデオロギーに貫かれてゐる事は無論である。若しその方法がブルジョア・イデオロギーなるなれば、その人はプロレタリア・イデオロギーの上に立ちて『正面から内的考察』に移つた人では斷じてない。

次にプロレタリア・イデオロギイとブルジョア・イデオロギイにて建築の機能を研究する時、其處には如何なる差異があるであろうか?これこそ我々新興論陣に於ける建築批判の基準にならなければならない。

資本家が營利を目的として映畫館・劇場を建築する場合を考察しよう。彼等に取つて最も機能的にして合目的的のものは何か?

（一）　觀客を單位面積に出來るだけ多く含み得る事

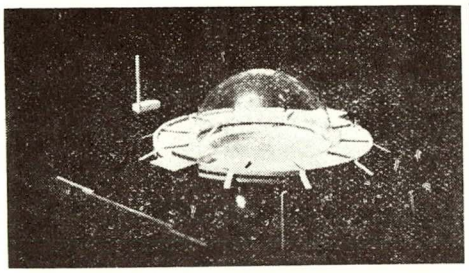
（二）　觀客に經濟の許す範圍内にて十二分の快感を與ふる事

（三）　建築を最小限度の經費・時間にてなす事

以上の三條件を見る時、それはブロ・イデアでもブル・イデアでも全く共通である。だが誤つてならない事は、上記の三條件は唯その出發點が共通であると云ふだけで、その行程と目的地は全然反對的のものである。問題は先づこの行程と目的地にかゝつてゐる。

先づ（一）の場合に就いて考察しよう。

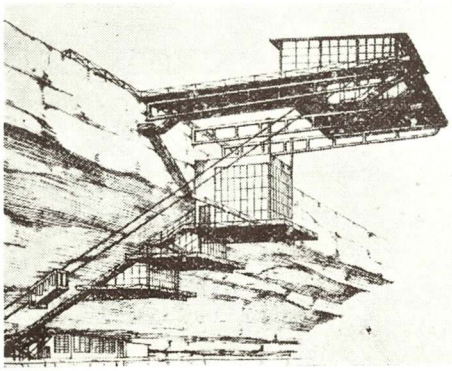
資本家は營利の目的で單位面積に『最大限度』の人員をしう容しよ

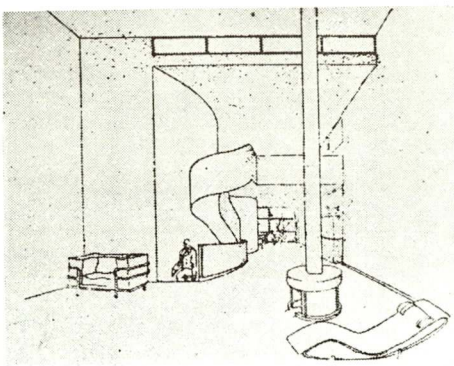


建築よ何處に往く (10)

鐵とコンクリート、鐵とガラスの時代の建築家は、私達に愉快な作品を見せて呉れる。

時には「化學實驗室の一隅にて」とでも題したい靜物畫のそれの如く、時には貨物運搬機のやうなレストラン（定めし化學方法式通りに元素を結合させて、電氣の火花ででも料理した御馳走が出るであらう程の）、人間が男も女も裸體でスポーツマンライクに住めそうな住宅。





うとするのである。然らばその『最大限度』は何に依つて決定されるか？觀客が辛ふじて見物出來る點に於いて決定せられる。單位面積のしう容人員が一定の限度を超過する時には一般に觀客に『不快』の感情を發生せしめる。併し、多くの場合この『不快』も習慣的な力に借りて單位面積のしう容人員の增大を計るのである。

その具體的な實例として三階席のギャラリーのこう配を法規の規定する最大限度のものとして觀客の不安も無視して、最大限度の人員を收容してゐる。（東京・武藏野館）

又、スクリーンの中心と觀客席とを結んで出來る角度の一定限度を超過すると、それは誠に不快のものになるのであるが、芝居小屋（劇場にあらず）の平面（プラン）をその儘取つて發達した映畫館は、芝居小屋の如く、その『かぶりつき』から座席はもうけてゐる。云ふまでもなく演劇による視覺は三元的で、映畫は一枚のスクリーンである故に二元的のものだ。この點に就いて我々は十二分に研究する必要があるであらう。資本家は在來的な習慣的な力――即ち座席は『かぶりつき』からあるものだときめてゐる大衆の無智を利用してゐるのである。

そしてこうした實例はあらゆる資本主義的建築の隨處に發見出來る。

ひるがへつてプロ・イデオロギイにてこの問題にのぞむ時には如何？

我々にはもはや營利の目的はない。併し、別な意圖に於いて單位面積の最大收容人員を計畫する。この場合の最大收容人員は何に依つて決定されるか？觀客本位に依りて決定せられるのである。こゝに於いて資本家の計畫した映畫館の如く觀客に不快の感情を與へる事は及ぶ限り避けるのである。云ふまでもなく、唯、觀客本位とは云へ、そこに多くの無駄のある場合は取らぬのである。

かくの如く、出發點は同じく多人數をしう容しようとしてもその行程に於いてかく異り目的も無論異つてゐるのである。

次に（二）の場合――觀客に經濟の許す範圍内にて十二分の快感を與ふる事――に就いて考察しよう

資本家の目的はこゝに於いても同じく『營利』である。彼等が觀客に快感を與ふる形式は表面に於いてはこびであり、裏面に於いてはろうらくである。故に、その建築が持つ特有の雰圍氣をこびの形式で助長さす。映畫館に於いてはブルジョア趣味のデコレイションをなし、或はブル趣味の平面計畫をなす。彼等は無批判な大衆（大衆が總べて無批判であると云ふのではない。）の低級な或は非進步的な審美眼に乘じて世紀末的な雰圍氣をかもし出す事に苦心するのである。こゝ（映畫館）に於いては其の計畫はすべて惡い意味に於けるイゝジイ・ゴーイングである。彼等資本家は表面こうしてこび乍ら裏面に於いて觀客をろうらくしてゐるのである。

建築が常に現在の資本家の手に支配されてゐる間は、如何に建築理論家が机上でがやがや騷いだ處で、墮落こそすれ進步はないのである。――だからと云つて現在建築理論家の『無能』を叫んでゐるのではない。唯その方法論が今のまゝでは無効だと云つてゐるのである。近頃この『理論鬪爭の方法論の問題』が我々の陣營内に於いて眞劍に考へられる樣になつた。建築のこの方向違ひの進展を正しくけん制し、發展さす處の仕事こそ、現在建築理論家の重大なる任務である――彼等資本家が觀客に快感を與ふると云ふ形式は上記の如くである。依つて映畫館に於いては表現派末期のデコレイシオンやブル趣味の金ピカを用ひたりするのである。

以上は唯特別に映畫館を解剖しただけである。これと同樣な事は三井信託のオーダーや、あらゆるデパート建築が雄辯に語つてゐる。

併し、プロレタリア・イデオロギーを以つて建築をなす時は、この觀客に快感を與ふると云ふ條件はその本質も形式も完全に前記のそれとは異る。營利が目的ではないが故にこびる必要もろうらくする必要もない。客觀的に我等の新興階級に取りて正しい進展をなして呉れる處の計畫をするのである。だから建築家は大衆にこびる代りに指導的位置に立つのである。

併しこれは一般論である。現在の問題としては何か？プロ・イデオロギイを以つて建築する事の不

可能な現在は如何にすべきか？その仕事はもはや一般建築家の任務でなくて理論家の任務である。理論家は常にプロ・イデオロギーを以つて批判し、そして又大衆へ對して啓蒙運動を起すとである。(今日に於いては建築界内部の力を強くする爲に建築家それ自身に對して啓蒙運動をする事より、外部の一般大衆に對して啓蒙運動する事が重大なる時である。そしてこれは、内部に對してなす時よりは十倍も困難な仕事である。)

(三)の問題——建築費及び工期の問題——に就いても結局同じ事をくり返へすに過ぎないから省畧する。以上の如くブル・イデオロギーにて建築をなす時と、プロ・イデオロギーにて建築をなす（現在に於いては批判する）時は異るのである。

5

私は今迄に、(1)建築家がファサアドから建築の内的考察に移る時期の社會狀勢を摘出し、そして(2)日本建築界は何が故に正面から内容的考察へと移らないかを述べ(3)如何なる(階級の)觀點に立ちてその行動をなすべきかを明にし、最後に、(4)對立するブルとプロの兩階級からのそれぞれの觀點に立ちて建築行動をなす時の形式と本質を大體に於いて明にした。

アドルフ・ベーネは既記の如く現代建築運動の時代を三つの時代に分けてゐる。併し、現在は我々がこの三つの段階を徐々に上つて行く程餘裕のある社會狀勢ではない。先づ、ファサアドから内的考察に移ると共に、その建築の形成の問題も研究し、そして同時に、工業化と規格化とそして國際化の問題をプロ・イデオロギイにて分析しそしてそう合しなければならない時である。それらの問題に就いて論じて行きたいと思ふが、餘りに長くなるので、こゝでは唯ファサアドから内的考察に移る場合にのみについて論じて置く。

吳々も警戒を要する事は、自分の立場を明にする事で、そしてその立場は現在に於いては新興プロレタリアートの立場に立つべきである事である。如何に工業化や規格化や國際化を研究するとは云へそれが没落階級の立場に立ちて（意識するとしないにかゝはらず）それをなす事は、建築を正しく進展さす處か、反對に、邪道に向つての進展に速度を加へる處のものとなるであろう。

明日の建築隨感

設樂貞三

◇

「經濟を離れての現代建築は存在し得ない」と隨分古い言葉である。そして其れが力強い根底を持つ言葉でもあると思ふ。爰に現代建築といふのは「過古の建築」と區別する意味であつて、單に「現代」だけでなく、「過去」でないものといふ意味である様に考へられるのである。だから同様に「經濟を離れて明日の建築も存在し得ない」と言ひ表はし得ると思はれる。

果してそうだとすれば明日の建築を論考しようとするに先つて明日の經濟を先づ研究し推論して行かなければならない。少くとも「建築」を總論的に考究しようとするならば今日の經濟組織や社會制度といふものが將來如何なる進展を見せるべきだらうかを考査しなければ無意味に終るのではないだらうか？部分的に考へて——例へば構造學の架構の研究が將來如何なる方面の程度に發達して行くべきかといふ様な問題ならば或る點までの豫想もなし得られるかも知れない。又近時盛に研究され始めたところの「人間の生活し得る最小容積の住宅」などゝいふ方面から住宅の將來を推斷する事は或は出來るだらうと思ふ。然しながら

現在の住宅、事務所、ホテル、倶樂部、百貨店、小賣個人商店等々の建築が夫々生活樣式や經濟組織と極めて密接なる關係を有する以上、將來の變轉を考へるに先つて後者の研究を等閑に附する譯に行かない事は當然の事である。

では今後の日本の乃至世界の經濟組織や社會制度が何ういふ方面に變化して行くか、現在其の爛熟期に入つてゐるといはれてゐる資本主義が益々發達して行くだらうか？限られた國家又は國體に集中され過ぎた富は半面に於て他の國家、團體若しくは個人への缺乏を意味しバランスを破る樣な事にもなるだらう。其の失はれたバランスはやがて從來と全然異つた組織となつて革生するだらうと思はれる。

然し私は經濟學者ではないから其の赴く方向も到着點も論斷する力を持たないのを遺憾に思ふ。私の望むところのものは經濟學者であつて建築に通じ、建築專門家であつて經濟に造詣の深い人の出現を待つて、單なる將來の推論でなくて、其の進むべき正しき道を指示し、嚮導して呉れる人を待望したいと思ふのである

以下二つ三つの隨筆風の感想は從來から感じてゐた一つの偶感に過ぎない。將來の建築を論究したものではないだらうが、研究家諸氏への一つの暗示にでもなり得れば幸であると思ふ。

◇

現在歐米各國及び其の殖民地は勿論我が日本に於ても、主要都市のメーンストリートは「コンクリート」又は「アスファルト」若しくは石、煉瓦等の類を鋪裝されてゐるものが多い。都市計畫法の施工されてゐる各都市はやがて大部分の道路が鋪裝され盡される事と豫想される、震災後大なる國費を費して復興された東京市及横濱市の街路は現在でも恐らく全街路面の八割位は全部鋪裝された街路に成り上つてゐるだらう。

此は種々の方面から各種の利便を與へ都市生活者への愉悅ともなり交通機關への能率增加を與へる事は確かである。特に現時の如く街路面交通の行き詰らんとしつゝある時代に當つて速度の上に安全の上に多大の貢獻をなしつゝある事に否めないと思ふ。と同時に熱の保有時間の長短から從來の鋪裝されない時代の道路よりも一旦吸收された熱量を失ふ時間が長く、從つて特に夏期に於て日中太陽の直射によつて熱せられた路面は翌朝になつても完全に冷えきる事なく、此の事が反覆される時は熱量の蓄積は漸次增大され、街路に面した空氣は勿論、都市全體の空氣は益々熱氣の甚しいものになる傾向があるのも事實であらう。特に近來增加しつゝあるコンクリート建築は今までの木造建築に比較して遙かに大なる熱の保有量を持つてゐるから、鋪裝された街路面と相俟つて今後の都市の暑熱は益々增加せんとする事は想像に難くない、現に東京市内に於ても最近になつて行路病者數が漸次累進しつゝあるといふ事だ。

近來「都市の音響防止」といふ事が問題になつてゐるが、それと殆ど同じ位の重要さで以上の事は研究さるべき事ではないだらうか？酷暑の候に避暑をする暇を有しない堅實な勤勞階級の人々にとつて重大な問題であると思ふ。

此を防止し又は幾分緩和する爲めの私案を提供するならば、先づ街路樹を增加して街路面に對する日光の直射を出來る限り遮斷し又廣場、小公園の增設によつて都市を綠化する事であらう。此の事は既に盛に唱導され、研究された事であるから爰には姑く措く事にしよう。次に提唱し度いのは市街地建築物法の一部を改正して一定の高さ以上ならば建築線を突破して庇の類を街路の上に突出する自由を認める事である。殊に單に人の歩いする目的にのみ使用される歩道のある街路にあつては聊の不便も不安も感ずる事なしに、路面の日光の直射を遮斷し得られるのみでなく、店舖内の商品の褪色をも防ぎ得て大なる利便を得るではないかと思ふ。若し冬期に於ける事を顧慮するならば單に假設的のものでもいゝだらうが從來の樣に三尺とか四尺の出に限定する事なしに少くとも歩道あるところでは歩道一杯に突出する事を許してはどうだらうか？市街地建築物法改正の一議案となり、都市保健問題研究者の參考にでもなり得れば幸である。

一都市内の各種の中心地帶といふものは絶えず移動しつゝあるものである、都市が雜多の細胞の集成された一つの有機體と考へれば避け難い事實であらう。

例を引けば東京市に於て高層建築の櫛比する事によつて所謂三菱ヶ原は現在の丸ノ内となつて商業上の一つの中心になり、震災前迄は浴ゆる享樂機關の集合によつて殷盛を極めてゐた淺草公園の一帶は其の對象の一部的分散によつて更生の力を減殺された觀を呈し、從來顧られなかつた新宿一帶が郊外生活者の增加によつて新生の巢樂地となつてゐるのを見ても分らうと思ふ。大阪其他の大都市に於ても同樣の例は直ちに指示し得られるのである、かく都市の各種機能の中心地は種々の複雜なファンクションによつて合理的に多少の推移を免れないものであつて、極めてスムーズに一見如何にも自然的に變動してゐるかに見えるのである。

此の箇々のファクターを驗出し其等の集合によつて生ずる機構を考察し、都市を改善せんと志す事は都市計畫當路者及び一般都市研究家に與へられた使命の一つであらうと思ふ。或は地域を決定し、或は路線を計畫するに當つて前述の事を自覺しつゝ研究されなければならないのは勿論であらう。都市を唯物的に改善し、機構を完整して都市生活者の利便に貢獻する事が都市計畫の眞の目的であるからである。

◇

唯此處に考へなければならない問題は現代の都市計畫家が街路系統を研究して交通の中心地帶を豫想し、或は所謂シヴイツクセンターを計畫するに當つて、將來其の豫想された中心の移動といふ事を考へてゐられるだらうかといふ事である、例へば或る都市に於ける一つの第一流の商業中心地を假定する、その中心となる爲めには勿論種々の因子を必要とするが其の中で最も重大性を持つものは人及荷物(商品)の集散の容易さといふ事であらう。此の爲めに都市計畫家は路面電車を始め高速度輸送機關や運河等各種の輸送機關を計畫し、荷物用、乘用の自動車用道路を計畫するだらう、此等の計畫が實施されるならば工事の性質上少くとも半ば〻恒久性のものとなるであらう、然るに此の中心地が移動する事によつて第一流の商取引が行はれない樣になつたらどうであらうか?現在の如く商業中心地に建つ建物の大部分が改造に困難な鐵骨コンクリート又は鐵筋コンクリート建築の多い場合には、ある期間使用した建築の集合が次の新しい時代のビズイネスに適合しない樣になつて行けば最早第一流の商業を營む上には種々の不便を感じるであらう事は容易に豫想しゐられる、かくて第一流の商業中心地は新しい位置を見出して新しい進展をなさなければならなくなると同時に從來の中心地は第二流第三流の中心地となつて行くだらう事も考へられる。

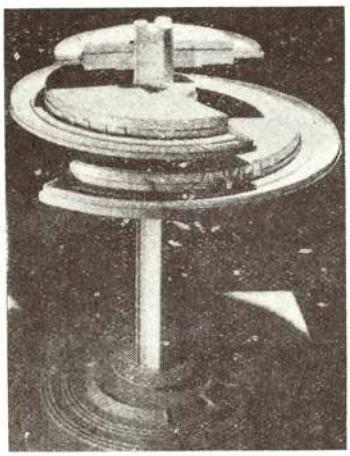
こうなつたならば其の新しい中心地に向つて更に新しい交通の系統を計畫する事が最も合理的であると同時に交通の目的は人又は物を目的地に安全に且つ速かに運搬する事である以上、從來の系統では不合理となる事も明かである。

だから都市計畫家は如何にして

建築よ何處に往く (11)

汽船のやうな電車のやうな、飛行機のやうな、等々々の建築が、尖端を切つて發表される。今日の建築家が、一年間も新刊書を見なかつたら、さぞかし面喰ふことであらう。

建築物とは地上に固定して云々といふ昔の定義に當てはまらぬといつても、それが建築でないといふ理由にはならぬ、向日葵のやうに敏感なサナトリユーム、ターンテーブルのやうに半時間毎に廻轉する空中レストラン。



現在に合理的であると同時に將來起り得る變換に對しても合理的である様に研究し計畫すべきは勿論將來起つた推移に對して如何に合理的に變更するかを心掛けなければならないと思ふ。コンクリートの築造物を容易に人力には破壊し得られる様な方法を研究するのも一つの解法であらうと思はれる。

—(五・七・十三・於東京)—



明日の建築

—昨日の建築より—

佐藤彰美

此の表題は各自の考により種々の意味に解せらるゝ廣大且重要なる問題で有るのを深く感じます。單に表題のみに囚われゝすと何か新らしき欲望とも思はれます。聊か私の愚見を述べ貴誌を汚し參考に致たく存ます。

今日世は一般的に新らしき思想にかぶれ何事も突飛な目新らしき事でなくば歡迎されざる狀態なれば從つて氣違ひ地味たる事が兎角流行となり、現に婦人は斷髪より當時は徒らに燒鏝にて自然の美髪を態と縮れかし、服裝と申せば輕業師然たる服を着し手には力士が持つべき煙草入類似の袋物を振り廻し活歩する時世なれば、遠からず「私、洋館の愛好者よ」と申して疊敷の上を靴履のまゝ跳子廻ることゝなりませう。

新聞紙の報ずる處によりますと早や一部の女性はダンスとか申して日本室で飛び跳ね居る様で有り何處迄參るか止度なき有様なれば間もなく、私「貴方の鼻へ藤蔓を通し牛の様に引き廻し散歩したい」ミ言ふ、婦人が出ないともかぎりません。夫たる身は今日より用心をなす必要が有ると思はれます。

建築も御他分に洩れず疑はしき一時的の建物が流行し來り昨今益々濃厚になりし様に思はれます。此等は經濟の點も有る事なるも一面より見ますミ、研究の足らざる點も多々見受けられます。若し茲に家屋を流行品扱ひにさるゝ人々が有ると致さば私は折入つて方々に御願致ます。何方のかづの俗に云ふ蛇の生殺しでなくて、絶體的世人が流行品並に扱ひ、我が家の形は本年流行せざれば速く毀ち建て直すとか、又は賣て改築するとか裝具品同様に人々が一般に取扱ふ様に普及せられたく賴みます。左すれば當今の如き不況の一端を補ひ國家救濟の一助ともなり吾等技術者は不況などに脅かさるゝ憂ひなく濟ます。然し左様な事は到底行はれざる問題とすれば大に考へなくばなりませんと思ひます。即ち其日過ごしの不眞面目なる建築を改めねばなりません。而も後世に殘さるゝものと致しましては尙更であります。當今一般に構造施工上共に遺憾ながら年々粗惡に傾き來る事は、私のみならず識者の知らるゝ事と存ます。木造建築に於ては鐵筋コンクリート輸入以來一層辛辣になりし様に見受けます、御差支が有りましたら御詫致しますが、木造は鐵筋コンクリート建と比較すると復雜であり、從つて手數も掛り且古來より傳はりし建物で有れば、場合により素人にても多少の常識があれば何かと面到なる箇所も生じますのが原因ミなり、疎まるゝのか兎に角木造を研究さるゝ人は多からず從つて徒弟を鞭韃指導し得ざれば、結果は建物の墮落となるものと思ひます。

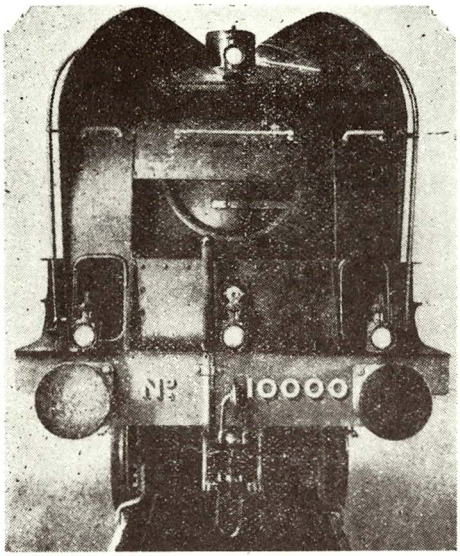
洋館は明治初年以來屢々時世に伴ふべく改良され、近き關東災害後著しき變化せしは諸君の見らるゝ處であります。然るに吾國古來よりの木造建築を見るに、寂寞を感じ先輩に對し慚愧に堪へざると思ひます。今後法規により木造を

禁ずるか又は昭和時代の木造家屋は全部取り毀たれざれば、今日不備のまゝ押し進みなば後年に至り不面目なる姿を現はし、往事の建物と對照せられ後進者より冷笑の的となるは明かであります。

茲に一寸夢想して見ますと

甲曰く昭和時代の先輩は歐米崇拜者の集團と思はれるよ。

乙曰く然し日本建も大震災には苦き經驗を過して居る事であり且つ固有の建物にして加之美術上より見るも歐米に勝る此の優美なる建物を踏襲し、時期に適したる改善を何故に行ははざりしか、



正面の車關汽氣蒸なうやの物怪

先輩の心意が何れより研究するも見出し兼るよ。且進歩すべき時世の昭和に至り益々粗悪劣等に向ひしは研究上手も足も出ず當惑するよ。

甲曰く德川時代も泰平が打續きし元祿時代には、武士が一般に遊情に流れしと云ふ歴史も有れば、昭和時代も丁度左樣な時期でありしかも知れないよ。

乙曰く茲に不思議な事が有るよ歐米の建物に却て日本趣味を取り入れたる建物が澤山に有ることだよ。

甲曰く流石は歐米人だよ何事に依らず研究に無駄がないよ。

本家本元が輸入し居る事は實に汗顔の至りだよ。

茲に於て私はせめて建物の如何を問はず少し眞面目に建築の向上を願度思ひまして、若き方々に對し體驗上より得たる一端を記しまして、一助と致度存じ拙なき筆を取りし次第で有ります。

斯く申すと何か六ヶ敷樣に聞えますが、甚だ簡單なる御笑になる樣な事のみであります。

吾等技術者は實行に際しては必ず自ら出來得るかぎり現場に當らざるべからず。決して骨ね惜しみ等は愼しまねばなりません。建築は各材料の集合物であり從つて各部分各業專門者の努力に依り築かれたれば、何等の缺陷なく出來上るべき物なるが神ならぬ身にして而も實地に日も尚淺き人々は竣工後種々の故障を生ずるは遺憾ながら止を得ません。其の欠點を幾多の實行研究により繰り返し除々と月に年を重ねて、茲に立派なる技術者たる資格を收獲すると同時に善良なる建物が得らるゝのであります。

左に行事を記す

一工事竣工後二ヶ年間は特に建物を愛顧する事

一始め一ヶ年は三ヶ月毎に見廻るべし

一二ヶ年目は四ヶ月毎に見廻るべし

一天災暴風雨其他突發の場合毎に必ず見廻る事

一其の結果微細なる出來事たりとも等閑になさず且見逃さず一々調査研究をなし修理を要する者は速に手續を取る事

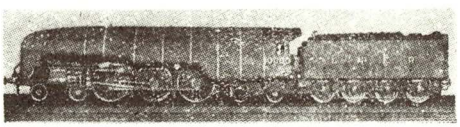
一其の調査は人手をからず必ず自身に當ること

一居住者並に使用者の意向其他取

建築よ何處に往く (12)

器械、軍艦、航空機、自動車等々にそれぞれ獨自の構成美を認め得ることは近代人の誇りであるかも知れぬ、住宅は人間の住む機械なりとの定義が容るされても、それは汽船に似た住宅、航空機のやうな住宅を作ることではなくて内容に微妙に機械化された機能を秘めることであらう。

形の問題は末の末だと昭日の建築家は考へるでせう。機械にしても高速度に見馴れた形をドン〳〵變へて往くのであるから。


同上側面

扱上の便不便を聽收する事
一右兩者の取扱ひ上より來る破損害調査
一家庭教育上より來る便不便並に破損害調査
一一般衛生上の不備欠點の調査
一各種使用材料の特長と欠點の調査研究
一圖面と現場との連絡研究

前記の條項を竣工毎に繰返し十ケ年間は是非實行せられて建築向上を計られん事を切望す。茲に昨日の建築なる重大意味が含まるゝので有ります。

尙併せて注意すべきは見學を廣くすることにあります、遇然と通り掛りの際家屋の良否或は事柄の如何にかゝはらず參考となるべき點を見出したる場合は、一面識なくとも禮を通し懇願すれば餘程の差支なきかぎり理解せられ、大抵の場合見せて呉れます。余は今日尙實行し居ります然し手續を取る都合が有れば夫れに越すことは有りません。

斯る場合事の大小にかゝわらず先方の一言一句たりとも決して聞き洩らさゞる様注意すべきは勿論疑問の點あれば遠慮なく尋問なさるべし。此れ等より眞の生たる參考資料が得らるものなれば速に實行されん事を進めます。



明日の建築

南　信

建築協會が『明日の建築』に就いて何か書けと言つて來た。世間の苦熱にあえいで居る。此の苦熱をよそに、此の茫漠たる問題を片づけ様とする事は、どう考へても苦痛である。しかも名物の夕風、ペンをとらんとして原稿紙に向へば、汗はさん〳〵と流れる。インクがにぢむ。建築協會、甚だ動物虐待であると思ふ事多時である。

況や、自分、歐米の建築事情に通ぜざる事甚だしい。今日に通ぜざるもの、何んぞ明日を語らんやである。いさぎよく筆を擱いて諸賢の高說を聞かん事を欲するもの只協會の催促矢の如く、止むを得ず筆をとる。一夜漬である。

明日とは如何。言海には唯『今日の次の日』と書いてある、時間的に今日の連續を意味するならば『明日の建築』も亦『今日の建築』の連續である事は間違のない事實である。

建築の樣式は建築なる形式に於て表はされた時代の一つの斷面である。明日の持つ建築の樣式は明日の社會諸相の、建築的なインテグレーションであると考へる事が出來る。明日の社會、怖くは今日以上に複雜であらう、明日の社會の、よしんば建築と稱する一の斷面に過ぎないとは言へ、これを計量するといふ事は可能なる問題であるかどうか。

今日迄（明日に於ても怖くは同樣であらう）建築に關與して來た人々は、多くの場合社會的に勢力を持つ小數者であり、その思想は多くの場合、殆ど例外無く保守的であつた。建築に現れる時代思想が、殊に趣味的な問題に對して、甚だしく保守的であつて、實社會の思想とは數時代の懸隔のある事を思はせられる所以であらうと思ふ。建築があらゆる藝術、あらゆる工藝の中で、最も後端を歩いて居るといふ事は、一つは建設に大資本を要するといふ事にも依るであらうが、其の最大の原因は、建設の衝にあたる者が、多くの場合保守主義者であつたが爲めである。

その保守的な建築——その建築の明日の姿も、怖らくは今日の姿と大差があるとは思へない。唯今日の社會科學的な思想、經濟組織、生產組織の上に行はれて居る或る種の變化、そういふもの〻影響が隨所に現はれて來るであらうとは考へられる。

社會科學的な問題として、今日著しく注目される事は大衆の勢力の增大である。明日の社會に於ては、今日ある以上に、社會の中心勢力が小數特權者より大衆に移つて行くに違ひない。從つて今日に於ては、殆ど忘却の內に置かれて居る大衆の爲めの建築に甚大な考慮が拂はれる樣になるであらう。

少數の、ブルジョア階級に屬する建築には、傳統的な、所謂趣味と稱せられる取扱に相當の考慮が拂はれるであらう事は、今日と怖らく大差あるまい。それは骨董に對する趣味と同樣、有閑者の特權を誇る表現の一つの方法であるとすれば、吾人何をか言はんやである。唯大衆の建築の場合に於ては全く違つた見地から建築を見なければならないと思ふ。

今日迄、建築と稱し得るものはすべてブルジョア階級に屬して居た。今日の建築家の建築理論は、多くの場合無意識に此の假定の上に立つて居る樣である。大衆の爲めの建築は考慮の必要なしとするならば別問題であるが、これを考慮の內に入れる場合に於ては、今日迄の建築觀を絕對的に棄てなければならない。何となれば、大衆の建築に於ては、建築は趣味の問題ではなく、生活の問題であるからである。Objet d' Art ではなく百パーセント Objet d' Usage であるからである。よしんば趣味に於て中世紀の家具調度を希望しても、プロリタリアートには問題にならぬ。鋼鐵の家具が感じに於ていやでも、安く丈夫であれば止むを得ない。建築家は大衆の爲めに、必要にして充分なるものを考へてやらなければならないのである。

主體構造が何になるか、窓が大きくなるか、壁が大きくなるか、其れは其の時の科學と經濟が教へやう。只、動かす事の出來ない唯一の事は、あらゆる無駄がふるひ落されて、ファンクション其のものが殘されなければならないといふ事である。

病院、工場、學校等の建築も、怖らくは同樣の歩みを歩むであらう。光と空氣との最も合理的な處理——その中で勞働者は資本家に患者は醫者に、生徒は先生に搾取されて行くかどうかは知らない。

大衆住宅に關與しても一つ土地の問題がある。土地に對する今日の制度が續くならば、地價は益々昇る一方である。大衆に光と空氣が充分に與へられる爲めには、先づ土地が與へられなければならない。此の土地が如何なる形式に於て與へられるか。

今日國民として生を享けて居る者のうち、此の國土に、住むべき土地を所有して居る者が幾人あるであらう。今統計を持たないが、おそらくは十パーセントを出ないであらうと考へられる。殘りの九十パーセントの國民は、住む爲めの土地が無く、家が無いのである。土地——これは人間生活の上に、光と空氣同樣に必要なものではないのか。此の問題が明日に於て如何に解決されるか。

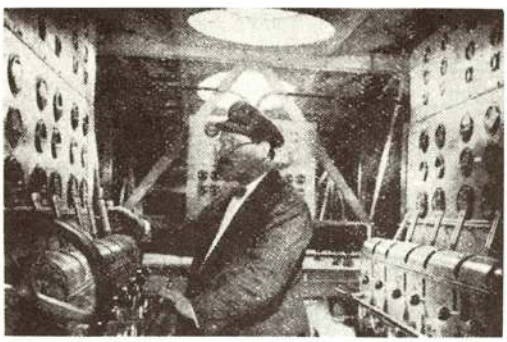
今日の工業が、大量生產主義に向つて進んで居る事は否定する事の出來ない事實である。將來交通機關が發達するに從つて、生產工業が益々大量的になつて行く事は止むを得ない數である。

建築よ何處に往く (13)

今日でも建築機能の機械化が、お臺所の電化、空氣の溫濕度調節等で、僅かながら手をつけられてゐる。

明日の建築家の手では、航空機のパイロットルームのやうに、押釦一つで思ひ通りのお仕事、お料理でも、お掃除でも、お給仕でも、暖かくも、涼しくも、自由自在に住宅の隅々まで制御出來る樣な裝置が出來るだらう。

痴人の夢だと笑ふべからず、ラジオのやうに平凡化される日必ず遠からず。



航空機のパイロットルーム

大量生産、大量生産に伴ふ材料の劃一、材料の劃一に從つて起る建築の規格統一。それはさけ様としてもさけ得られない時代の力である。

大量生産の結果、建築材料の供給は今日以上に國際的になる。或國は鐵材を、或國はセメントを或國は家具を、或國は照明器具を——各國の國情に從つて、供給も益々分業化し、建築家は各國から集まつて來る材料を組立てなければならなくなる時機が來る。其の結果として、建築の——殊に建築の大半を占める住宅建築の規格が國際的に劃一されなければならなくなるであらう。

此事實は國民の傳統を愛惜する人々にとつて氣の毒な事である。然し國際的な經濟戰に於て、その驥尾に附して行かんとする爲めには、亦止むを得ない數であるかも知れない。私は明治初年の斷髪をおしんだ人々の殘黨を知つて居た。私共の家庭の老人も、昔の帶刀の夢を追ひ、今日の國家社會を呪つて居た事を知つて居た。然し、誰か今日帶刀の結髪の夢を追ふものがあらうか。明日に於ては、今日愛惜される傳統の夢も、或る種の好事家の興味を引く材料に止まる様になられないとは誰が斷言し得やう。

明日の建築が、如何なる様式に於て現はれるか、微才よく豫言を敢てしないが、數年以前、ヨーロツパにあげられたファンクショナリズムの運動は、注意すべき多くのものを持つて居ないかと思ふものである。

ファンクショナリズム——此の數年の間に、ヨーロツパの全土を燎原の火の様に燒いて行つた。アメリカの一郭に獨自の境をたどつて居た老將は、俄然呼應の烽火を擧げた。歐と米と、或らゆる新人を糾合して、ファンクショナリズムの旗標はいちじるしくなつて行く様である。



あすの建築

東夷生

(1)

暑いですね。今年は例年にない暑さの様ですね、一つは梅雨期の濕氣が殘つて居る間に急に暑氣が押寄せたからでせうぜ。日本に此濕度が少なかつたら、もつと夏は凌ぎよいでせうし、住宅の如きも世界的の住宅圈内に徹底することも出來ませうし、亦衣服にしても食物にしても和洋二重の用意が不必要となるに相違ないですから、建築の方も日本的に工夫する部分が少なくて濟むが爲めに、生活の基調も單純となりませうな。畢竟日本といふ國は溫度のために生活が他國と異ならざるを得ぬ國であるとも考へられますね。

其の代り此の濕度がある爲に樹木も繁茂し、風景も世界の樂園と申さるゝ位の評判であり事實に於て特別の天然と形勢とに於て世界に冠絶するのであり、遠く古代に溯つても東瀛蓬萊の仙境と唱はれて居た譯でありませう。考へて見ますると我國の様な溫帶の島國で太洋に面し大陸を控へて居る國は世界に絶無であります。歐洲の諸國に致しても現在活躍して居る國は大方北緯の五十度前後の位置に其首都を据えて居りまして、比較的寒冷であります、從つて冬は都の河川は皆凍りスケートが盛んであつて建築物は皆煖房の設備が充分行屆いて居る譯でありまして、夏の如きも大陸的氣候で暑さと申しましても其暑氣の如きは濕度を伴はないから、寧ろ氣持のよい暑さであると聞かされて居るのであります。又南洋や印度の様な地方

は夏は猛烈な暑さでありますが、時折夕立がありまして、却つて凌ぎよいと聞いて居ります。

然るに我國は東海の離島であつて黒潮の蒸す國であり衣食住共に他國と甚だ異なる特種の氣候風土であり、すのと亦日東の帝國として世界に於ける特風ある御國柄でありますので、吾々の生活と其建物には、亦此特色が遺憾なく發揮されますのは自然の成行と申さねばなり すまい

(2)

尤も今日に置きましては世界の交通が開けまして、吾國の如きも文明開化の新進國であるのみならず、只今では世界三大強國の一つでありますのでありますから、天下の廣きに應じて外國風の建物を建て、外國風の服裝を着け、且外國の御料理も戴きまして、世界人と致しまして押しも押されもせぬ優等人種に向上發展を成就致されました譯でありますけれどもが、……何と申しましても頭髪は黒し顔の色は土氣色、眼の黒い間は米の飯を喜び、和服の長所を捨てず、日本酒と一本料理に舌鼓を打つ事は忘れますまいよ、殊にこんな暑い/\夏となりますると、文化生活に一足飛をなさつた方々でも夏座敷の日本間で晝寢の樂を捨てる事は出來ない筈であります。

それでも妙なものですな、今日では新婚の御寫眞に洋裝の旦那樣と振袖姿の花嫁樣の並んで澄まして居らるるのを拜見致しましても誰も和洋折衷のオカシサに氣の付かれる方が少なく、洋服に朱鞘の大小を腰に戰爭をした當時の繪草紙を珍らしさうに眺めながら此頃の木に竹を接いだ樣な和洋折衷の住宅を少しも不自然に感ぜられないのみならず、銀行や會社にしても表に堂々たる洋館で裏に日本風の附屬家と社長家が控えて居る有樣でありますし、都會といふ都會に洋風の家と和風の建築とが臆面なく並んでおり、尖端を走るモーダンボーイやガールの樣に最新流行の建物が薄ペラな姿體を十字街頭に曝して居りますのは何といふても日本國丈でせうぜ。

よく百鬼夜行といふ事を聞きますが、今の日本の建築繪卷を畫いて將來の參考に殘しておいたならまさに鳥羽僧正ならずと雖も最も貴重なる傑作として百世に範を垂れる丈の價値は充分にある事でせう、さうでなければ、華山先生を九原に呼び起して百掃一態でも畫いて頂戴いたしたら百年の後隨分と貴重な參考資料となりませうぜ。

(3)

關東の大震火災後七箇年大東京は復興の新建築で到る處面目を新たに致しましたが、さてあの下町の大小建築群を通觀致しますると曾て紐育の都市計畫大家のビヤード博士の言ひ草を想起する事を禁じられない樣に想はれます。新日本の今日の有の儘の姿を遺憾なく發揮して居ると同時に、何となく物足らなさを感じます。この物足らなさを燒け殘つた西北南一帶の樹林地帶が聊かなぐさめてくれるのですが、東京の人達にしても、決して完成されたる帝都とは考へて居られないに相違ありません、いはゞ大震災によつて江戸時代の名殘りを一掃して大正時代の新設備新時代を新設完結したのであつてこれら將來の新日本の帝都を完成するには尚半世紀の努力に待たねばならないのではないでせうか、して見ると昨今の建築も尚過渡期の域を脫しない程度である樣にしか感ぜられませんね。

素より都市計畫の事業は決して一朝一夕に成就すべきものでもなし、百年の日月と巨額の富とそして數多の人智と人力との結晶であつて、七年の歳月決して短かしとは申されませんが、よく/\あれ丈の復興形態を成就され得た丈でも汗と血の尊き努力と申さねばなりませんが、尚將來數多の問題は殘つて居る事であります。

都市計畫の事業といふ見地から見ましても我國の六大都市に震災のありなしに係はらず尚々完成の曉に達する迄には多大の日子を要します、いはゞ近代都市施設各其緒に就いた位の所であつて各般の仕事は皆これからでありませう、況んや建築の將來についても明日の建築は今日以上のものを要求されて居るのであります。

今日以上の建築とは何んでありませうか、國土風俗の異なる他國の建築の輸入研究期を脫して、眞に吾國土に合致した合理的な設備を持ち、また日本人の頭から湧出

し來る新鮮なそして高邁な且つ底力ある品位ある趣味の建築……』そんなむつかしい建築があるものか』……と半丁を入れられても…現代の建築はあまりにも荒削りです、あまりにも表面的です。あだかも外國人を雇ふて來て造つて貰つたとしか考へられないではありませんか。

(4)

明日の建築は今少し底力があつてよい。今少し日本人の智慧から産れ出たものが欲しい。吾國の新式の軍艦は既に日本的の特色の著しい形態を其實質から造り、內容の充實せる要求から産み出された構造組織は、遺憾なく其特色を發揮し來たと聞いて居ります。昭和時代の先驅は、海の建築から日本的特色を發揚して來たのであります。これの光はやがて陸の建築にも及ばされねばなるまいではありますまいか。既に耐震構造上の結構に於ては新日本の建築は其特色を湧出して來てゐるのです。やがては此の實質の發露となるのでありませう。それは設備といはず形態といはず、あらゆる點に於て新日本人の心からの滿足を贈し得るものとなるに相違ありません。住宅にしても折衷期を脫しませうし服裝美の統一完成やら料理食物の新機軸も發達せねばなりますまいよ、都市計畫事業の如きも其模倣期を脫するの日は決して遠き將來とは考へられません。何となれば日日新しき問題を續出して居る吾國では、絕へず新しき刺戟を受けて居る譯であつて百練の鐵赤熱の狀態に於て其力を徹底するのですもの、建築界の將來はやがて眞面目の努力の結晶として又明日の建築はやがて其黎明期に入る日は遠くはないと信じて居るのです。

あゝ暑いですね、此位にしておきませう。

夏の雲いくつ崩れて金の峯



米國人の見た「モダーニズム」とは？

亞米利加建築協會クリーヴランド支部に於けるルイス・レオナード氏の講演に依る、

建築を研究するに當つて、過去に於てその基礎をなしたものは石材工事だつた。石材の使用法だつたけれども、現在に於けるそれは、石材に非る他の材料の使用法である。鋼鐵とコンクリートとが建築材料として廣く使用せられてゐる今日、石材を基調として築き上げられた過去の形式を尙も保持しやうとする事は、明かに非論理的であり、且つ、建築の退歩を幇助するだけに過ぎないのである。

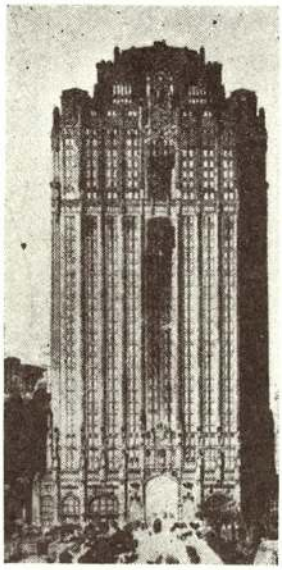
建築法の發展、就中、壁の構造法の發展は舊來のあらゆる材料使用法を根本的に覆してしまつた。我々は今迄一つの建築原則を持つてゐた。併し、その唯一の建築原則なるものはどんなに苦しんでも在來の構造材料の性質から贈される影響から脫却し切れなかつたものであり、現代のそれとは全く懸け離れた要求の下に造られた所の幾十百年以前の石造建築を母胎として生れ出たものに過ぎないのである。

材料とは何か。それは情緒に關聯する所の一つの藝術的表現の具である。石造建築の基礎をなすものは構造上に於ける眞實性である。しかもそれが構造的形態としてよりは寧ろ裝飾的形態として用ひられ來たつたのであるから、建築として上乘なるものとは到底言へないのである。ロイド・ライトが言つたのと同じく、『建築の職能は各種の材料を使用して其處に情緒的な相關關係を樹立する所に存する。建築は單に實用的な必要範圍內にのみ蹈踏するものではない。それ自身としては何の活動力も持つてゐない各種の物質を使用

し、或程度の實用上の條件を參酌し、其處に何等かの情緒を誘起するに足る一つの關係を造り出す。これが「建築」なのである』。

◇

現代文化の要求する所を滿足させやうとする今日の建築家の望みは、新しい材料を使用する事によつて達せられる。石材を以てする爲に過去に於ては不可能だとされてゐた新しい形態も、今日新しい材料を以てするならば見事に構成する事が出來る。こんな風な新材料を以てする設計に於ては、前述したやうに石造建築に基いて發達して來た過去の建築原則は單なる案内者として、或は刺戟劑として用ひられる程度に止らねばならない。石造建築には柱がある。楣がある。迫持がある。圓屋根がある。圓天井や壁やその他各種の安定保持の必要物がある。これらの設備と形式とは石造建築にとつてこそ必須特有のものではあれ、他の材料を用ひる場合にとつては些の必要もない。



第一圖　此の設計案が若しニューヨーク市廳舍設計案の懸賞募集に當選してゐたら新しい鐵骨建築は既に一千九百八年に始まつてゐたかも知れなかつた。

我々は今や、石造建築の殻を脱いで鋼鐵とコンクリートとに獨特な形式を確立すべき一つの轉移期に位置してゐる。現代の建築が緊急の要事として我々に要求してゐるのは、鐵とコンクリートとに特有な形式を樹立する事であり、單に舊來の石造建築の形式上に新しいものを加味するだけに安んじない事である。かうして造り作られる新しい形式はその初めに當つては勿論奇異なものに違ひなからう。石造建築を模倣した場合のやうにその嶄新さが内部に隱されないで寧ろ外部に表現せられるからである。しかも、一見奇異な此の表現法から新しい美が生れるのである。

斯くの如き新形式樹立上の難點は、此の新しい構成法が必ずしも常に外部に表現せられない事である。鋼鐵を構造材料とした場合には更に外裝が必要である。一部の人の説に從へばコンクリートと雖も亦外裝の必要を持つてゐる。柱とか楣とかは依然として構造上の要素として殘つてゐよう。併しその割合は全く變化してゐるのである。

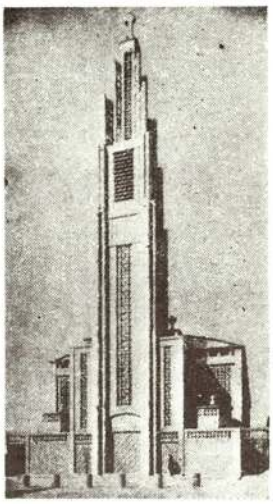
この變化よりもまだ一層重要な變化を見逃してはならない。鐵骨建築の出現が石造の外壁を消失させた事がそれである。重量と勞力とを節約する事は近代の一思潮である。細い柱と長い鋼鐵の楣と構造の本質に關係しない外裝とが、石造の壁にとつて代つた。

外裝は何等構造的性質を持つてゐない。斯くて石造建築につきものゝ各種の突起部、忽然とその姿を隱した。厚い石造の壁があつてこそ極めて調和よく自然に見えるあの重苦しく突起した蛇腹は、外壁と呼ぶべきものがなくなつてはその存在を否認せられる。

◇

鐵とコンクリートとの骨格は、構造的であると同時に造型的にも表現せられる。その故は、外裝は構造の本質に無關係だからである。單に垂直的な支持物があると言ふだけの理由で、建築物の正面に長い細い垂直線を用ひる必要は消失してしまふ。今後のかうした建築の設計に關して進歩しなければならない問題は、建物にとつて窓は不可缺のものなのだからこれによつて所々を點々と穿たれる事は止むを得ぬとして、外裝の輕快さを如何にして水平的に又垂直的に表現すべきかと言ふ事である。一例をとつて考へて見れば、銀行の建物は、その内部に藏する金が十分な鋼鐵の金庫で保護せられてゐる限りは、硝子造であつて良い。金庫がなければこそその外面はまるで要塞か何かのやうに鋼鐵や石で堅固に作られねばならないのである。

鐵造建築に於てはヴエニアやカードボードなどの外裝材料に構造的價値を與へる事は、それが單に鐵材の上にのせられる材料である



第二圖　コンクリートを用ひる正しい設計法は自ら石造建築のそれとは全く違つた鑄造形を生じた。

事は自明の理である。鋼鐵の輕快さと柔軟さとを表現すべき全く新しい形式がどうしても必要な事は寔に自然なのである。

◇

かうして生れた新しい建築樣式を、或る人々は『モダーン・スタイル』と稱して悅に入つてゐる。かと思へば他の或人々は、此の新樣式は舊來の樣式とは何の關係もない全く獨自のものであるとの理由から此の稱呼を喜ばない。後者の說に從へば、舊來の諸樣式は突然崩壞し去つて、此處に全然新しい樣式が生れ出たのであつて、嚴重な意味での建築ではない、と言ふのである。此の言たるや寔に宜なりと言ふべきである。確に崩壞——革命があつたのである　建築界には未だ嘗て一と度もこれ程の構造材料の大變化は起つた事がなかつた

構造材料がすつかり變化すれば、新舊兩者間には建築原則上にこそ連鎖があるものゝ、形態の上には何の連鎖もなくなつてしまふ。だから、現代の建築は全く新しい材料を用ひて舊來の建築原則を再述するものに外ならない。

所謂『新建築』に反對する人々は、その種の建築には一つの定まつた樣式と言ふものがない、と論じてゐる。然らば樣式とは何だ。樣式とは後に至つて無自覺の間に生れ出るものではないか。樣式とは或る一つの時代の總ての作品に通じてそれらに生命を與へる所の原則的な統一性ではないか。若しも建築上の表現形式が多岐多樣の方向に新しく進展して行くとすれば、人々の人生に對する觀方が昔とは違つた新しいものになつて、此の新しい人生觀の表現を人間が造る各種の事物に求めてゐるのだ、と言ふ結論になるだけではないか。

何時如何なる場合に於ても、建築と言ふものがそれを造り出した人間の精神と生活との反映になる事だけは避けられない。「眞實」は「樣式」よりも先に現れる。ビオレ・ル・デュークが言つた。『建築に於ては「眞實」を表現するに二つの道がある。各種の必要條件に從ふ事は「眞實」でなければならない。構造上の手段方法に從ふ事も「眞實」でなければならない。必要上から起る各種の條件を細密な正確さで滿足させる爲には、十分の注意を以て材料の性質と能力とを見て、その上でこれを使用しなければいけない。』と。

◇

一部の人々は或は言ふであらう『モダーン・スタイル』と稱せられる樣式は舊來の樣式と比較すると甚だ價値が低いものだ、と。併し乍ら考へても見るが良い。ゴシック式建築とギリシヤ式建築とを比較してその價値の優劣を論ずる者が何處にあるだらうか。今我々の眼前に橫はつてゐる問題は、我々の持つてゐる現代の文化と技術とを如何に調和させるかと言ふ事である。幾年か幾十年かの後には現代のそれとは全く違つた文化が生れる事だらう。そしたら其處に又新しい見慣れぬ『樣式』が進展し始める事だらう。

裝飾藝術展覽會がパリーで始められた時には、退嬰的な技術家は此の運動に從つて何一つ寄與する事を欲しなかつた。此運動

を計畫した人々は世の人々から少しの激勵幇助を得なかつた勿論人々は多くの期待を持たなかつた、だが此の展覽會のお蔭で全佛蘭西人は藝術の新しい分野と機能とを見る眼が出來た。米國は現代藝術の率先者だつた。が、私は悲しいかなその背景が餘りに貧弱過ぎる事を憂ふる。

米國が世界の建築界に寄與した中で最大のものは鐵骨架構である。米國人は在來のあらゆる樣式を研究し模倣し、その中の或るものは是を鐵骨架構にも採擇した。けれども、私の考へる所では、米國人は此の種の設計樣式を以前から十分に所有してゐた。

本當に米國建築家と呼び得べき一人の建築家は、既に一千八百九十年頃に米國全體に對してその進路を指示してやらうとしたのである。だが、此の考へ方を受け容れてこれを發達させやうとしたのは曉天の星にも比すべき少數者だつた。これとは逆つた考へ方がもつと〳〵強く此の當時には瀰漫してゐたのである。かうして彼は全く人々の記憶の中から追ひ出されてしまつた。彼とは何人か。ルイス・サリヴアン氏である。『眞は美に先在する。形體は機能に從ふ。あらゆる藝術上の形はその構造から生れ出て、漸々に一つの藝術形體となる』と語つたその人である。



第三圖 新しい現代的構造法は見慣れぬ眼には一見奇異に感じられるが合理的の意匠である。

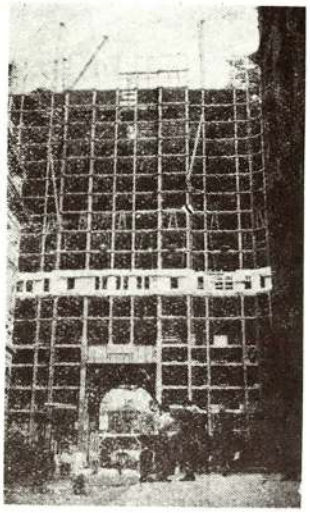
◇

サリヴアン氏の言ふ所に從へば、ニューヨークに於て市廳舍新築の設計案が懸賞で募集せられる迄は、眞の米國式と呼ぶに足るものは何一つとして現れなかつたのである。此の應募案の中ではマクキム、ミード、ホワイト三氏の案が入選したが、若しもハウエル、ストークス兩氏の案が入選してゐたら、米國式建築と呼ぶべきものは敢てシカゴ・トリビユーンの懸賞設計を待つ迄もなく此の時に生れてゐたかも知れないと考へられる。此のトリビユーン紙の懸賞の二等入選案は眞に價値ある米國式建築樣式を確立したものゝやうに思はれる。が、何故米國獨特の建築樣式が佛蘭人の手で示されたのだらうか。如何に數多くの模倣をしようとも、模倣は所詮模倣であつて決して賞讃に値するものではない。けれども、それも亦正しい道に到達する爲の一つの出發點ではある。

米國の建築學生達は、學校を出るまでに建築の原則なるものを教へられ、又自身でも悟らなければならぬ。その後に於ても此の原則を廢棄しても構はないと言ふ理由は何處にも存在しない。寧ろ彼等は此の原則を愈々成長させ、是を新しい問題を解決する爲の指導者としなければならない。そして。此の原則をどんな風に應用して行くべきかと言ふ事を知らなければならない。一定不變の眞の原則を確實に把握した上でその想像力を建築的方面に働かせて十分に發達させる事は勿論學校教育の目的である。だが學生は現在少しも用ひられてゐない樣式のみを練習する理由とはならない。

◇

一千九百二十五年度のパリーの展覽會の委員長だつたルイ・ボンニエ氏は現代の藝術に就いてかう語つてゐる。『此處に點火せられた炬火は、吾人の前にあらゆる傳統とあらゆる遺傳とあらゆる道德とそしてあらゆるそれらの現存物を超越した全然獨箇の新藝術を提供するものではない。それは我々に新しい物を與へる。新しい物とは、各個體を經、各種族を經、各世代を經、各個人を經、各世紀を經て更新せられて來たあらゆる他のものを新しい物と呼ぶのと同じ意味に於ける新しい物である。これは尙一つの傳統に外ならない。傳統を語るのは一つの教育である。教育とは無經驗者に對して可能なる同化作用を基準として經驗を傳へる事である。既に倦み果てた眼を尙探求の爲に向けねばならない若い學究者の負擔ではない。少くとも或る程度の傳統がない限りは何物と雖も造り出される筈はない。藝術だからとてその例に洩れるものではない。教育が常に進歩しな



第四圖　鐵骨建築の中層部にヴェニア又はカードボードの外裝が施されてゐるのを見るのは日常普通の事である。

つてゐる。

『我々は此處に、此の事實の反面には此の「生命ある建築」がその內部に持つ醜さにさへも今日の機械文明の或る種の性質に對する適應性を持つてゐる事を主張したい。或る方面に於ては寧ろ現在の我々の狀態の一部をさへ表現してゐるのである。工場、飛行船格納庫、車庫、停車場、百貨店等各種商工業的建築物に應用せられた此の建築は、その背後に存する形態上の思想に近づき、少くとも哲學的見地からは此の範疇のものに働く良き樣式である又一面に於てこれは、意匠は構造に從ふべきであつて決してその反對であつてはならない事を十分に示してゐる。それは鋼鐵と鐵筋混凝土とに惱まされてゐる。これらの材料は石や煉瓦や木材と一緒に用ひてはならないと言ふ馬鹿げた假定から出て、甚だ不適當な用法をさへ强ひられてゐる。勿論諸君が敎會とか學校とか住宅とかをこれら現時流行の材料で建築しようとする場合には、構造的にも裝飾的にも石材一點張りのゴシック式や、大理石のアーチや柱を用ひねば氣の濟まぬ伊太利ルネーサンス式や或はコツツウオルド式の半木材工事を採用すべきものではない』

◇

フエネロンはオンダードンクの書『鐵筋コンクリート樣式』の中でかう言つてゐる。『建築物は何れの部分と雖も單に裝飾のみの用途に充てられるべきものではない。それよりも常に美しい均衡を——構造上の全均衡を、建物の總ての構造的要素が裝飾となり終るべき均衡を望むべきである。』

ヴィクトル・ユーゴーは嘗て語つた事がある。『最も偉大なる建築的所產は社會に於ける一個人の功績に比せらるべきものではない。それは一個人の天才の現れと言はうよりは寧ろ一國民の勞作の所產だからである。全國民の貯蓄だからである。幾世紀かを經て累積せられた寶だからである。幾代か相續く人間社會の蒸溜の結果だからである。一言にして言へば連續的形成物だからである。各時代毎にその特有の地層を殘し、各種族毎にその紀念碑の土臺石を作り、各個人毎に此の上に石を積む　海狸（ビーバー）の行ふ所、蜂の行ふ所、人類の行ふ所、總て同じである。あの壯大な建築の象徵バベルの塔は蜂の巢である。大建築物は大山岳と同じく年代の生む所である。人類、藝術家、個人、それらは此の巨大な堆積物中にその姿を隱すのであるが、しかも此の巨大なる物の作者は往々にして不明である。それは人智を概括するものであり、人智を總計するものである。時は設計者である……國民は施工者である。』と。

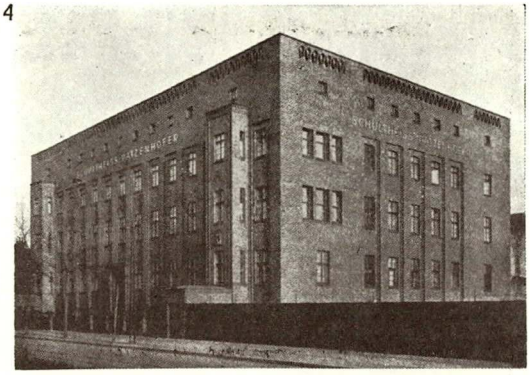


第五圖　場合によつては水平線をも垂直線同樣に合理的に使用出來る。構造上の形態を外部に見せない場合にはヴェニアはプラスター樣にも取扱へる。

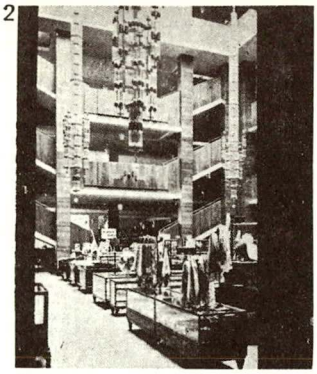
1



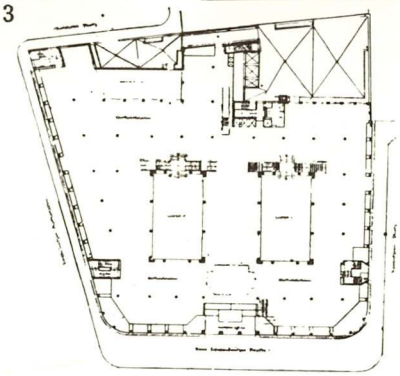
4



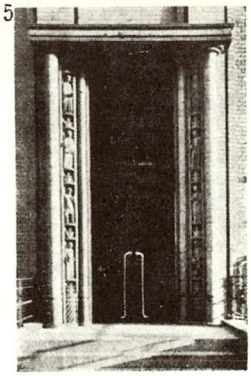
2



3



5



百貨店ベルトハイム(ブレスラウ在)
設計ヘルマン・デルンブルグ氏
1 西南外觀 2 內部光井 3 平圖面

釀造元 シユルタイスーパツツエンホーヘル會社
事務所 4 外觀 5 主要入口

切取線



ヨーギヨーセメント

品質均一優良　輸送至便

ヨーギヨー高級セメント

早期高強度　脫枠迅速



LION BRAND

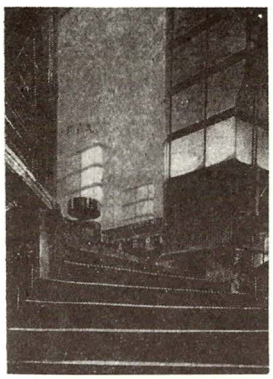
資本金 五百万円　年産 貳百廿万樽

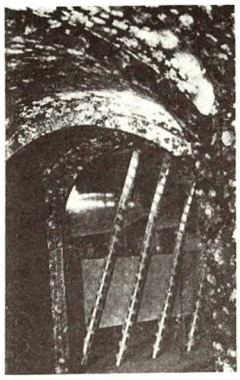
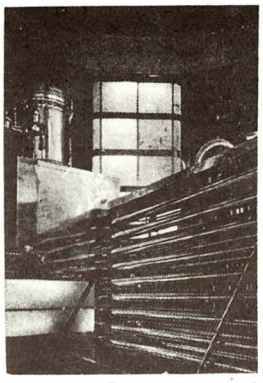
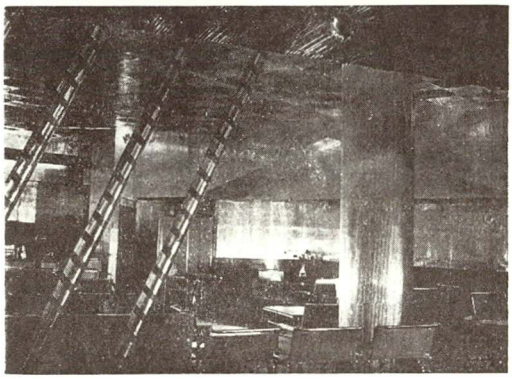
大阪窯業セメント株式會社

大阪市北区堂島濱通二丁目
電話北四一一〇至一一三番

工場 大阪市港区南恩加島町
電話 桜川一一七七・二六〇九・二八四三

東京出張所 東京市神田区表猿樂町
京都出張所 京都市二条駅前




巴里・バー・ブレストー　　設計　ハウエル氏

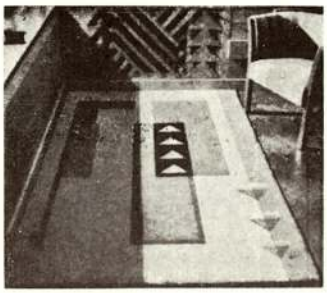
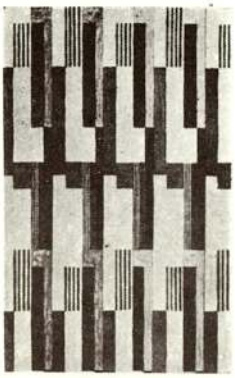
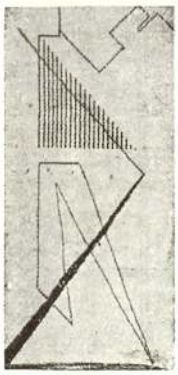
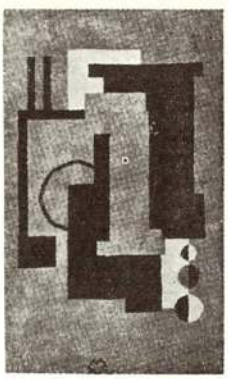
切取線

『建築と社會』昭和五年 毎月發行計畫豫定

二月號　學校建築(既刊賣切殘本なし)
三月號　**ホテルと倶樂部**(既刊賣切殘本なし)
四月號　建築と風致(既刊殘本あり)
五月號　住宅の樣式・裝飾・設備(既刊　同　)
六月號　木造建築の將來(既刊　同　)
八月號　明日の建築(既刊　同　)
九月號　耐震耐火建築の普及
十月號　工場と倉庫
十一月號　銀行と事務所建築
十二月號　建築工事と其材料
一月號　昭和五年建築大觀

右の發行計畫の中で御造詣深き問題に對しては續々御投稿を願ひます。又每月この外住宅欄と鄉土建築欄とを設けて斯の種の御研究や寫眞を蒐めたいと思ひます、原稿はまへの月の十五日までに編輯部宛御送りを乞ふ。

『建築と社會』編輯部

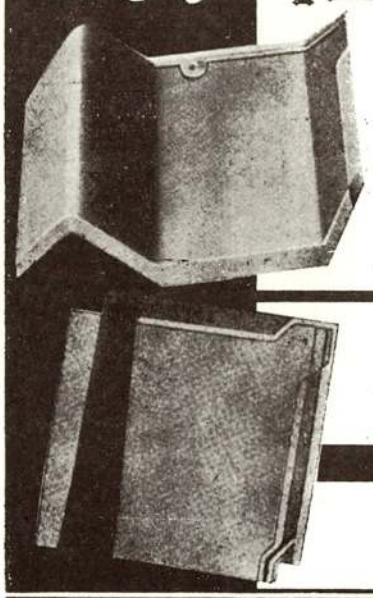









最近流行敷物種々　　（英國 Architectural Review より）

切取線

和昭式松高



營業品目

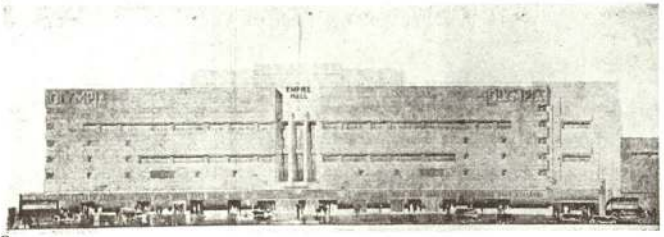
各國產日本瓦
同色瓦
昭和瓦
敷瓦壁地張瓦
洋スパニッシュ瓦
伊太利瓦
フレンチ瓦
其他瓦全般

製造販賣施工

高松菊次郎商店
大阪市末吉橋通四丁目三十一番地
電話船場(53)九四一番

代理店　工社材
大阪市西區京町堀通一丁目十四番地　電話土佐堀(44)五八〇九番

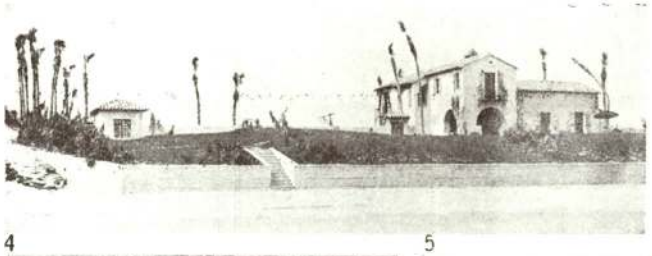
1



2



3



4



5



倫敦エンパイヤーホール
設計　ヨセフ・エンバートン氏
1 正面姿圖　2 夜景
米國　フロリダオーモンド海濱
ザブリスキー氏邸
設計　グリフイン氏
3 全景　4 側面　5 同上

切取線

最新發明　防水工事界之革命

セメファルトプライマーに就て

防水工事の施工に際し從來**アスファルト**を**コンクリート**に完全に密着せしむる事の困難なるに依りアスファルトプライマー（アスファルトを輕油等にて稀釋したるもの）をコンクリートの表面に塗布し、これによりてコンクリートとアスファルトとの結合を容易ならしむる方法を採用し來りたるもこのアスファルトプライマーには次の如き缺陷あり。

1、コンクリートが完全に乾燥せざる場合はこれに塗布することを得ず、即ち水氣の爲浮上りてその用を爲さざればなり。（施工能率低下）

2、アスファルトプライマーは塗布後猶相當時間の經過を待たざれば防水工事を施工することを得ず。（施工能率低下）

3、アスファルトプライマー塗布後防水工事前に於て降雨等ありたる時は洗ひ流さるゝ處あり。（膠着性不足、防水能力不備）

4、コンクリートとアスファルトとの密着脆弱し。（膠着性小）

セメファルトプライマーは**アスファルト**と最も完全に融合する特性を有し且つ以上の缺陷を補ふべく案出せられたるものにして次の特徴を有す

1、**特性**　**コンクリート**に水氣あるも**アスファルト**を完全に密着せしむ。

2、**施工能率の增進**　塗布後三十分を出でずして防水工事を施工することを得。

3　**防水性**　**セメファルトプライマー**はそのもの自身にて大なる防水能力を有するを以て塗布後降雨等の爲絶對に洗ひ流さるゝことなし。

4、**膠着性**　**セメファルトプライマー**は**コンクリート**内部へ迅速に浸透し、且其上に塗布したる**アスファルト**と强く結合する故に**コンクリート**と防水層とを完全に膠着するものなり。

5、**施工簡易**　**セメファルトプライマー**は淡精なる液體にして乾燥早きが故に刷毛引きにて施工最も簡易なり。

價格低廉　一回塗手間共約　金五十錢
一坪ニ付　二回塗手間共約　金九十錢

發賣元

工材社

本社　〔大阪市西區京町堀一丁目四〇番地　〔電話土佐堀五八〇九番
出張所　〔東京市芝區南佐久間町二丁目三番地　〔電話芝二五〇六番

建築請負會社のタイプと現場の管理

竹中工務店　工務部
芝田知重

一、緒論
二、請負會社の組織
三、施工計畫
四、最近施工法の合理化と其考察

一、緒論

建築事業はその範圍頗る廣汎にして直接間接に使用する勞力亦夥しき數に上りその規模の大なる事は恐らく他の製造工業等に劣らざるものである。

その包括する所は住宅、アパートメント、ホテル、百貨店、劇場、教會並に寺院、病院其他の慈善施設物、小中學校、大學校其他の教育施設物、裁判所、議事堂、其他の諸官署等あり又工場、倉庫、商業ビルディング等を造り、更に土木工事に至りては築堤、貯水池、運河、橋梁、船渠、發電所、鐵道、隧道、電信電話線路、道路工事等の公益機關の建設に及ぶ。

以上斯くの如く多方面に亙つて之が事業を合理的、經濟的に管理經營せんとせば從來の如く十年一日何等進歩なき放慢なる組織を以ては豫期の目的を達成すること能はず、各自其仕事の實情を究め合理的組織を以て現代複雜なる產業界に處すべきである。

二、請負會社の組織

大建築工事の効果ある管理方法は組織と計畫の二要素を除いては秩序なく全く渾沌たるものである。

勿論組織の大小は各自事業經營のスケールの大小及其性質により異なるものなれ共左に相當大なる會社の組織に就て如何に編成せられ、連鎖的關係を有し工事が施工せられつゝあるかを述べて見たいと思ふ。

一、第一圖組織表參照

組織は横形編成とし左の如き九分課を置く。

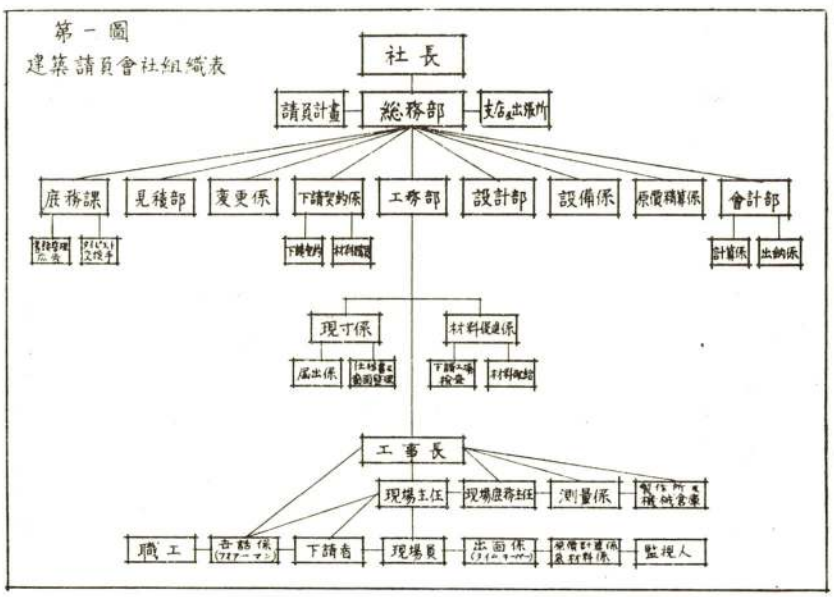
一、庶務課
二、見積部
三、變更係
四、下請契約係
五、工務部
六、設計部
七、設備係
八、原價精算係
九、會計部

各分課は各專門家擔任し主任者は事務に通曉し擔任分課に就て事務上の一切の責任を有す。

且他の各分課間に明確なる事務上の區別及相互の關係を有す。

この横形組織の圓滑なる作用は一に確固たる畫策の企圖、分課相互の事務の處理及制定をなすにあり。斯くして永久完全なる組織體が建設せられ各自定限されたる敏速なる動作が處理せらるゝのである。

第一圖
建築請負會社組織表



る。

總務部

總務部は各分課の結合したるものにして、部員は各分課の主任者とす。

總務部長は支配人とし總務部を統轄す。

總務部は毎週一回會議を開き、速記者によりて記錄されたる議事は即時タイプライターにとられ各關係方面に配付す。

本會議に於ては各分課の主任者は各擔任事務の工程、緊急事項の報告、計畫の發表、註文等を發す。

而して各分課に對する責任を決定し、工程の遲延せるものは其促進計畫を討議し、浪費の調査をなす。

一、庶務課

庶務課は說明を要する迄もなく一般の庶務、各工業機關雜誌或は各種新聞に會社の經營政策上適宜廣告をなす。

二、見積部

一、數量の積算、下諸參考見積の徵收、工事費の書入れ

二、既成工事に對する工費原價の統計表を作成

三、見積工事費と實際工事費との比較研究をなし、將來見積の參考資料となす

三、變更係

變更係は工事の變更を處理するために設置されたる分課にして、變更によつて生ずる他の各分課の負擔と責任とを救濟す。

變更係の任務は其性質と各分課の相互連鎖的關係ある事次の如し。

一、變更工事に關係ある各課の主任者、下請者、現場主任者に對し變更見積をなさしむ

二、施主に變更見積を提出

三、變更工事に關し工事の中止着手等の通告書を各關係分課及下請者並に現場主任者に配付すること

四、變更に對する命令、認可、下請者の施工なるや、請負會社の施工に屬するやを詳細に記載せる變更記錄カードを作成す

四、下請契約課

下請契約課は下請の契約、材料の注文を發す。

但し煖房換氣、衛生、電氣工事等の附帶設備に關するものは設備係之を契約す。

任務左の如し。

一、實行豫算書の作成

二、下請見積の徵收に要する明細書及見積要項書を作成

三、必要に應じ施主及設計者に對し下請者の承認を得ること

四、各分課に下請契約の決定の通知を發す

五、下請者と契約書類の締結をなす

材料購買係の任務

一、下請契約課主任監督の下に材料購買係は材料の購買をなす

二、材料見本提出、承認を得る手續をなす

三、機械及工具の購入

四、古材料の振替事務の取扱

五、材料置場、倉庫の計畫手配

六、會計及庶務部の指圖の下に本店及現場に要する文房具類其他必要物品の購買をなす

七、購買記錄カードの作成

五、工務部

工務部は現寸係、材料促進係及現場全體の組織を包含す。

現場と本店間に重大なる連絡任務を有する工事長を通じて現場の支配命令をなす。

各現場は現場主任者之が責任を有す。

現寸係の任務

一、圖面、仕樣書に關する事務及フアイリングをなす

二、詳細及現寸圖の作成をなす

三、官廳に對する届出事務を掌る

材料促進係の任務

一、下請及材料商人より工程表を常に徵收し促進をなす

二、發送、入場の記錄表を所持し材料置場の手配を誤らぬ樣なす

三、請求書に入場の調査をなす

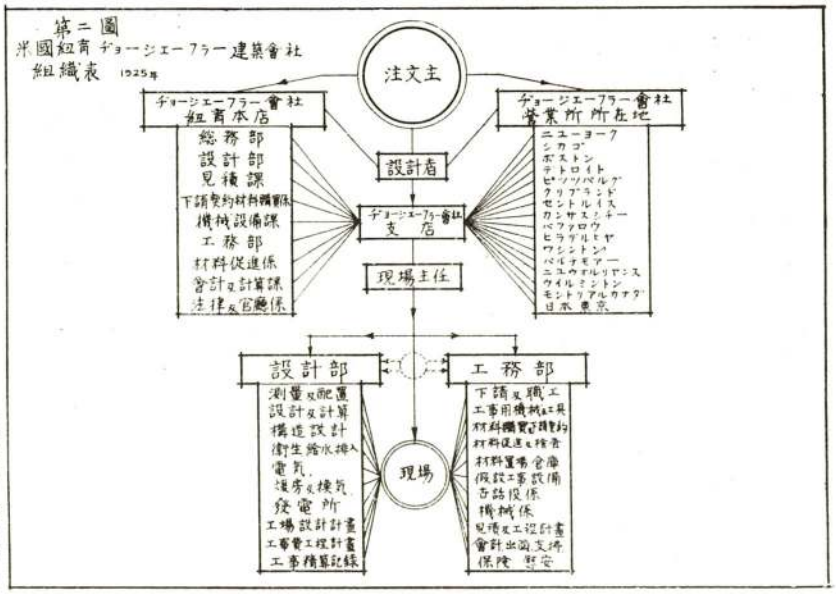
六及七、設計部及設備係

此二分課は何れも純然たる技術專門に屬する分課にして設計部は設計及構造の計算をなす。

設備係の中煖房工事係は煖房換氣及蒸氣機關の設備を監督し、衛生工事係は衛生、電氣設備係は電灯、電力の配線、發電及送電の設計監督をなす。

此課は前述の通り下請契約課と同一方法にて關係工事の契約及材料購買の任務を處理す。

此設備係の下には各專門の現場監督者を有し尙必要に應じ工場及



對照表は進行中の工事費移動の狀況を一目瞭然と表すものにして此工事損益表（一種のバランスシート）を每月一回本店支配人に提出す。

二、既成工事の原價計算の統計をとり將來見積の參考、實行豫算の作成、下請契約、材料購買の參考資料に供す。

九、會計部

會計部は一般帳簿、傳票、現金出納等の任務を有す。

以上九分課を包含する總務部は凡ての事務上の責任の焦點にして總務部員は全組織體型が最も合理的に內滑に活動する樣協力一致を要す。

第二圖は紐育のヂョウジ　エーフラー會社の組織を示す。

三、施工計畫

前節に於て建築工事の効果ある管理方法は組織と計畫の二要素が最も重要なることを述べて置いた、以下之が施工計畫に就て極めて廣い意味に於て簡單に說述して見たいと思ふ。

施工計畫を立てゝ工事の管理支配を行ふといふ事は私が玆に蝶々と述べる迄もないことである。

施工計畫の要點を圖示すれば大體第三圖の如くなる。

一、現場員の組織と打合せ

工事請負が締結と同時に現場主任、現場員、現寸係、タイムキーパー、材料係兼原價計算係、タイピスト、給仕、等の現場の戰鬪員を編成す。

二、工程の計畫

工程表を作成し、且作業進行狀態を記入せる工程表月報を每月一回本店に送附す。

三、假設工事の計畫

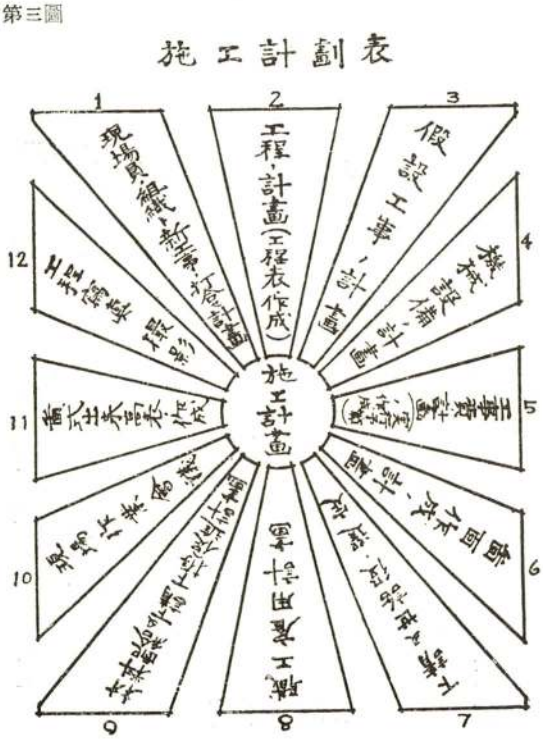
板圍ひ、鋪道架空橋、箱番、足場、下小屋、借地、セメント小屋、下小屋等をも有することあり。

八、原價精算係

原價精算係の任務は左の如し。

一、工事中常に實行豫算と其實施原價との對照表を作成し工事費の漏洩を省き豫期の成績を擧げしむる事に努む。

第三圖



材料倉庫、置場、工具箱番、職工更衣場、隣家養生、工事用水、動力等の假設物の計畫をなし、之を施工計畫圖面に表す。

四、機械設備の計畫

工事請負契約後二十四時間以內に工事用の機械を現場に發送し得る敏速なる動作を要す。

恰も戰場に武器を輸送するの覺悟を要す〃而して之が使用計畫は工事の大小、緩急、豫算の程度に從ひ設備の計畫を圖面に表し、前記假設物の配置と同紙上に施工計畫圖を作成す。

五、工事費の計畫

一、實行豫算の作成

二、現場に於ては原價計算を行ひ每月一回工事損益表を作成し工事中の損益狀態を知ること

三、各作業の單位原價の統計をとる

六、七 圖面の作成、下請及世話役の撰定

八、職工雇用の計畫

日々の職工人夫の手配は科學的に行ふこと。

即ち一般に豫算金額を職工賃銀率にて除せば共作業完成迄に要する總人工數を得、之を工程表指示の日數にて除せば一日に手配すべき數理的の人工數を算出し得べし、此理論を念頭に置くべし。

第四圖參照

九、材料配給、下請促進計畫

大工事には專門の促進係を任命し、材料の配給、下請工場の出來高檢査をなさしめ常に文書による工程表を彼等より徵收し組織的に促進をなす。

一〇、現場作業會議

現場に於ては（每週一回例へば木曜日午後二時より）現場作業會議を開く。

出席者左の如し。

一、本店より支配人、工務部係、速記者一名

二、現場は工事主任、下請者、世話役

打合せ事項左の通り。

一、作業工程狀態

二、施工法

三、材料の配給狀態

四、機械設備の狀態

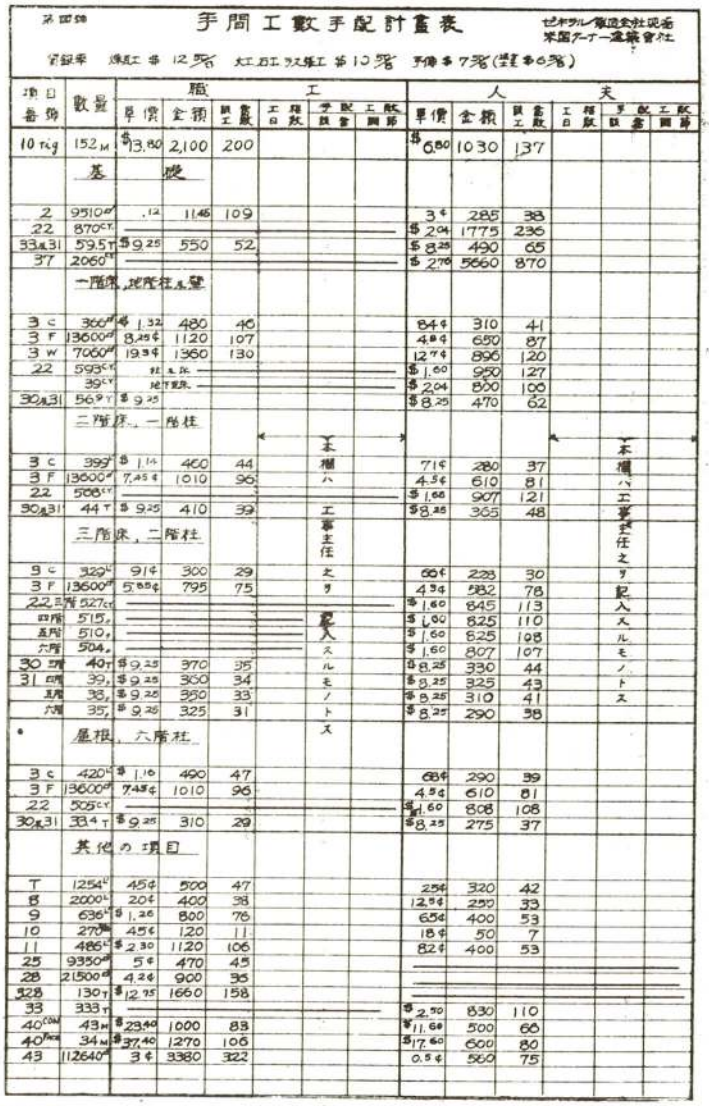
五、圖面作成の程度

六、變更

七、今後の作業計畫手配

以上の議事は速記者により記錄され即時タイプライターにて仕上げ

第四圖


手間工數手配計畫表

各關係下請材料納入、本店係りに配附し直ちに各目の責任を決定す

第九圖はウインスロープアパートメント工事の現場作業會議にてダブリュー・エム・バーナード建築會社が下請に交附せる作業工程表一一、圖式出來高表の作成

平面或は斷面、エレベーションを縮尺したる七、八寸大の圖面を作り、之に各作業の出來高を色鉛筆にて記入し作業の狀態を明示し施工手配の基準となす。

一二、工事寫眞の撮影

一種の工程表と見做し、工程の報告に使用す。

殊に地方の現場に於て然りとす

最近は日本に於ても活動寫眞の撮影をもなすに至れり。

四、最近施工法の合理化と其考察

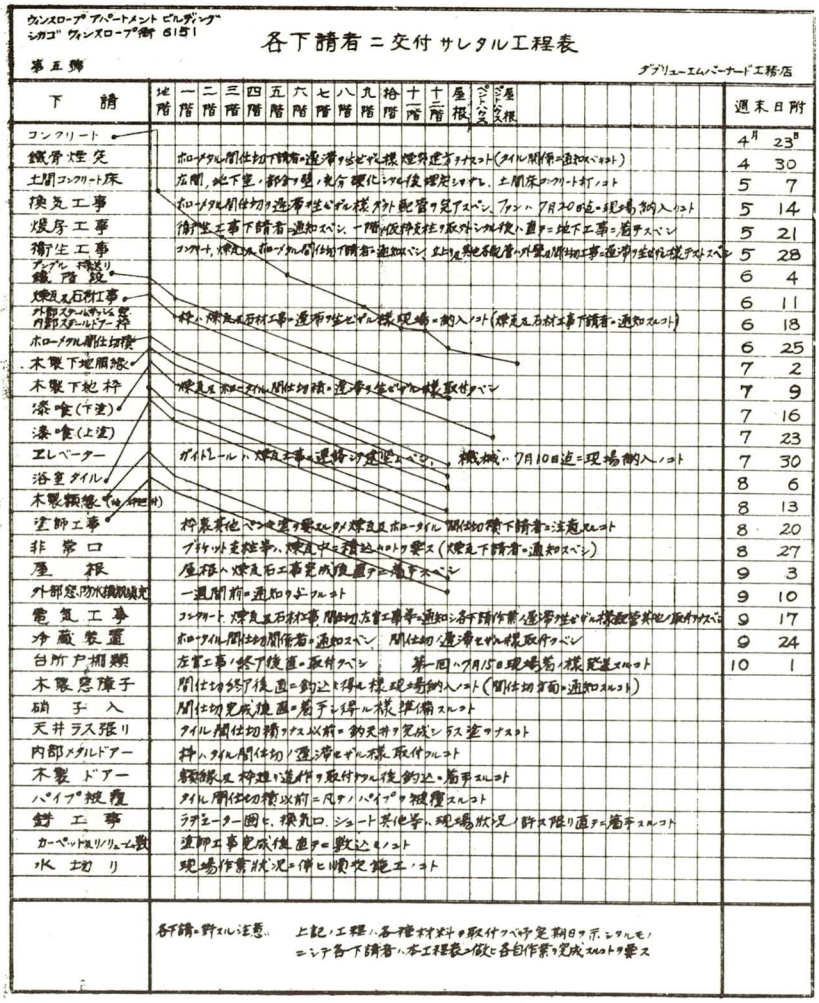
アメリカの物質文明は世界大戰後急速の進歩をなし特に建築方面に於ては管理、事務的方面、建築會計及原價計算の問題建築工業に於ける無駄防止、作業用機械應用の發達、施工法の合理化と工事期間の極端なる短縮等其進歩發達は實に著しきものがある。

更に最近米國からは摩天樓の驚くべきニュースを齎らしてゐる、スカイスクレーパーは其限を知らず紐育のレキシントン街にはクライスラービルが白龍天に昇る其英姿を表した。

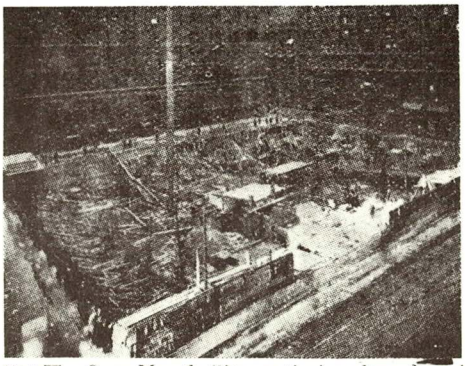
高さ驚く勿れ千四十四呎、パリーのエッフエル塔、一八八九年（明治二十二年）に建設せられたるものが千呎、エッフエル塔を凌ぐこと正に四十四呎。

摩天樓檜比の紐育で斷然其王座を誇つてゐたウールウオースビルも最近同胞建築家松井保男氏の設計監督になるマンハツタンコンパニービルに百二十呎を征服された當時紐育の大新聞は日本建築家の爲めに其敏腕を賞讃し松井氏又其ユーモアーある新聞記者との應對に吾々は心から愉快を感じたことである。

而しクライスラービルはマンハツタンビルより更に八十呎も高い階數も十一階、エレベーターの數三十臺、エレベーター一時間十二哩の速度即ち千呎の高樓でも一分間で昇降出來る、然し紐育でも一分間七百呎以上はスピードは出せ



第五圖

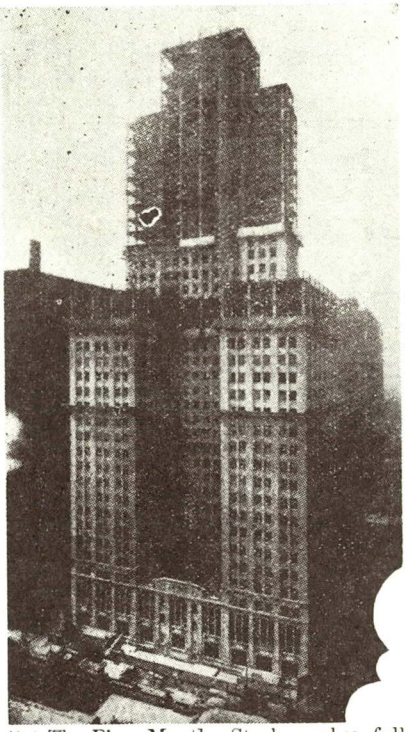


第六圖 One Month Site entirely cleared and first derrick on the job

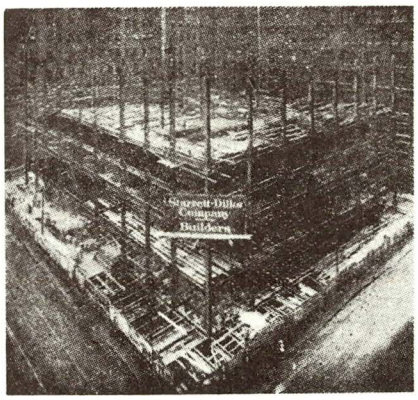
ない制限になつてゐるとかである。

此工事期間一ケ年半、此大建築工事に於ける死傷者僅かに一名とは、如何に建築業者の危險防止の施設が完全に行屆いてゐたかゞ想像される、之に比して日本の三、四階建の工事に死傷者を續出する樣では屋外勞働者扶助法案も頭痛の種である。

左に(六十頁)一例として米國の現場が如何に速かに進行しつゝあるかを寫眞で示す。



第九圖 Five Months Steel reaches full height of structure



第七圖 Two Months Steel up first five stories

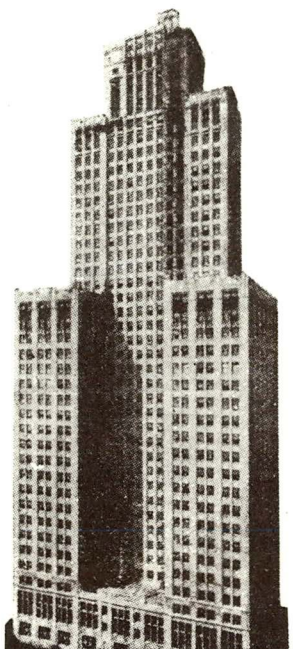
吾國に於ても從來の施工法、現場の管理的方面を研究改善すれば現在より以上の能率を擧げ得て、工事期間の短縮をなすことは決して困難のことではあるまい。

イ、第六圖 一ケ月後の工程……全敷地は完全に掘方され第一號デレツキを建つ

ロ、第七圖 二ケ月後の工程……鐵骨の建方は第五階目迄進むハ、第八圖 四ケ月後の工程……塔屋部分の鐵骨建方中、下部よりテラコツタ張りを進行し既に四階目迄外部の仕上を終るニ、第九圖 五ケ月後の工程ホ、第一〇圖 七ケ月後の工程……全く完成し貸事務所を開始す斯かるスピードアップの完成は何



第八圖 Four Months The tower section under way. Terra cotta facing begins at fourth floor



第十圖 Seven Months Ready for the tenants

に基因するであらうか、茲に極めて一般的の考察をなし簡單に摘記して見たいと思ふ。

一、設計が標準化されてゐること。

二、設備工事が本設計と同時に完成されること

三、凡て圖面はショップドロウイングを完全に作成されること。

四、設備工事下請者に任すと完全に設計及現場施工をなし設計者は割合に之に對して心配なきこと。

五、現場に於ては一般に急ぐ部分例へば掘方、コンクリート、外壁テラコッタ、タイル、煉瓦張等凡て建物の外格を整へる作業は定用制度に施工する。

依つて現場は定川職工を二千人でも三千人でも使用し殆んど戰場の如き狀態を以てどん〳〵作業を進める。

斯くる混亂なる狀態の樣なれ共、作業は計畫的に極めて能率的に行はれ、又每週一回各手間の原價計算を行ふが故に豫算より超過するが如きことあらば直ちに發見することが出來る、若し能率あがらざればフオーマン(世話役)を取替へる、或は現場係員を取替へる等凡ゆる手段を施して其豫算超過の原因を徹底的に調査する。

六、現場ではフオーマン制度により作業の手配、方法、材料の配給、圖面の納り等凡て實地家のフオーマンに行はせるが故に最も有効にして要領よく現場員は比較的世話がやけぬこと。

七、職工は近來補習學校或は青年會等にて養成せられ約六ケ月位いにて現場へ送り出す、日本の如く年季奉公法によらず、從つて學理的に訓練されたる職工を使用す。

八、現場監督者はフオーマン及請負會社の現場員を信賴し現場が遲滯なくスムースに進行すること。

九、機械の偉力を各作業に遺憾なく應用する。

一〇、運搬にトラックを使用し凡ゆる場合最も迅速に配給を行ふことが工事の進行上重大な關係がある。

一一、鐵骨構造に熟練せること殊に建方の速きこと。

一二、建築材料の規格が統一、標準化されてゐること。

一三、衛生、電氣、煖房、換氣等の設備工事の配管は鐵骨が建てられ床コンクリート打の進行と同時に進められ外壁、間仕切等の混凝土、煉瓦、テラコッタ、石、ホロータイル等は後より積上る施工の方法を採用してゐる。

一四、其他基礎工事の發達、石材の彫刻に機械力を應用し大量生産を行ふ、ブロンズ及金物類の製作の發達、內部塗裝工事の發達、テラコッタ技術の發達等。

サンホード イートムソン氏は一九二〇年米國のCommitee on Elimination of waste in Industry of the Federated American Engineering societies の委員會に於て 'Waste in Building Industry' 即ち建築工事に於ける無駄防止の調査研究を發表してゐる其他フアウアー、ピール、グラント、ヂレツト、エバンス氏等著名の建築工事の管理及事務的方面の研究家が斯界のために貢獻してゐることは見逃すことの出來ぬ事實である。產業合理化と建築工事、吾人は來るべき明日の建築施工者として凡ゆる無駄を省き、組織、計畫、並に施工の合法的調査研究をなし最も優秀なる技術を以て工事を完成することが最も重要なる問題なることを痛感するものである。

(完)‖五、七、一六受付‖

暑中お伺ひ申上ます

昭和五年盛夏

建築と社會編輯部

本號は第十三輯第九號として號數をとびますがこれは曩きに「學校建築圖集」が臨時號として出たのでその號を逐ふた譯ですお斷りしておきます。



福山城の用材

アナナロ卽ち クサマキに就て

大須賀　巖

江崎政忠氏の建築用材に熱心なるは、私が八年前大阪に居つた頃本會の講演會であつたか、ソレとも東京の都市研究會のソレであつたか、壇上にあらわれた立派な紳士が木材の演說を初めると、私の周圍から囁きがあつた……こと程江崎氏の職に忠なると申そうか御熱心な木材に關する多年の御主張として六月號に「古建築の用材と鴻池男爵邸」の表題下に古建築と用材の用意に就て示教を賜はつたことはツイ知らず知らずに有りもせないお小遣から僭上沙汰を致し兼ねまじき其日暮しのものに迄、頂門の一針として難有拜讀せざるを得ませんでした。會々田舍（と申すのは私が田舍に居るからの謙遜で先方様はお怒りになるかも知れぬ言葉でありますが）の歷史雜誌に會々腐らないアスナロの城材としての價値、或は今日に於ては永久的建築材料としての資料が見當りましたので編輯記者足下に拔萃して差上げます。江崎氏が已に東北地方に大抱負を以て國家百年の爲め着々と御造林なすつて居ることと存じますから！。

○

備後史談第六卷第六號

福山城の用材研究——濱本鶴賓氏論說拔萃

築城以來三百十余年を經過し、更に腐蝕の痕を見ない福山城天守閣の用材に就き、故老の語り傳へは、單に「クサマキ」であると云ふのみで其のクサマキが何科に屬する植物であつて何れの地方に產するかは知る者がない。現存する伏見櫓も亦クサマキを主材とするもの〻様である。明治六七年頃三の丸の御屋形を競賣にしたときその用材を移して自宅を普請した者は、其材が皆クサマキだと語つてゐる。……

○

築城術の最も進歩した元和、寬永時代を代表する名城福山城の研究に用材の調査を忽にすることは出來ないから、福山城の修繕に數代關係してゐる大工の棟梁松本好五郎翁を伴つて、天守閣を實地に調査して見るに、夥しい其用材は悉皆いはゆるクサマキであつて、一本として蠹蝕したものはない。しかも表面を紙ほど剝ぐと肯ぎる光澤があつて木の香は鼻を衝くほどであつた。初層の心柱に載せてある枕梁は周圍が一丈四五尺、隅梁、上り梁、その他見るからに人を驚かす大木が縱橫に阯まれ、之を支へてゐる無數の角柱、圓柱を始め、桁、鴨居、天井、闕、垂木、屋根地、窓格子、雨戶、欄干、梯子段、手摺に至るまで皆クサマキでつくられてゐる。たゞ壁板のみは樟を使つてあるが、其他は總てクサマキならざるはない。故に天主閣は此の木のみで出來あがつてゐると言ひ得るのである。

○

轉じて伏見三層櫓を調査するに之れは日向松とクサマキとからなり、鉋を使用した箇處は梯子段の手摺以外にはなく、……そしてクサマキの質は天守閣のものより大いに劣つてゐる。

○

清風樓といふものの御湯殿である。その構造は桃山時代を象徵するものであつて、木材と共に、特別保護建造物たる資格があると、嘗て工學博士武田五一氏が視察して人に語つたところである。床鴨居、勾欄の構造は別として用材全部はクサマキである。……

○

此に於て所謂クサマキが何であるかを研究し、之が東北地方の特產アスナロである事を確めたので

各新聞に發表した。それを日本山林新報、材木新聞が更に轉載して廣く社會に紹介するに至つたが、青森營林局は大阪營林局へ移入經路と耐久力に關する照會狀を發した。そこで大阪營林局は福山營林署へ移牒して調査を依頼した。乃ち同署長以下署員や市役所の糸井技手を伴つて、再三の實地調査を遂げ、更らに福山誠之館中學校の島教授の顯微鏡檢査に依つて良質なアムナロ、一名クサマキであることを確定された。近頃のものより遙に良質である。

○

材は淡黒色で又微紅を帶び、一種の臭氣があつて脂氣を持ち、水濕に耐え三四百年を保ち得る。木理通直にして强硬、抵抗力檜よりも大、化學上の殺菌力一鹽化水素性のセスキ、スルペンの成分を多量に有する。故に白蟻の害なく、能登地方では此鋸屑を燻して蚊遣に用ゐてゐると。水濕に耐へる事は、明治十八年改造された東京千住大橋に就いて見ると、その舊橋の柱はアスナロであつて正しく三百年を經過し、依然として少しの腐朽もなかつたといふ事實がある。かかる例を遠く引く必要はない、福山の天下橋も亦このアスナロでつくられ、明治二十五年に取壞した時、表皮二三分を削れば心材はなほ依然として脂澤を放つてゐた、此橋は伏見城より移したもの故、まさに三百余年の長期間水中にあつたわけである。以て耐久力、耐濕性の如何に强大なるかを知るべきである。

○

前述の如くアスナロは東北地方(主として陸奥)の特産であつて、稍下つて北陸地方(主として能登)に繁殖してゐるのみである。當時更に關東地方には見るべからざる木材であつた。なれど此木の耐久力、耐濕性が社寺又城廓の用材として最適することは經驗上當時の建築家には既に知られてゐる事から、容易に推知される。しかし之れも近畿地方以東のみの知識であつて、關西地方ではたま〳〵之を知るものあるも手に入れることは不可能であつたことと想はれる。遠大なる經綸をもつてゐた水野勝成が子孫の爲めに千年の大計を樹て、はる〳〵東北地方に此材を求めた遠圖雄略は、蓋し驚嘆に値するものがある。

○

……。當時福山領内至る所に各種の處女林があつて樟、欅、松、杉、檜等の老大木は幾百千本でも之を得ることは易々たるものであつた。……。然るに豪宕なる勝成は易きを捨て難きを取り、遠く良材アスナロを北陸陸奥に求めた、その動機は少壯の時諸國を放浪して關東關西の名城は悉く自ら視察せるところ、しかも後年自ら大國に領主たる時を夢みて、參考資料の蒐集につとめたのであるから、築城の用材に何が最も好適かは夙に研究してゐたものと思はれる。故に福山城を新に築くにあたつて萬難を排し、アスナロの輸入を企てたのである。交通運輸の不便極まる時代に敢然として之を實現した大志と勇氣とは、眞に怖るべきものがある。

○

現在天守閣の大梁には多く切判を刻んであるが切判は其の材を出した山又は持主の符號である。符號は省く)而してその中に天とあるのは天領を示すものではなかろうか。勝成は家康とは從兄弟の血緣もあり、二代將軍秀忠の信任頗る厚かつたので、福山築城に當つては、幕府としては破格の應援を與へ、また利益を計つてくれたのである。例へば伏見城の櫓門等を下賜したのでも知れる。故に陸奥の天領のアスナロを特に賜はつたのではなかるまいか。又弘前城主津輕爲信は、大垣城攻めの時、勝成の戰友であつた關係上、爲信に請ふて其の領内よりも伐り出したのではないだろうか。……

建築落成、專任所員一名を置き、和歌浦、日方、鹽津地震觀測主任とし、兼て南海地動觀測所觀測整理に當らしむ。之に必要なる設備あり。

(B)和歌浦地動觀測所

傾斜計觀測は東京帝國大學地震研究所々屬のものを借用し別に

南海地動研究所現況報告

縣有和歌浦公園内敷地百二十坪を借入れ、昭和五年三月事務所

一、觀測網

(A)和歌浦地動研究所

地震觀測室を小學校構內に設く
(C)日方地震觀測所
和歌山縣海草郡縣立日方高等女學校理科教室の一部を借用し地震計室とす。
(D)鹽津地震觀測所
和歌山縣海草郡鹽津小學校構內に地震觀測所を設く。
(E)福良地震觀測所
淡路國福良小學校內に地震觀測所を設く。
(F)田邊地動觀測所
田邊町神子濱丘陵側面に地所を購入し、等溫室を設け、地盤傾斜と地震とを觀測す、海岸に檢潮儀を設く。
(G)富岡地動觀測所
德島縣富岡町一丘陵に地所を借用し、地盤傾斜と地震とを觀測す」
(H)室戶地動觀測所
觀測所敷地を定め、地下工事進行中。
備考 (E)以上地方篤志者に依囑し觀測に從事せしむ。

二、事業成果

本事業の成果を得んには數年或は數十年の調査を要すべきも、過去二年間に擧げたる成績は前途有望なるを示すものと認む、參照書類左の如し。
(A)紀伊半島の漫性的竝に急性的地形變動(日本文及び英文)
(B)四國南部に於ける漫性的竝に急性的地形變動(日本文及び英文)
(C)京阪地方地塊の傾斜運動(日本文及び英文)
(D)昭和四年七月四日の紀伊强震(日本文及び英文)
(E)昭和四年十一月二十日紀伊强震(日本文)
以上の外、昭和四年中に於ける和歌山地方地震觀測調査結果を主任者より提出したるも未だ出版の運びに至らず。
備考 京阪地方地塊傾斜運動調査は目下文部省科學奬勵資金の補助によりて進行中なるも經理系統を異にせるを以て茲に之を加へず。

三、經理の概況
(別紙報告の通り)



サン・ドミンゴ 燈臺設計入選案

最優秀者に賞金五十萬マークを贈るサン・ドミンゴの燈臺兼用コロムブス記念塔の第一回設計懸賞募集には應募者四百五十三名を得た。揭載せるは入選圖案十圖)であるがこれらは多少の改訂を施される筈である。特選作については二圖を揭出する。尙選外佳作一圖をも特に揭出した。右は南北兩大陸を表徵する二つの女人像が總高百十米の臺座上に立ちニューヨーク灣頭の自由女神像と同じく炬火——ニューヨークのそれより大なる——を持てるものである。

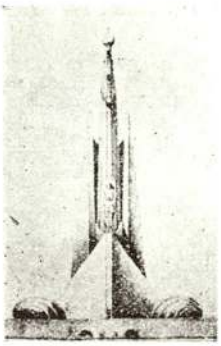
入選
1 ローマ(伊)
フイリツポ・メドーリ氏
2 ドルトムント(獨)
ヨーゼフ・ヴエンツレル氏
3 マドリツド(西)
ヴアケーロ・モーヤ兩氏
4 ニューヨーク(米)
ウイル・ライス・エイモン氏
5 パリー(佛)
ベルタン、ドーヤン、ノストロフ三氏
6 アッシュヴイール(米)
デイー・エリントン氏
7 ニューヨーク(米)
ヘルムル、コーベツト、ハリスン三氏
8 パリー(佛)
ドーナルド・ネルソン
エドガー・リンチ 兩氏

特選
9 ハムブルグ(佛)(1)
クロツブハウス、ショッホ、ブトリツツ三氏
10 ノッテインガム(英)
アイ・クリーヴ氏

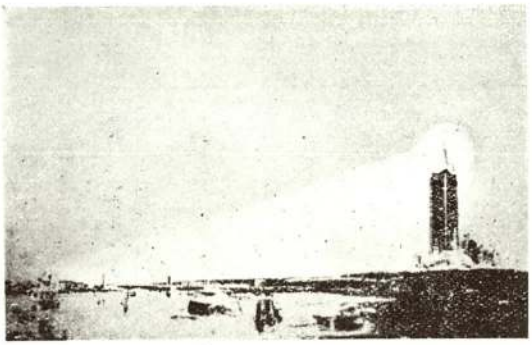
特選
9、11 ハムブルグ(佛)(1)
クロツブハウス、ショツホ
ブトリツツ 三氏
(ドームは內徑二百米、高百二十米、りはその內部)

選外佳作
12 クリーヴランド(米)
エルバート・ピーツ氏

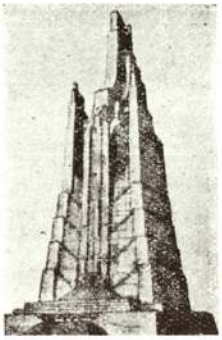
1



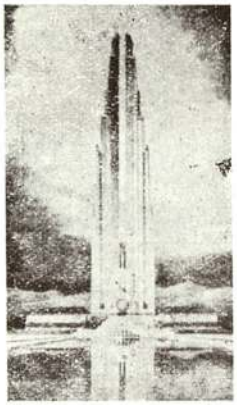
2



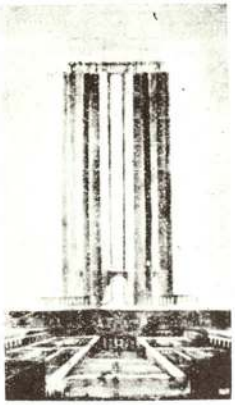
3



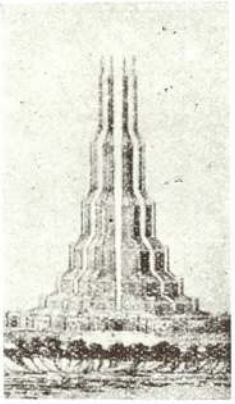
4



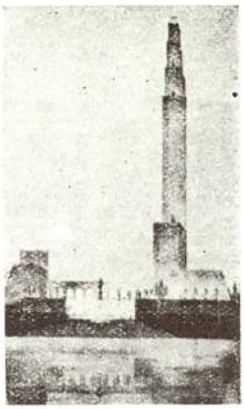
5



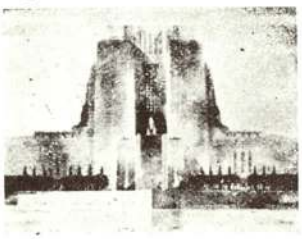
6



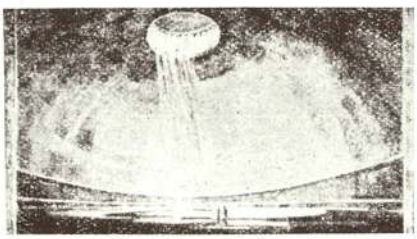
7



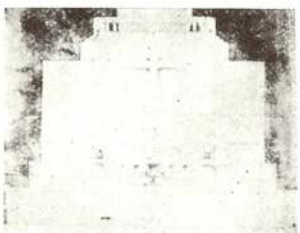
8



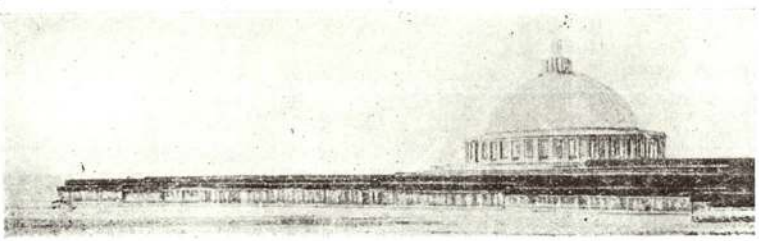
9



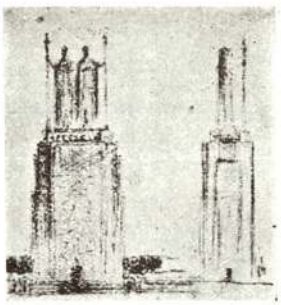
10



11



12



座講上誌

都市・建築・音響 (二)

佐藤武夫
中野勉

第三章 音の大いさ (Loudness)

(一) 音の大いさの單位

前章に於いては、音の強度と感度とに就いて述べ、兩者の間に存在する對數的關係を明かにしたが、音の大いさ Loudness と、音の強度 Intensity との間には更に複雜な關係が存在してゐる。一般に二つの音の大いさを比較する場合にそれらの音が全く性質の等しいものである場合には、兩者の大いさは直ちにセンセーションレベル Sensation level の値で比較されるけれども、若し兩者の音の性質が異なるものである時には、それらの音の大いさはセンセーションレベルを以て比較することは出來ないのである。音の大いさなるものは、音の強度と振動數とによつて定まるものであるからである。言ひ換ふるならばある種の音が耳に聞こえた時、その音が聽神經に與へた感覺の大いさをば音の大いさと云ふのであつて、音が耳に與へる感覺なるものはその音の強度によつてのみ決定せられるものではなく、音の振動數も大いに關係するものであつて、之等兩者より音の大いさなるものが複雜な關係によつて決定せられるのである。故に同じ強度の二種の音が大いさに於いても同等であるとは、必ずしも感ぜられないのである。今二種の音をばある音源より發せしめ、それらの音の大いさが等しい樣に調節しておいて、各音のインテンシテイレベル Intensity level をば同じ量だけあげると、一般には兩音は最早同じ大いさには聞こえないものである。

之等の理由からしてセンセーションレベルも、インテンシテイレベルも音の大いさの測定には用ひられないことが分る。故にこれを測定せんがためには全然別な單位が用ひられねばならない。即ち一つの音の大いさが、あるスケールで示された數で計られ、他の音をば同じスケールで計つた時その音のスケール上の大いさが、最初に計つた音の大いさと同じであるならば、二つの音は同じ大いさであると云ふ樣なスケールが必要な譯である。

かゝるスケールの一つとして、音の大いさの單位が強度に於いて認識しうる最小量の增加として決定しうる方法が考へられる。若しこの增加率が一定のものであつて、その對數値が使用せられるならばそれらの關係は簡單なものとなる譯である。故に音の聞こえ始めの強度をば零の大いさとして、これに加はる認識しうる最小量の強度の增加をば音の大いさの一つの增加單位と定めることが出來る。若しかゝるスケールが造られるとするならば、スケールに示された數は、あるセンセーションレベル (a−ε) に對する強度に於いて認めうる範圍の數であらねばならない。云ひ換ふれば、若しLがかゝるスケールに示され

よ、數とすれば

$$L=\int_{a_0}^{a}\frac{1}{\Delta a}da \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots(4)$$

なる關係が成立する。

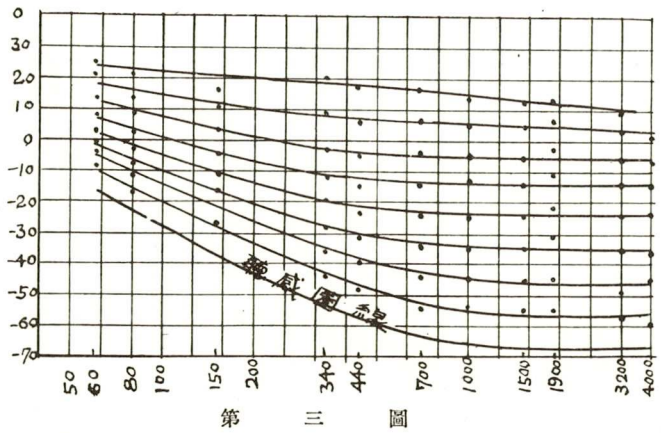
然しかゝるスケールをば、實際造るに際して困難なことには・ピツチの異なる音を取扱つた場合に、スケール上に示された同じ大いさの數が同じ大いさに聞こえる音に一致しないことである。例へば四オクターヴのピツチを有する音で、センセーションレベルが四十デシベルなるものは、ピツチが零でセンセーションレベルが七十デシベルのものと同じ大いさに聞こえる。この二つの音の大いさをば前記の如きスケールで計つた場合には、二十及び百二十五なる數を示すことゝなる。然しこの不統一性は、もしある音をば例へば零ピツチの純粋音をば、比較に使用する規準の音とすれば除かれる。即ちある音の大いさを測定せんとする時には、その音と同じ大いさにこの規準とせる音の大いさを調節し、その場合の規準とせる音の大いさによつて測定し得る譯である。かゝる規準となる音を撰ぶことは、同量の强度增加に基礎をおいたスケールの意義を失はしめることになる。然し同量の强度增加に基礎をおいたスケールでは稍もすれば音の大いさに對する觀念を誤らせ勝ちであるのに對して、かゝる規準音を撰び如何なる音の大いさも、その規準音の大いさによつて測定することは、音の大いさと云ふものに對する觀念を一定に保つに便利である。

これらの理由からして、零ピツチの純粋音のセンセーションレベルをば標準として撰ぶ方がよい樣に考へられる。零ピツチと云ふのは何れ次章で音の振動數の單位に就いて說明する時に詳細に述べるが、毎秒一キロサイクル (1 kiro cycle per second) の振動數に相當するものである。かゝる音の大いさはデシベルで示されるし、インテンシテイレベル(a)にも關係がある。强度(I)はミクロワット(micro watt)で示され、耳の鼓膜近くの音の振動壓力pは r.m.s. pressure 即ち bars で示される。故に

$$L=a+92=10\log I+92=20\log p+66\cdots(5)$$

この表はし方は聞こえ始めの音を零としたもので、毎秒千サイクルの音の聞こえ始めの强度(micro watt/cm²)の對數値をとつたものはマイナス九・二であつて、之をデシベルで示すとマイナス九二となる。故にその音のインテンシテイレベルに九十二を加へたものが、音の大いさとなる譯である。かくして他の音の大いさは、例へそれがピツチの異なる純粋音であらうと、樂音であらうと、複合音であらうと、總て千サイクルの音の普通聽力の耳で聞いた時の大いさによつて測定せられる。かくして始めて音の大いさをば測定することが出來るのである。

(二) 純粋音の大いさ



第 三 圖

ピツチの異なる純粋音 pure tone の大いさに關する測定は、セバイン Sabine 及びマッケンヂー Mackenzie によつても行はれたけれども、最も適當であると思はれるのは Bell telephone Laboratory に於けるキングスバリー Kings bury によつて成された實驗である。この實驗には十一人の男子と十一人の女子と合計二十二人の人々が參加してなされた。之等の實驗に携はつた人々は總て平均普通聽力を有するものとして實驗された。大抵の人々が殆ど同じ程度の

最小音を聞き得るものであり、ピッチや強度に於いても同程度の最小變加を認めうるものである以上、前記の人々により臆斷的に成された測定も、普通平均聽力によつて成されたとしても大差ない様に思はれる。

振動數	センセーション・レベル(2) $\log_{10} P/P_0$							
60	8.4	12.5	15.7	19.2	24.8	29.9	37.3	41.9	—
80	6.6	11.4	14.9	19.6	25.1	31.7	35.1	43.9	—
150	9.9	15.2	20.8	25.6	32.5	39.7	47.8	52.9	—
200	12.7	16.4	23.2	29.9	37.5	44.8	54.4	62.2	—
340	9.4	18.0	25.1	33.8	41.7	50.7	61.6	73.5	—
440	9.3	17.7	25.7	33.8	42.2	52.5	62.9	75.3	83.4
700	9.3	19.3	29.3	39.3	49.3	59.3	69.3	79.3	89.3
1000	11.7	20.7	31.1	40.7	52.1	60.9	69.8	78.5	86.8
1500	11.6	21.4	32.2	42.5	52.5	61.7	71.3	79.2	85.0
1900	11.9	22.4	36.3	45.7	56.7	65.0	73.7	80.2	—
3200	9.9	18.5	31.6	43.1	52.8	61.1	70.0	77.0	—
4000	8.0	22.1	31.6	44.0	53.2	61.1	68.9	—	—
Loudness	8.5	20.3	39.0	60.0	83.5	107.0	130.0	151.5	172.0

第三表　各行の數字は同じ大いさに聞える時の音のセンセーション・レベルを示す)

第三圖は實驗の結果を示せる曲線であつて毎秒七百サイクルの音を標準として各々のピッチの音の大いさが七百サイクルのものに等しい點を求めたものである圖で示されてある最下端の曲線は、聽感圏線 Threshold of audibility と云へるもので、各ピッチの音の聞こえ始めの點をば繋いで出來た曲線である。大體に於いて圖中の各曲線は之と平行して存在するものであることが分ると思ふ。圖に示された横軸の線は、r.m.s. pressure の對數値を二十倍したものであるが、之が次式で示されるならば更に便利である。(5)式參照)

$$L = 20 \log_{10}(P/P_0) \quad \cdots\cdots (6)$$

(6)式は(5)式を少しく變化したものであつて、Pは音波の r.m.s. pressure で示し、P_0は平均普通聽力の耳で聞こえ始めの音の r.m.s. pressure である。(5)式に於いてはP_0の頂が六十六なる數字で示されてゐるに過ぎないものである。第三表に示せるは第三圖に示されたものゝデータをば、センセーションレベルで示したものである。故に第三圖よりある點のセンセーションレベルを知らんとせば、音波が聞こえなくなるまでに幾センセーションレベル減ずればよいかを知ればよいのであつて、それは第四表に示された値である。

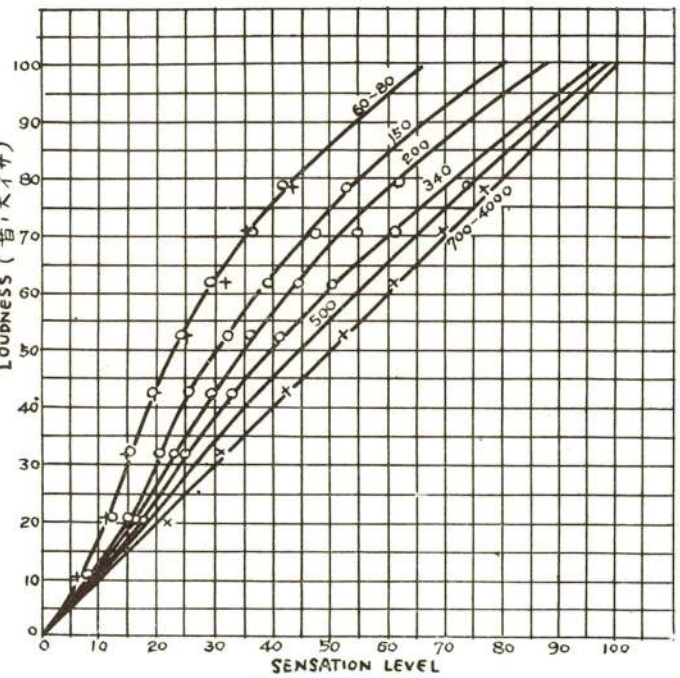
振動數	60	80	150	200	340	440	700	1000	1500	1900	3200	4000
$20 \log_{10} P_0$	−16.5	−23.0	−37.0	−43.6	−53.5	−57.5	−63.4	−65.5	−67.0	−67.4	−67.6	−67.5

第四表

前項に述べた音の大いさの定義によれば、ある音の大いさは、第三表に於いてその音の行の千サイクルの音のセンセーションレベルに相當する。例へば六行目の各値の總ての音の大いさは五二・一デシベルである。千サークルの列に記された値は、音の大いさを觀測するに必要なものであることが云へる。

更に正確な値をうる爲には、振動數が七〇〇、一〇〇〇、一五〇〇、一九〇〇、三二〇〇、四〇〇〇の各音の平均値が用ひられる。然しこの方法は、唯各音の大いさの變化が、センセーションレベルに相當して同じ量だけの變化をする故に是認されるものであつて、前記の音の大いさを表はすスケールとして撰ばれた理由もこゝに存する譯である。

前記の六種の音の平均値と他の音の大いさとより、種々なる振動數



第四圖

純粹音の大いさ

に對するセンセーションレベルと音の大いさとの間の關係を示す曲線が求められる。第四圖に示すがかゝる曲線である。この曲線より見て、ピツチの低いものが、ピツチの高いものよりも、音の大いさが增加することが早いことが分る。

キングスバリーによる前記の實驗は、總て七〇〇サイクルの音と直接比較して得たものである故に、次の疑問が當然起つて來る。『同じ大いさを有する二つの音は、かゝる試驗に示されてある如く、直接比較した時に同じ大いさに聞こえるであらうか。』それに對してキングスバリーは十一人の觀測者によつて、二〇〇及び三二〇〇サイクルの二つの音に就いて、この點の試驗を試みた。然しその結果は單に觀測の誤差範圍に止まるものであつた故に音。の大いさを測定するための前記の如きスケールで測つた大いさの等しい二つの音は、普通の耳で聞いた時にも同じ大いさに聞こえるものであることが云ひ得られる。

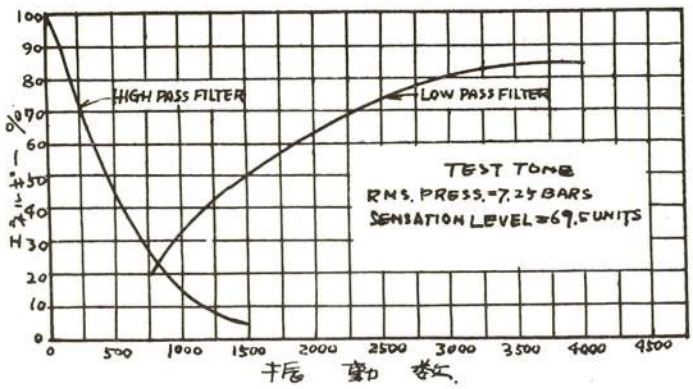
（三）複合音の大いさ

複合音の大いさの比較は音の性質が異なる時には、非常に困難ではあるが、觀測者の人數と觀測回數とが充分であれば、信賴し得る結果が得られる。3-Aオーディオメーター（後章記述）は複合音の大いさの測定には便利である。この測定器は種々なるピツチの音を合成して複合音を作り、七人の觀測者によつて調節された千サイクルの音の大いさをば標準として日盛せるものである。

種々なる測定の結果次の事實が明にされた。複合音に關する一般法則として、多くの音より合成される複合音は、それより少ない音より合成される複合音より、音の大いさに於ける增加率はセンセーションレベルに於ける增加率よりも大きいことである。又音のエネルギーが振動數の低いものに最も多くあるものは、振動數の高いものにあるものよりは、音の大いさに於ける增加は速かである。

ある音を合成する音波の中のあるものが、消された時の合成音の影響が測定せられた。この實驗には受話機に連結する電氣ブザー Electrical buzzer によつて發生される合成音をば、電氣フイルター Electrical filters によつて、その中のある音が消される樣に、サーキユツト circuit が配置せられた裝置が用ひられた。實驗は三つのセンセーションレベル、二十二、四十三、七十デシベルの音で行はれ、ある範圍內の振動數の音を消去した時の音の大いさの影響が決定された。第五圖は七十デシベルの音の場合の實驗の結果を圖示したものである。

圖中の橫軸はフイルターによつて消去された音の振動數を示すもので "High pass filter" と書かれてある曲線では、その點の振動數より下の總ての音が消去された場合を示すものであつて "Low pass filter" と書かれてある曲線では、その點より上の振動數の音が總て消



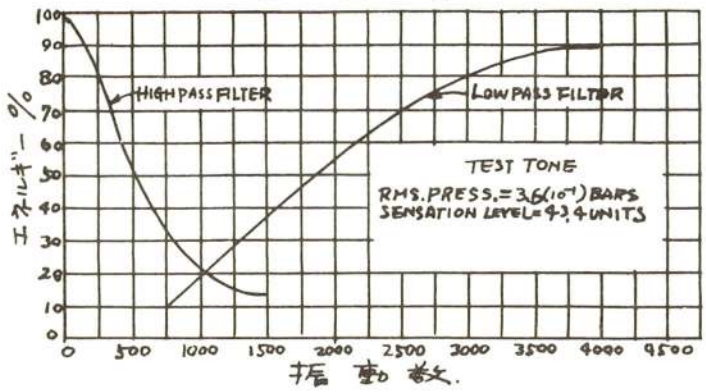
第　五　圖

去された場合の結果を示すものである。縦軸は合成音が、その中のある音を消去された場合に、それと同じ大いさに聞ゆるために減ぜられるべき合成音の強度のパーセンテージを示したものである。例へば第五圖に於いて、"Low pass filter" の曲線の上の點 (1500,50) は千五百サイクル以上の總ての振動數の音が消去された時にその音の大いさが原の合成音の強度の五十パーセントであることを示すものである。第六圖、第七圖は同様に四十三デシベル及び二十二デシベルの音の場合の實驗結果を示せるものである。

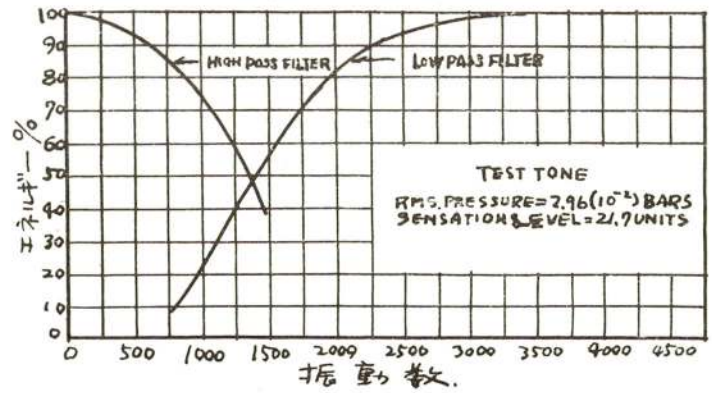
各場合の曲線の交點に於ける振動數は重要なる意義を有してゐる。即ちこの點より上の振動數を有する音のみよりなる合成音は、此點より下の音のみよりなる合成音と同じ大いさを有してゐる樣に思はれる。センセーションレベルの値の小なるもの即ち強度の弱いものにあつては、第七圖に見る如く振動數の高い範圍のものを含む音も、低い範圍のものを含む音も同樣の傾斜を示してゐるのが分る。之によれば強度の弱い音であつては刺戟の數が強度に比例し一定の法則が保たれてゐる事を示してゐる。然し強度の大なる音では、第五圖に示す如く兩曲線の傾斜は一方に偏してゐるのが見られる。即ち最早刺戟の數と強度との間には何等一定の方則が保たれなくなつて了うことを示してゐる。

振動數の低い範圍のものよりなる音は、相互の強度が增加したる時には、振動數の高い範圍のものより成る音よりも、音の大いさは急激に增加する。故に第五圖、第六圖及び第七圖に示す如く、High pass filter の音と、Low pass filter の音とが同じ大いさに聞こゆる點、即ち兩曲線の交點は強度が增すに從ひ振動數の低い方にその位置を變へるのである。圖に於いては試驗された音に對して、交點の振動數は、二二センセーションレベルのものが一、三〇〇であり、四三センセーションレベルのものは一、一〇〇であり、七〇センセーションレベル

第　六　圖



第　七　圖



のものは八〇〇の點にその位置をかへてゐる。センセーションレベルの高い音にあつては、兩曲線の交點は五十パーセントの代りに二五パーセント近くに存在してゐる。換言すれば合成音とそれよりある範圍の振動數を消去したものとが、同じ大いさの音に聞える爲には、合成音は四分の一にその強度を低下しなければならない。又一方の範圍の振動數の音に、他方の振動數の音を加へることは、音の大いさの點より見て、原音の四倍の大いさになるまで、別々に兩方の音の强度を上げることと同樣の結果となる譯である。

之等の種々なる音の大いさに關する性質は、人間の耳の構造により影響されること少くはない。一般に中耳の構造は直線的なものでなく複雜な形をしてゐる故に、音の傳達に大なる影響を與ふるものであるが、此處には省略して、他に機會があれば說明することとする。

（四）音階單位

前項に於いて音の振動數の單位に就いて、少しく觸れる所があつた故に、此の項では詳細に說明したいと思ふ。

耳に感ぜられる音の振動數の物理的刺戟と神經に與ふる感覺の間にも、ウエーベル、フエヒネルの根本法則（第一章參照）が適用される。一般に耳に感ぜられる音のピツチ（この場合に使用せるピツチなる語は、音樂的な意味に於ける謂であつて、物理學上に云ふ音のピツチを指すものではない）と振動數との間には一定の關係がある。この關係を示すと振動數をば對數値で表はしたものがピツチとなる。即ち音の振動數はピツチによつて表はされる。

音樂に於いては之等の振動數は、音譜表上の記號の位置によつて定められる。聽感覺に於ける以上のものの量的關係を明示すると

$$p = A \log f/f_0 \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (7)$$

(7)式に於いて、pはピツチ、fは表はさんとする音の振動數、f_0は比較の標準となる振動數であつて、音の大いさの測定の場合と同じく標準として千サイクルの音が撰ばれる。Aはある常數である。若し振動數fがキロサイクル kilo cycle で示さるならば、f_0は一となり(7)式は、

$$p = A \log f \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (8)$$

となる。

音のピツチを測定するに用ふる最も普通の單位は、音樂に於いて使用されてゐるオクターヴ Octaves である。即ち對數の底が二となれる場合のものである故、之を書き表はすと、

$$p(\text{Octaves}) = \log_2 f(\text{Kilo cycles}) = 3.32 \log_{10} f \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (9)$$

(9)式は(8)式の形を變化したものに過ぎない。標準として撰ばれたピツチ即ちf_0は、音譜上の "high c" に相當する。半音階に於けるピツチの一段階は總て半音に等しく、十二分の一の振動數比に相當する。音樂記號より容易にピツチ數に書き直し得る樣示したものが次の第五表である。

一オクターヴの百分の一のピツチの單位のものが、實際使用上最も便利であることが測定の結果發見せられた。この單位は理論的にはセンチオクターヴ Centi-Octave と呼ばれる。之れは半音の八分の一に略々等しい値を持つてゐる。

第五表

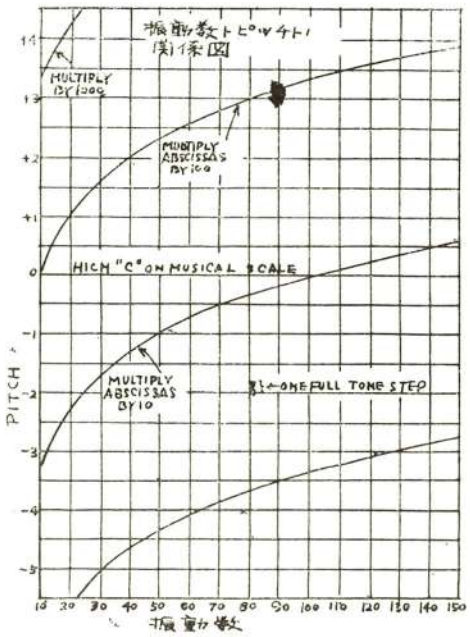
半音階表

音樂記號	ピツチ
C^3	0.066
C#	0.149
d	0.232
d#	0.315
e	0.398
f	0.482
f#	0.566
g	0.649
g#	0.732
a	0.816
a#	0.899
b	0.982
c^4	1.066

$a''' = 1760$ cycles/sec

この表に示せる音階より一のオクターヴ上位のもの及び下位のものは、この表の數に一を加へるか一を引けば得られる。

ピツチから振動數へと、又振動數からピツチへと容易に知り得るために、(9)式の關係を圖示すると第八圖が得られる。

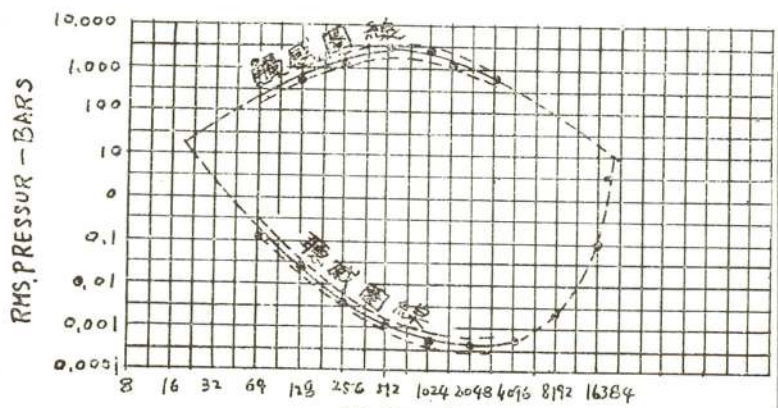


第　八　圖

（五）聽覺限界

ある音の強度が次第に弱められると、遂には最早何等の刺戟を聽覺に與へなくなる。かくの如く全く聞こえない音から、丁度聞こえ始めた音の強度をば Threshold of audibility 聽感閾と呼んでゐる。之れは音の低い方の聞こえ始めを名付けたものであるが、反對にある音の強度を次第に強めて行くと遂には觸感を刺戟するに到る。この點の強度をば Threshold of Feeling 觸感閾と呼んでゐる。之より強度の大なる音は耳に痛みを感ぜしめるか、耳に故障を生ぜしめるものである故にこの觸感閾の音が人間の耳で聞こゆる音の強度としては最上のものとせられる譯である。

同樣のことが音のピッチにも云へる。ある音の強度を一定に保ちそのピッチをば次第に高め、又低めると遂には何等聽覺をば刺戟しない樣になるものである。音のピッチのみに就いて研究せるものはあつたがピッチと強度とを結び付けてその相關々係を說明せるものは今迄になかつた樣であるが、最近に到つてアメリカの電話工學の發達と共に遂に之が研究は成されたのである。



第　九　圖

聽感閾に對する種々なる實驗の結果を綜合したものが第六表に示された値である。

第　六　表

振動數	64	128	256	512	1024
音波の壓力(bars)					
工率(watt×10⁻¹²)	.12	.021	.0039	.0010	.00052
振動數	2048	4096	8192	16,384	18,570
音波の壓力(bars)					
工率(watt×10⁻¹²)	.00041	.00042	.0025	.13	4.1
	.00042	.00042	.015	41	400 000

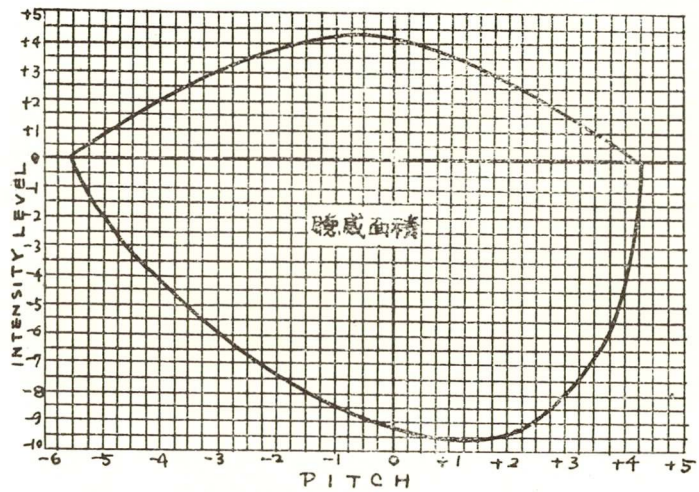
第六表に示せるものを圖に示せるが第九圖である。

各點を結んだ曲線は滑かではあるが、之れは實驗せる多くの人々の結果の平均をされるものであつて、個人に就いて云ふ場合にはかくの如く滑かな曲線には決してなり得ないものである。平均値を出すために使用された各個人の曲線では、ある振動數に於いては二十デシベル近くも平均値とは離れた點もある、即ち各個人はその人特有の聽感覺を有せるものである故に、ある音樂を聞いたとしてもそ

の音樂が人々に與える感覺は、各個人によつて異なるものであることが云ひ得られる。

第六表に示せる結果によれば、一分間の大氣壓の變化が　若し人間の言語音と同じ速さで變化するならば人間の耳でそれらの變化が聞き分けられることを示してゐる。大氣壓は約一、〇〇〇、〇〇〇 bars ある故に、若し大氣壓が一兆分の一變化しても耳で聞き分けうるし壓力で一パーセントの變化を生ずる音でも、耳の器關を害する程強いものである。

前項に述べたピツチスケール及び、第一章のインテンシテイレベルを使用して、聽感面積 Auditory sensation area が得られる。第十圖は第九圖に於ける聽感面積圖をばピツチ及びインテンシテイレベルによつて示せるものであつて、別に異なるものではない圖中の下の曲線は耳に聞こえ始めの音の各ピツチに於けるインテンシテイレベルの値(α_0)を繼ぎ合はして出來た曲線である。上部の曲線は耳に痛みを覺える音、即ち觸感を感ずる音のインテンシテイレベル(α_m)をば繼ぎ合はした曲線である。若し之等の曲線をばエネルギースケールで云ひ換ふれば對數値をとらない値で示すなら上部の曲線近くに於いて認め得る最小量のエネルギーの增加 ΔE は、下部の曲線に於ける同樣の ΔE の百萬々倍も大きい値となる。故にインテンシテイレベル及びピツチのスケールを使用して始めて聽感面積圖の表現は容易となるし且つ又最小量の增加 ΔE の大きさが略々一定に保たれる譯である。



第　十　圖

第九圖及び第十圖に示せる上部曲線は、即ち觸感圈線は四十八人の普通聽力を有する人々によつて得られた結果であつて、同樣の測定器が聽感圈線の測定にも使用された。兩曲線が互に交叉する迄それらの曲線は延長せられたものである。

之等の曲線より、各音のピツチが變化してその强度が一定に保たれた場合、それらの音が聞こえなくなるピツチの最高及び最低限界は、全く音の强度に依るものであることが分る。若しその音の强度が聽感圈上のものであると同時に觸感圈上のものであれば、兩限界は一致する。之等二つの曲線は强度及びピツチに於ける聽覺限界を示すものである。第九圖に示せる點線に狹まれた部分の曲線は、信賴するに足る程の多くの結果が得られないものであつて、大體曲線が點線の間に存することを示すものである。各人の聽覺はピツチの高いものに到つては非常に廣い範圍に亘つて變化するものであるのに對して實驗回數は良き結果を得るには少數であつた。

兩曲線によつて圍まれた部分内のあらゆる點は、その點に相當したピツチと强度との感覺を與へるものであり、その部分外即ち聽感面積外の點の純粹音のピツチと强度とは最早何等の聽覺をば與へないものであることは論を俟たない。（未完）

社團法人日本建築協會會報

會報

一、婦人と住宅に關する展覽會開催の件

別項會告の通當協會恒例事業の一として今夏八月下旬を期し『婦人と住宅に關する展覽會』を市内大丸に於て開催せん計畫にて目下總務部、住宅出品部實物出品部、建材出品部、興味中心及陳列出品部の各部に分擔して着々準備を進めつゝあり

一、大阪府劇場、寄席、觀物場に關する規則改正意見建議の件

今回右の件に付第一部(法制)委員會より調査研究結果報告あり常務會の決議を經て左の通當局へ建議をなしたり

大阪府劇場、寄席、觀物場各取締規則改正に關し建議

當協會に於て大阪府劇場、寄席、觀物場各取締規則に關し調査研究の結果左記の通改正の必要可有之と存じ茲に改正意見を具し及建議候也

昭和五年七月十二日

社團法人日本建築協會會長理事

工學博士　片岡　安

大阪府知事柴田善三郎殿

左記

大阪府に於ける劇場、觀物場、並寄席の各取締規則は明治二十九年乃至三十七年に制定せられたるものにして其後二三回に亘り一少部分の改正を加へられたるもこれ全く枝葉末節の改正に過ぎず其根本は三十餘年前のもの其儘にて何等改正せられたることなし然るに大阪府市の現狀を視るに總ての文化の度が過去數十年間に於て進歩發達を遂げたるは何人も之を認むる處にして就中建築物の構造等の如きは其最も著しきものあるのみならず諸興行の如き其内容狀態も亦甚しき變化を來たせる事は事實が之を證明せり

惟ふに現在大阪府劇場其他興業場に對する取締規則は其構造設備等に於て木造建築物を主眼として制定せられたるものなることは明かなる處にして耐震耐火構造の進歩したる今日に於ては世の進運に伴ひ根本的改正を加へ時代に適應したる取締方法を講ぜられんことを切望する次第なり

改正の根本方針に付左の通其趣旨を述べ及建議候

記

一、劇場、觀物場、寄席の各取締規則は之を總括して興行場取締規則として制定すること

一、大小劇場の區別及數の定限は之を撤廢すること

一、現行取締規則は建築物の構造制限と營業に關する制限とを合一して制定しあるも之は各々別個に制定すること

一、興行場取締規則は市街地建築物法と連鎖を明瞭にし出願手續の統一を計ること

一、興行場の新設に付ては建設の位置、興行の種類、定員數略平面圖等建築構造の概要を記載し興行場としての適否を判定し得る極めて簡單なる書類に依り許可を願出て得ることに改むること

建築認可申請は右新設の許可を受けたる後更に之を爲し得ることに改むること

一、興行場の餘地に關する從來の規定は嚴に過ぐるを以て之を緩和すること

一、現行取締規則は木造建築を主眼として制定せられあるを以て耐震耐火構造になるものに對しては特に考慮せられたきこと

理由

一、元來興行場に對する構造の取締は其收容人員數によりて緩嚴を付すべきものにして興行其ものゝ種類によりて甚しき差異あるべきものにあらず然るに現行劇場取締規則と觀物場取締規則(臨時的のものを除く)とを比較對照するに劇場取締規則に於て重く觀物場取締規則に於て稍輕きが如し然れども建坪數或は觀客收容人員數に於て觀物場が劇場以上なるものあることは事實なりされば取締の趣旨が保安、衛生、風紀にありとせば劇場なるが故に重く觀物場なるが故に輕しとする理由なきものゝ如し故に劇場觀物場、寄席等の區別を廢して興行場取締規則と一括し構造制限は收容人員數に應じて適當に制定することが最も至當なる方法と信ずる次第なり

二、現行規定は劇場にありては建坪數二百坪を限界として大小劇場の區別をなし同時に之が構造制限に等差を附しあるも建坪數の大小は必ずしも收容人員の多少を示すべきものにあらず小なる建坪數のものと雖階數多きものは寧ろ多人數を收容し得る例普通なる故に構造制限は其收容人員數に應じて等差を付すべきものと考ふ

又大阪市にありては大劇場は十五ケ所小劇場は三十五ケ所と數の制限あるも其面積人口其他總ての點に於て著しく膨脹せる今日の大阪市にありて尙如斯數十年以前其儘の數に制限せられあるは時代に適應せざるものと思料す元來之が數を限定せられたるは劇場は最も多數の觀客を收容する公衆用建物として可なり重き制限を加へられたるを以て其數を限定し之が營業を保護せるものと思料せらる然れども今日に於て總ての建築物は相當重き法規の制限に隨はざる可らず故に劇場に限り數を以て既設のものを保護する必要なく從て數の制限は之を撤廢することが時代に適せる所置と思料す

三、現行取締規則は木造建築を主眼として制定せられしものなるが故に其餘地の如き甚だ廣きに過ぐ其他建築構造が著しく進化し完全なる耐震耐火的構造

の施工せらるゝ今日に於ては之を充分考慮して適當に改定せられんことを切望する次第なり

會合

第一部委員會主査會

日時　六月二十三日午後五時三十分―同九時三十分
會場　大同ビル　ライオン食堂
出席者　今林彦太郎、加藤善吉、高木眞太郎
記事一、第二分科より報告に係る大阪府劇場、寄席、觀物場各取締規則政正建議案に付五月二十日開會の委員總會に於て審議を一任されしを以て本夕會合の上建議案を愼重愼議をなし別紙の通修正を施し議了す（別紙略）
一、修正案は會長に報告することに決定す

婦人と住宅覽會幹事會

日時　六月二十六日午後五時三十分―同九時
會場　旭堂
出席者　委員長　宗　兵藏、副委員長日高　胖
幹事　坪井　誠一　岡部　顯則　小川安一郎　松本　儀八　阪井　米吉　德政　金吾　本間　乙彦
記事一、宗委員長座長となり幹事會開會の旨を宣す
先づ計畫に關する委員會の經過報告あり大體其計畫により準備を進めて行くことに決定
一、會場陳列計畫案に付協議し一部修正を加へたり
一、各部の豫算編成に付協議す
一、各部に於て委員增員依囑するに付ては其氏名を各幹事より來る三十日迄に總務部へ通知することに申合せをなす
一、小川幹事の發議に依り懸賞募集をなすことを協議し、審査員、題目、賞金等考慮して七月號雜誌に規程等發表することとなる

六月例會

日時　六月二十八日午後二時―同四時
見學場所　帝キネ長瀨撮影所
出席者　今林彦太郎氏外壹百參拾名概記一、前日來の梅雨に當日は天候如何にと氣遣ひしが幸朝來の晴天に午後二時を期し大軌沿線長瀨停留所より約二丁半の個所にある帝國キネマ演藝株式會社撮影所を指して集る會員壹百餘名直ちに休憩所（職員の食堂を臨時休憩所に當つ）に案内され橋本組より寄贈の冷コーヒ及菓子に涼を取り休憩
一、午後二時十五分中元總務部長及帝キネ職員の案内により見學を開始す
先づ模擬の東京風町筋を通りトーキー撮影室（目下作成中）の外觀を見て撮影所（橋本組建築）内部に入り其建築及舞臺裝置其他を見學し次でセット（牡丹燈籠の一場面）を見てフイルム製作室に行き見學
次に室外に出て會員一同及男女優と共に記念寫眞を撮り試寫室に入り『海軍の一日』の試寫を觀覽し、溝外にある『セット』（曲馬團の紛れ一場面）を見學し解散せり
一、本日の見學者數は申込數より多少減したるも百三十餘名を算し帝キネ側及橋本組の御斡旋は感謝に堪へざる所なり

第三部委員總會

日時　七月四日午後五時三十分―同八時
會場　大同ビル　ライオン食堂
出席者　幹事、須川廉太郎、森本藤吉
第一分科　大澤　幸平、堤垣　寬、谷口德政（代）　渡部　圭吾　龜井義松（代）
第二分科　白石登喜男、淺原　眞一、三宅重二郎
第三分科　高岡興三吉、長井杏四郎、
第四分科　田阪吉二郎（代）
第五分科　林　好雄、藤村　愛衣、久保田國太郎、
第六分科　日本水道（志村）　須賀藤五郎（代）　伴　秀雄、阪井米吉
第七分科　芝田知重、須賀商會（中島）
第八分科　呼子　正、角尾篤彦、家具指物新聞社（中村）淺海商店
記事一、六月二十七日開催の當部主査會に於て申合せの通り七月十八日の定例日に於て今年度上半期の調査研究事項を一先づ委員長に報告するに付、資料カードの整理並作製に關し種々協議をなす
一、次回定例委員會には各分科の資料カードを委員分擔し持寄ることを申合す

常務會

日時　七月十日午後五時三十分―同七時
會場　本協會會議室
出席者　理事　片岡　會長、宗　副會長　古宇田副會長
常務　小川　主記、木村　主記　吉井　主計、山脇　主計　松本　編輯、高橋　編輯　篠原　編輯、
報告一、六月分會報告
一、婦人と住宅に關する展覽會に付經過報告
一、六月例會撮影所見學に付報告
一、第三部（資料）委員會委員長に關する件報告
議事一、七月例會に關する件
一、第一部委員會より報告に係る大阪府劇場、寄席、觀物場各取締規則改正意見建議の件
一、會員詮衡
一、其他

第四部委員會

日時　七月十日午後五時三十分―同九時
會場　江商ビル地階太湖食堂
出席者　第一分科　池田宮彦、秋田喜代

治、黒田　茂、中島智喜、三浦
尙史、渡部圭吾
第二分科　加藤善吉、光安傳之助
記事一、鐵材鎔接の研究者にして落藤委員の知人（某海軍工廠勤務）あり同委員より同氏に鎔接に關する一場の講演を依頼すること期日は成る可く九月廿日前後とし此の講演は當協會にて開催するか又は第四部委員會にて開くか何れにても可なるも成る可く多數聽講すること
一、鎔接の實驗の右の講演を聽きたる後必要なれば行ふこと
一、加藤委員より都市計畫の防火地區に關する最初の計畫を說明せられたり
一、三浦委員より昨今實驗中の丸鐵棒鎔接强度の成績並に供試材を示さる
一、當委員會は八月は休み九月は廿日前後に開催すること

第五部　第一、二分科會

日時　七月十四日午後五時三十分—同九時三十分
會場　住友倶樂部
出席者
第一分科　淺野　金藏、佐々木莊一、德政　金吾、南　信、渡邊　金藏、
第二分科　岩尾　保衛、魚田　常治、小林　三造、酒井勇三郎、
記事一、神戸海洋氣象臺堀口博士に次回第五部委員總會に御出席を願ひ家相と氣象（主として風向）に關する御說明並御意見を聽取する事を申合す
一、前回優秀なるものとして選出せし四葉の平面圖に關しては一先づ修正を打ち切り委員會成案の一として保留することを申合す
出席者
第一分科　加藤　善吉　小川安一郎
第二分科　高木眞太郎　石川　寬三
小川　久市　久保田　廉
佐藤松太郎
第三分科　島田　良馨　山中　茂一
記事一、今林委員長欠席に付高木主査座

會告

婦人ト住宅ニ關スル展覽會開催

本協會は住（ママ）築知識普及ノ爲毎年市內大丸ニ於テ展覽會ヲ開キ好成績ヲ得タリ、今夏引續キ**婦人ト住宅ニ關スル展覽會**ヲ左ノ通開催セムトス冀クハ本協會々員諸彦ノ熱誠ナル御後援ト懇切ナル御贊助ニ依リ本展覽會ヲシテ益々有意義ナル事業タラシメムコトヲ切望ス

一、會　場　市內心齋橋大丸五階
一、會　期　八月二十六日　自午前八時半
　　八月三十一日　六日間　至午後九時
一、開場時間　每日

昭和五年八月

社團法人　日本建築協會

一、本日各委員より提出せられたる住宅間取平面圖（二十四通）は各委員に於て順次回覽し意見を書き添へる事とす

第一部　委員會

日時　七月十五日午後五時三十分—同九時
會場　大同ビル　ライオン食堂
長となり、昨年末研究を終り委員長迄報告しありたる大阪府劇場、寄席、觀物場各取締規則改正に關する建議案は去る七月十日開會の常務會に於て該案を審議の上無事通過し、七月十二日付を以て府知事へ建議の手續を取りし旨報告せり
一、夫れより道路と建築物との關係に付府市の法の取扱に關し疑義ありとて實例を以て意見の交換をなす

婦人と住宅に關する展覽會幹事其他打合會

日時　七月十六日　午後五時三十分—同九時
會場　住友倶樂部三階集合室
出席者　大丸側委員　安田孝次郎、刀根啓祐、西松春三、舟越淳一、丹羽剛
婦人側委員　井上操、中村久榮寺田公子、
委員長　宗　兵藏、副委員長日高胖、
幹事　坪井誠一、岡部顯則、小川安一郎、松本儀八、阪井米吉、德政金吾、本間乙彦、池田谷久吉
記事一、宗委員長　大暑の折柄且御多忙中の御出席を謝し一場の挨拶をなす
一、各部幹事より各部の經過報告をなす
一、大丸側委員の挨拶並希望
一、婦人委員との意見交換
一、更に今後の方針等に付種々協議をなす
一、第三回幹事會を八月二日開催する事を申合す

第三部　委員總會

日時　七月十八日　午後五時三十分—同八時

會場　大同ビル　ライオン食堂

出席者　幹事　須川廉太郎　森本　藤吉
第一分科　谷口　德政
第二分科　河合　好吉　梶田　豐治
第三分科　山田　初次　黒田利兵衛
長井杏四郎　高岡與三吉
第四分科　三木　一二
第五分科　林　好雄
第六分科　阪井　米吉　日本水道株式會社　城口　龜吉
須賀藤五郎　伴　秀雄
第七分科　眞保　義一
第八分科　呼子　正

記事一、各分科に於て今日迄調査研究を遂げたる結果として上半期分の資料カードの整理をなしたり

一、八月中は例年に做ひ暑中を休み九月第三金曜日より委員會を開催することを申合す

入會者

普通賛助員

石川禎一郎君　北區澤上江町六丁目桐之荘（白陽工務店）

吉川時三郎君　港區抱月町三丁目五（竹中工務店大阪製作所）

林　好雄君　港區九條中通目丁目二九六武山氏方（三機工業株式會社大阪支店）

須賀豐治郎君　兵庫縣武庫郡精道村打出翠ケ丘

藤本櫃四郎君　（株式會社須賀商會）東區元伊勢町九五六（龜井商店裝飾部長）

梶田　國次君　西淀川區野里町（建盛商會）

高戸　紀綱君　東成區森小路町六丁目一二（三機工業株式會社大阪支店）

廣瀨　貞達君　明石市相生町一丁目六八ノ一（建築業自營）

上田　俊雄君　天王寺區大道一丁目三五（福井組）

古田　敬德君　此花區春日出町上五丁目二九（大阪製鎖所）

轉勤轉居

會員

小川　陽吉君　天王寺區大道一ノ七（電天一六五二）

横濱　勉君　西區京町堀一ノ四〇　阪口建築事務所内

上東　辰澄君　大阪府下布施町永和三六三

會員（地方在住）

萩一郎君　東京市外杉並町阿佐ケ谷二三一

木田　延衛君　東京市外井荻町下荻窪二八九

井出　松藏君　岡山縣倉敷市外酒津倉敷絹織工場增設工事場大林組出張所

渡部　憲君　東京市麹町區内幸町大阪ビル日本電力株式會社

石井　勇君　東京市牛込區東五軒町三五

山本勝次郎君　長崎市立山町一〇三

菱田　厚介君　東京市外碑衾町衾二四七六

舟橋　喜一君　東京市芝區櫻田本郷町交叉點内田ビル舟橋建築事務所

普通賛助員

多賀　悌三君　神戸市六甲村高羽縣公舍九號

角野　孝君　堺市市之町東四丁一一

前田佐太郎君　大阪府三島郡千里村字天道

佐々木俊一郎君　松山市大字持田字高具四一八ノ五

有隅千代松君　福岡市谷鰕谷二九八

細川　正君　香川縣高松市内町高松百貨店新築工事大林組高松出張所

逝去

終身賛助員辰巳吉之助氏昭和五年七月二十日逝去セラル寔ニ哀悼ニ堪ヘス茲ニ謹テ弔意ヲ表ス

常務、會員吉井長七氏昭和五年七月二十七日午前零時二十分逝去セラル寔ニ哀悼ニ堪ヘス茲ニ謹テ弔意ヲ表ス

寄贈雜誌

電氣評論　毎號　其　社
都人　毎號　其　社
學士會月報　毎號　學士會　社
建築世界　毎號　其　社
朝鮮と建築　毎號　朝鮮建築會
セメント界彙報　毎號　日本ポートランドセメント同業會
住宅　毎號　住宅改良會
建築雜誌　毎號　建築學會
工政　毎號　其　會
建築新潮　毎號　洪洋社
大阪工業倶樂部　毎號　其　部
通俗衛生　毎號　大阪府衛生會
帝國鐵道協會報　毎號　其　會
工業評論　毎號　其　社
電氣學會雜誌　毎號　其　會
鐵道軌道經營資料　毎號　鐵道同志會
趣味ノ園藝　毎號　關西園藝會
工業ト社會　毎號　東京工業會
工業　毎號　大阪工業會
滿州建築協會雜誌　毎號　其　協會
庭園と風景　毎號　日本庭園協會

圖書室月報　毎號　東京市政調査會
エンヂニヤリング　毎號　其　社
工業要錄　毎號　其　發行所
名古屋工業會々報　毎號　其　會
大阪　毎號　大阪都市協會
都市問題　毎號　東京市政調査會
新建築　毎號　其　社
京都の實業　毎號　京都商工會議所
都市創作　毎號　其　會
木材彙報　毎號　大阪木材協會
建築學研究　毎號　其　會
大阪土木建築業組合報　毎號　其　組合
木材新聞　毎號　關西木材商報社
工業新聞　毎號　其　社
日本建材新聞　毎號　其　社
日本建築士　毎號　其　會
インターナショナル建築　毎號　其　會
東洋建材時報　毎號　其　社
朝鮮鐵道協會會誌　毎號　其　協會
超科學　毎號　大阪網島工業會
建築業協會々報　毎號　其　協會
建築畫報　毎號　其　社
土木建築工事畫報　毎號　其　社
日本美術協會報告　毎號　其　社
法律時報　毎號　日本評論社
土木建築　毎號　其　社
土木建築材料商報　毎號　其　社
塗料　毎號　日本ペイント株式會社
塗工の友　毎號　其　社
關西園藝　毎號　其　社
臺灣建築會誌　毎號　其　社
建築紀元　毎號　構成社書房
建築　毎號　中央建築會
經濟資料　毎號　東亞經濟調査局
建築土木材料　毎號　建築資料協會
國立公園　毎號　其　社
國際建築　毎號　其　社
工事畫報　毎號　其　社
網島工業會誌　毎號　其　會
產業　毎號　其　會
駿工　毎號　其　會

役員

會長　理事　評議員　片岡安
副會長　理事　評議員　古宇田實
副會長　理事　評議員　宗兵藏
監事　評議員　池田實
顧問　評議員　横濱勉
常務　評議員　岡部顯則
常務　評議員　小川陽吉
常務　評議員　木村寛一
常務　評議員　篠原太郎
常務　評議員　高橋榮治
常務　評議員　坪井誠一
常務　評議員　本間乙彥
常務　評議員　松本儀八
常務　評議員　山脇友三郎
評議員　池田谷久吉
評議員　伊藤幸太郎
評議員　小笠原鋼
評議員　岡本新次郎
評議員　籠田定憲
評議員　久保田肇雄
評議員　小西一良
評議員　酒井勇三郎
評議員　阪井米吉
評議員　下浦光衛
評議員　芝田知重
評議員　須藤隼人
評議員　武田經一
評議員　高田利一郎
評議員　德政金吾
評議員　中村義雄
評議員　永田三次郎
評議員　原科準平
評議員　日高胖
評議員　姫野武
評議員　增山新平
評議員　牧野利秋
評議員　前内文二郎
評議員　村上徹一
評議員　森本藤吉
評議員　山下豐三郎
評議員　山田初次
評議員　山中茂一
評議員　渡部圭吾
評議員　和田貞治郎

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	五拾錢	貳錢
十二冊	六圓	貳拾四錢

昭和五年七月廿七日印刷（毎月壹回）
昭和五年八月一日發行（一日發行）

兵庫縣武庫郡今津町今津字浦風五十六番地
發行兼編輯人　鷹取陽

大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷所　大阪活版所

大阪市西區土佐堀通一ノ一
大同ビルヂング
發行所　社團法人　日本建築協會
電話土四二六五番
振替口座大阪三九、九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ
振替又は爲替にて前金御拂込被下度
候